
**観音寺市 男女共同参画に関する
市民アンケート調査**

－ 報告書 －

令和5（2023）年3月
香川県 観音寺市

～ 目 次 ～

I 調査の概要	1
II 回答者の属性	2
1 性別	2
2 年齢	2
3 未既婚	3
4 共働きの状況	4
5 職業	5
6 家族構成	6
7 未就学児の有無	7
III 調査結果	8
【1】家庭生活について	8
1 家庭内の仕事の分担状況	8
2 1日のうち家事や育児、介護に費やす時間	10
3 仕事や家庭、プライベートの優先度	11
【2】仕事や職場のことについて	15
1 就労状況	15
2 職場における男女間の格差	16
3 男女間の格差に対する考え方	18
4 管理職への登用希望	19
5 管理職へのイメージ	20
6 女性の管理職を増やすときに障害となること	22
7 育児休業や介護休業の取得状況	24
8 働きやすい社会環境をつくるために必要なこと	27
【3】男女の平等意識について	29
1 男は仕事、女は家庭という考え方について	29
2 男女の平等意識	31
3 アンコンシャス・バイアスの認知	36
【4】地域での活動について	37
1 地域活動への参加状況	37
2 地域活動に参加していない理由	39
3 誰もが地域活動に参加していくために必要なこと	41
4 地域の防災において強化すべき取組	43
【5】人権や暴力の防止等について	45
1 メディアにおける表現について	45
2 セクシュアルハラスメントの認知	48
3 各種ハラスメントの経験	50
4 ドメスティック・バイオレンス（DV）の経験	55
5 DVに関する相談状況	56
6 DV防止や被害者支援として必要な取組	58

【6】男女共同参画の取組について-----	60
1 男女共同参画に関するセミナー等への参加意向-----	60
2 L G B T Qの認知-----	61
3 性的指向などに悩んだ経験-----	63
4 パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度の認知-----	64
5 男女共同参画の推進に市が力を入れるべきこと-----	65
【7】自由記述回答集約結果-----	69

資料 調査票-----	80
-------------	----

I 調査の概要

【調査の目的】

本調査は、「第2次観音寺市男女共同参画計画」（後期計画期間 令和6年度～10年度）の策定にあたり、市民の男女共同参画に関する意識や実態、問題点や意見等を把握し、施策を検討する上での基礎資料とすることを目的として実施した。

【調査対象】

18歳以上の市民

【調査方法】

郵送配布～郵送回収、インターネットによる回答

【調査期間】

令和5（2023）年2月

【回収結果】

配布数-----2,300件

有効回収数-----752件（インターネットによる回答177件を含む）

有効回収率-----32.7%

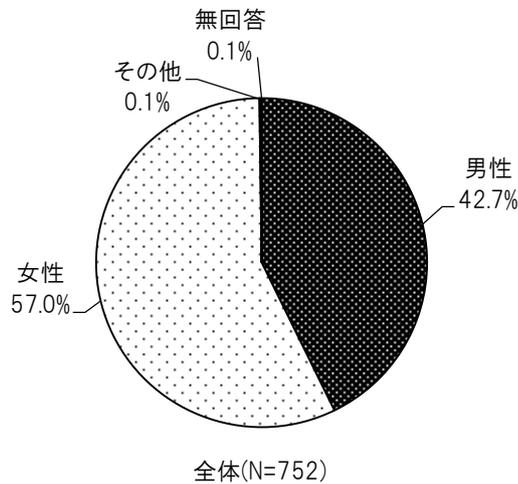
【報告書の見方について】

- (1) 集計は小数点以下第2位を四捨五入している。そのため、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。
- (2) 2つ以上の回答を可能とした（複数回答）質問の場合、その回答比率の合計は100%を超える場合がある。
- (3) 数表、図表、文中に示すNは、比率算出上の基数（標本数）である。全標本数を示す「全体」を「N」、「該当数」を「n」で表記している。
- (4) 図表中における性別などのクロス集計結果については、該当する属性等の設問に対する無回答者（例えば、性別でクロス集計する場合における性別の無回答者）を除いて表記しているため、属性ごとの基数の合計と全体の基数は同じにならない場合がある。
- (5) 図表中においては見やすさを考慮し、回答割合が極端に少ない数値（例：0.0%、0.1%など）は、図と干渉して見えにくい場合などに省略している場合がある。また、複数回答の図表中においては、見やすさを考慮し、回答割合の高い順に並べ替えて表記している場合がある。
- (6) 設問によっては、平成30年に実施した同調査との比較を行っている（時系列推移）。その際、図表等の表記は平成30年調査を「H30前回調査」と略記している。また、「令和元年度 香川県男女共同参画社会に関する意識調査」（図表等では「香川県」と表記）及び国の「男女共同参画社会に関する世論調査（令和4年実施）」（図表等では「国」と表記）との比較を行っている。
- (7) 上記のほか、個別に参照事項がある場合は、本報告書の該当箇所に適宜記載した。

II 回答者の属性

1 性別

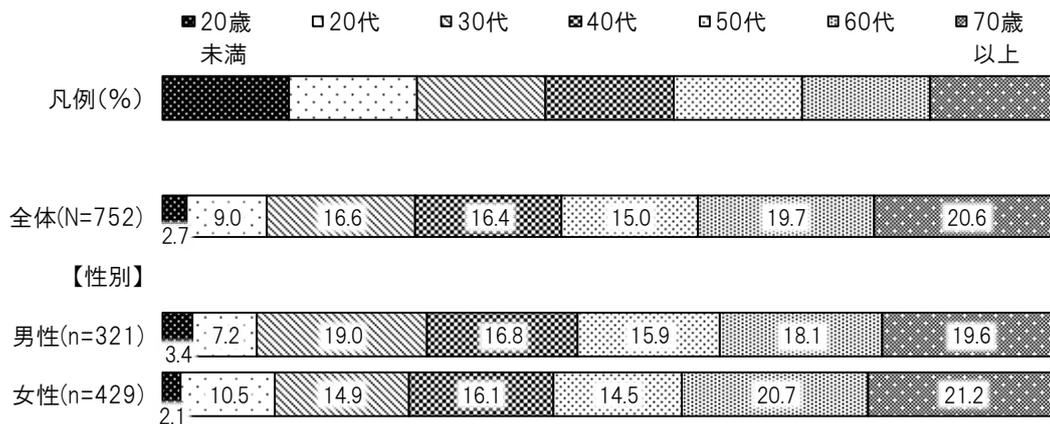
回答者の性別構成比は、「男性」が42.7%、「女性」が57.0%と、女性の割合が高い。



2 年齢

年齢別構成は、「70歳以上」の割合が20.6%と最も高く、次いで「60代」(19.7%)、「30代」(16.6%)、「40代」(16.4%)の順となっている。

性別では、男性は女性に比べ「30代」の割合がやや高くなっている。

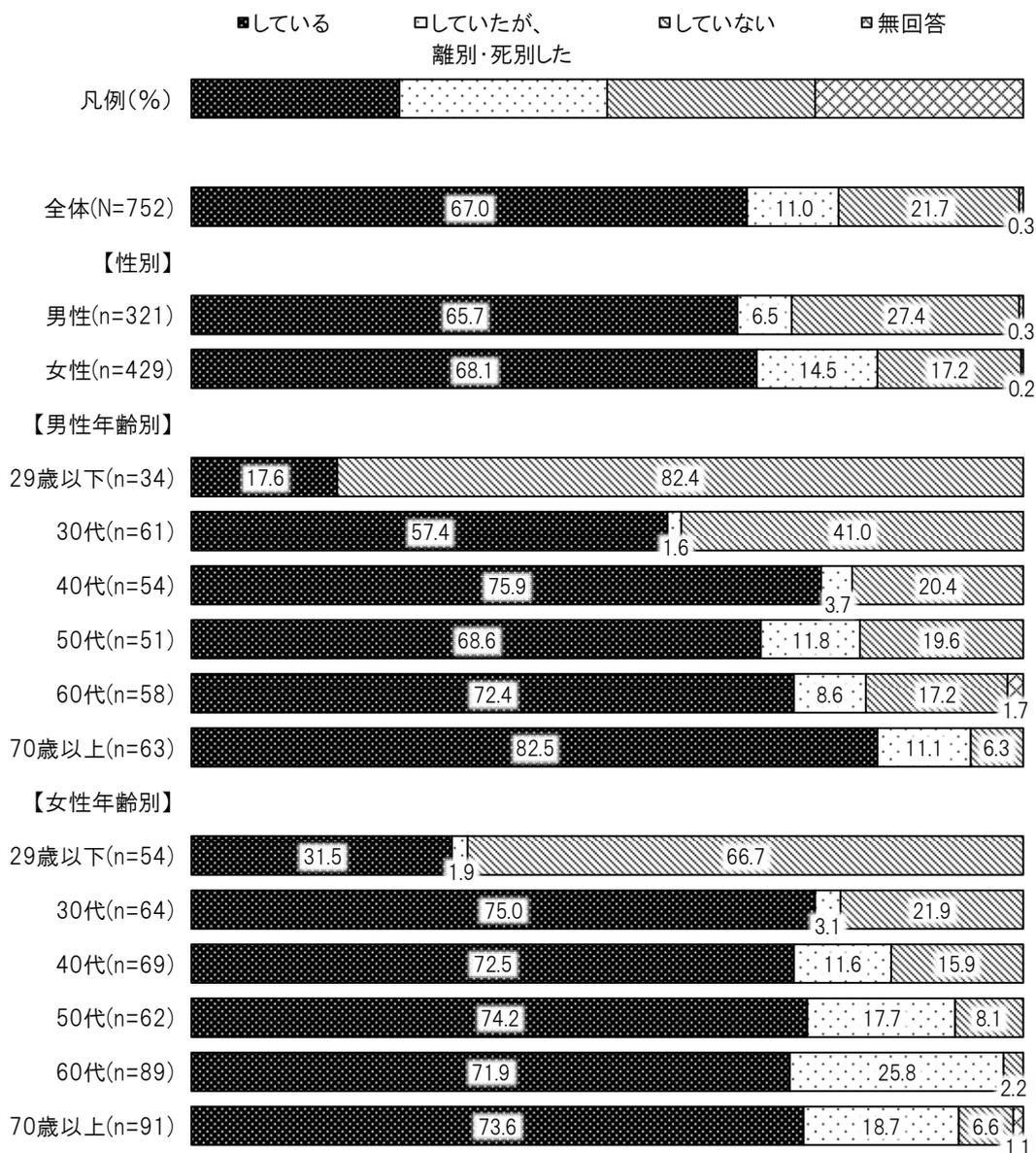


3 未既婚

結婚については、「している」が67.0%、「していたが、離別・死別した」が11.0%、「していない」が21.7%となっている。

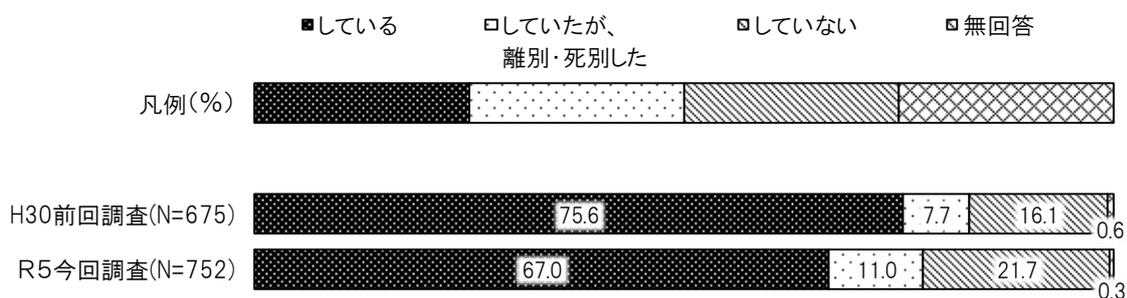
性別では、男性は「していない」の割合が女性を大きく上回っており、女性は男性に比べ「していたが、離別・死別した」の割合が高くなっている。

年齢別では、女性の60代で「していたが、離別・死別した」の割合が他の年齢層に比べて高くなっている。



【時系列推移】

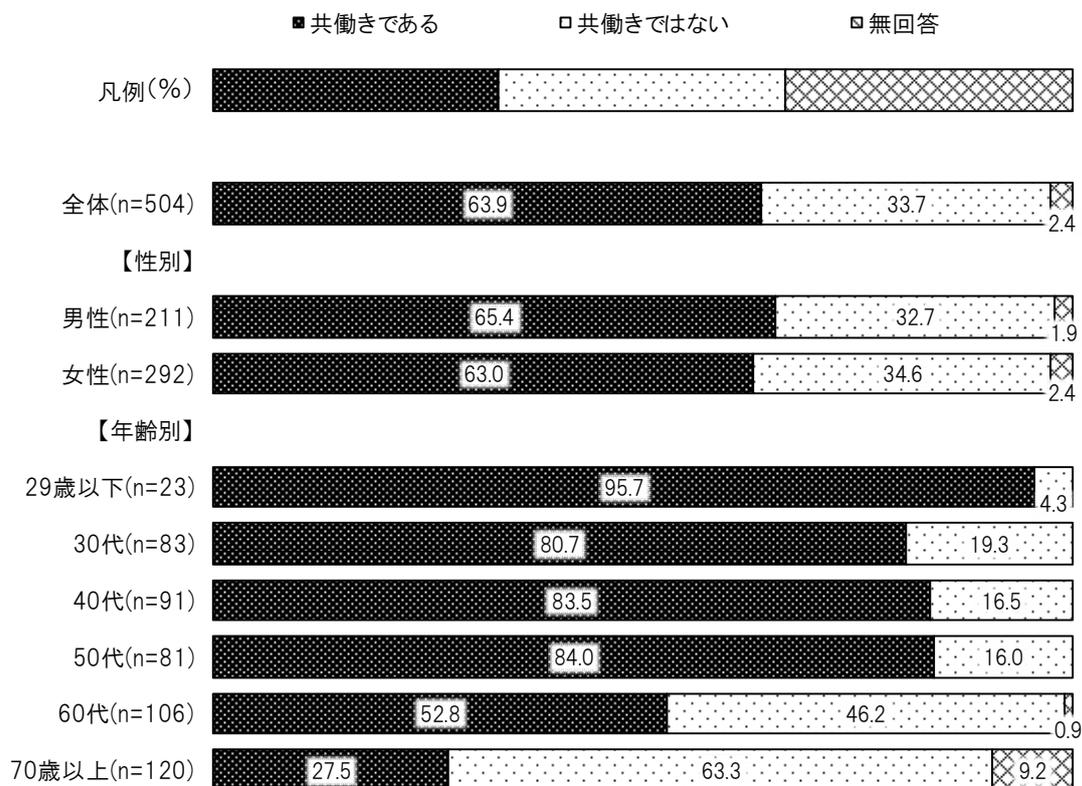
前回調査結果と比べ、「していない」が増加した。



4 共働きの状況

共働きの状況については、「共働きである」が63.9%、「共働きではない」が33.7%となっている。

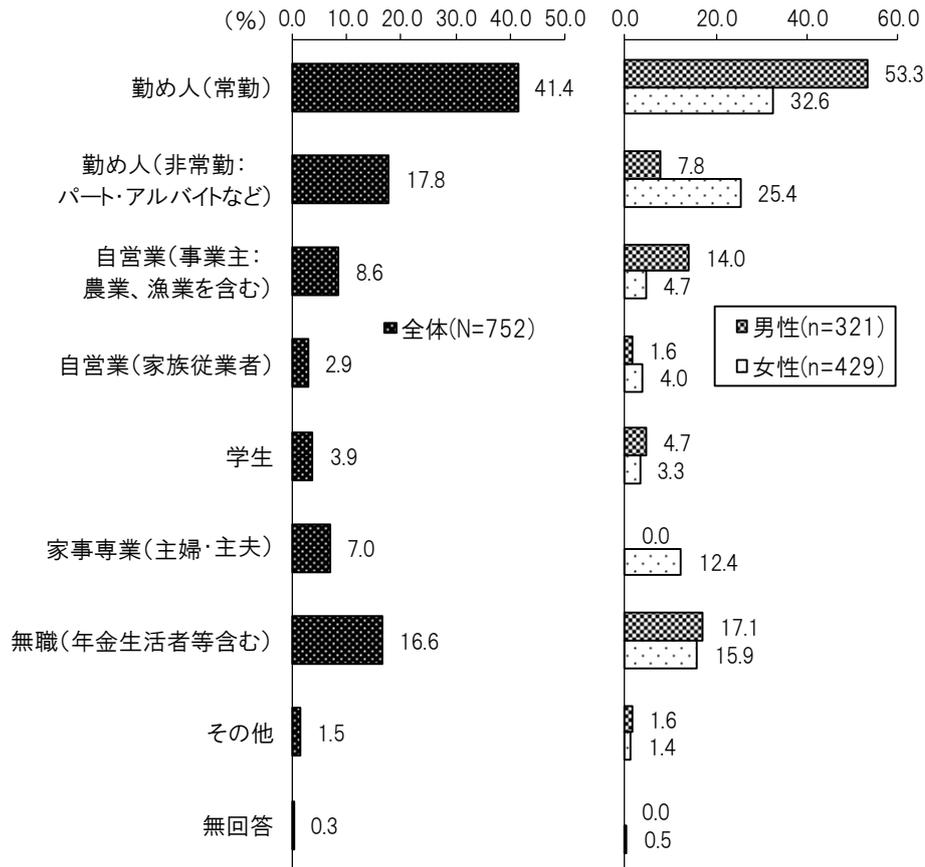
性別では大きな差はみられないが、年齢別では29歳以下で「共働きである」の割合が他の年齢層を大きく上回っている。



5 職業

職業については、「勤め人（常勤）」の割合が41.4%と最も高く、次いで「勤め人（非常勤：パート・アルバイトなど）」（17.8%）、「無職（年金生活者等含む）」（16.6%）の順となっている。

性別では、男性は女性に比べ「勤め人（常勤）」「自営業（事業主：農業、漁業を含む）」の割合が高く、女性は「勤め人（非常勤：パート・アルバイトなど）」「家事専業（主婦・主夫）」の割合が男性を大きく上回っている。

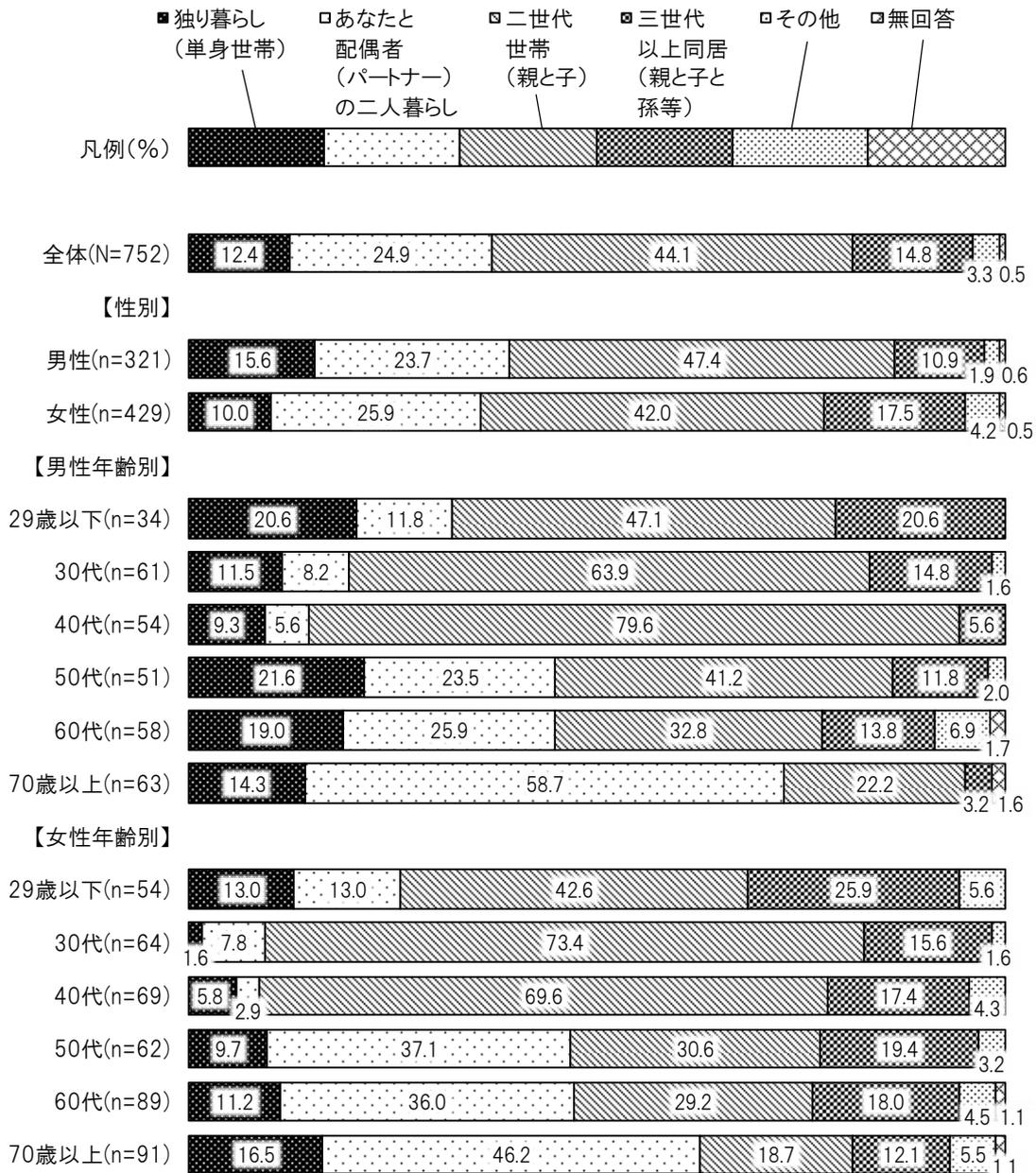


6 家族構成

家族構成については、「二世帯世帯（親と子）」の割合が44.1%と最も高く、次いで「あなたと配偶者（パートナー）の二人暮らし」（24.9%）、「三世帯以上同居（親と子と孫等）」（14.8%）、「独り暮らし（単身世帯）」（12.4%）の順となっている。

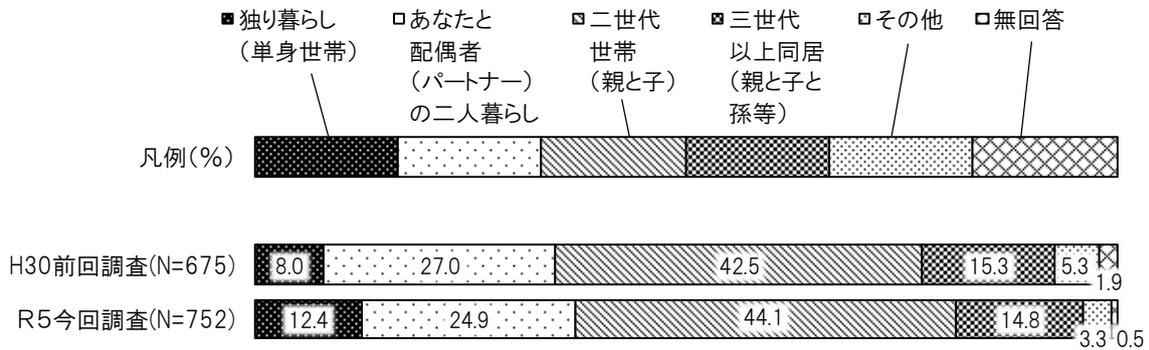
性別では、男性は女性に比べ「独り暮らし（単身世帯）」「二世帯世帯（親と子）」の割合が高く、女性は「三世帯以上同居（親と子と孫等）」の割合が男性を上回っている。

年齢別では、男女共に70歳以上で「あなたと配偶者（パートナー）の二人暮らし」の割合が他の年齢層を大きく上回っている。



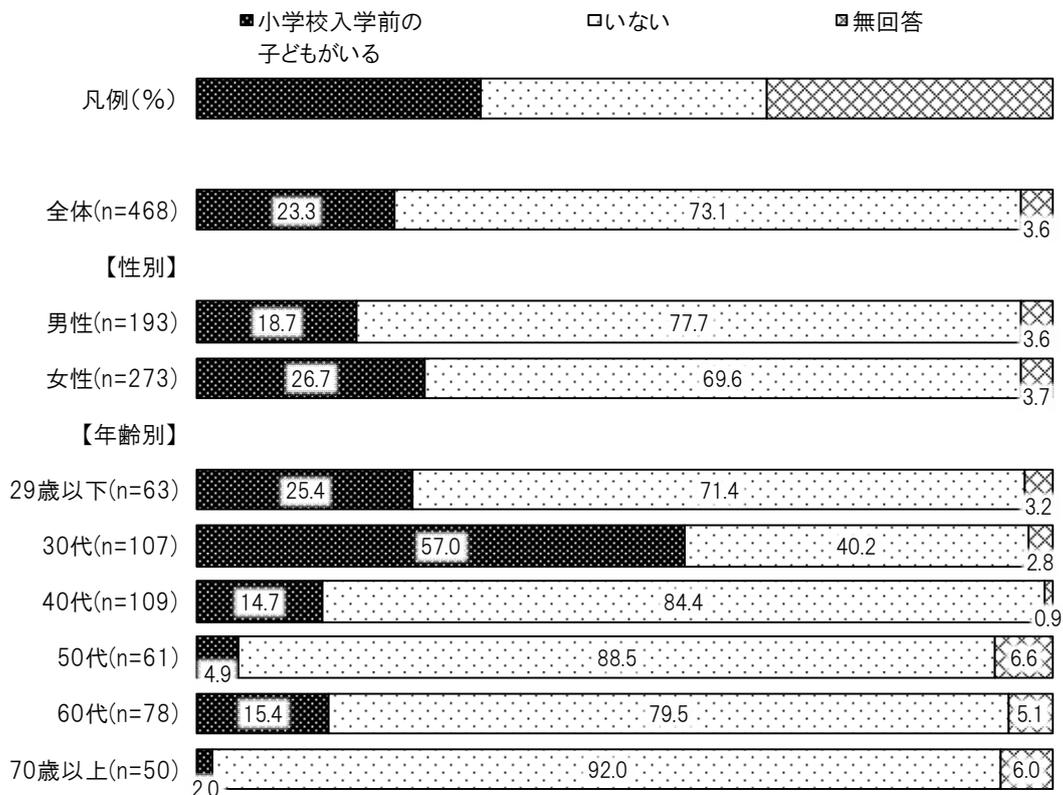
【時系列推移】

前回調査結果と比べ、「独り暮らし（単身世帯）」がやや増加した。



7 未就学児の有無

未就学児については、「小学校入学前の子どもがいる」割合が23.3%となっている。性別では、女性は男性に比べ「小学校入学前の子どもがいる」割合が高くなっている。年齢別では、30代で「小学校入学前の子どもがいる」割合が他の年齢層を大きく上回っている。



Ⅲ 調査結果

【1】家庭生活について

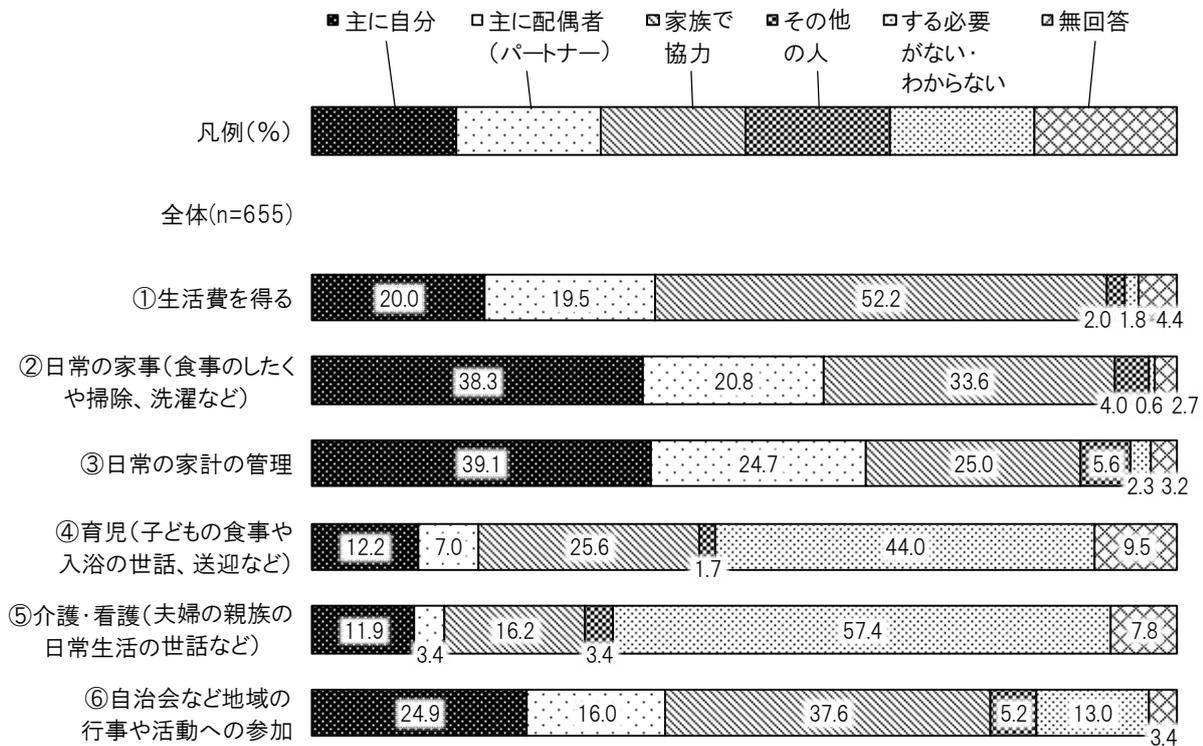
1 家庭内の仕事の分担状況

【問6で「2～5（単身世帯以外）」と答えた方におたずねします。】

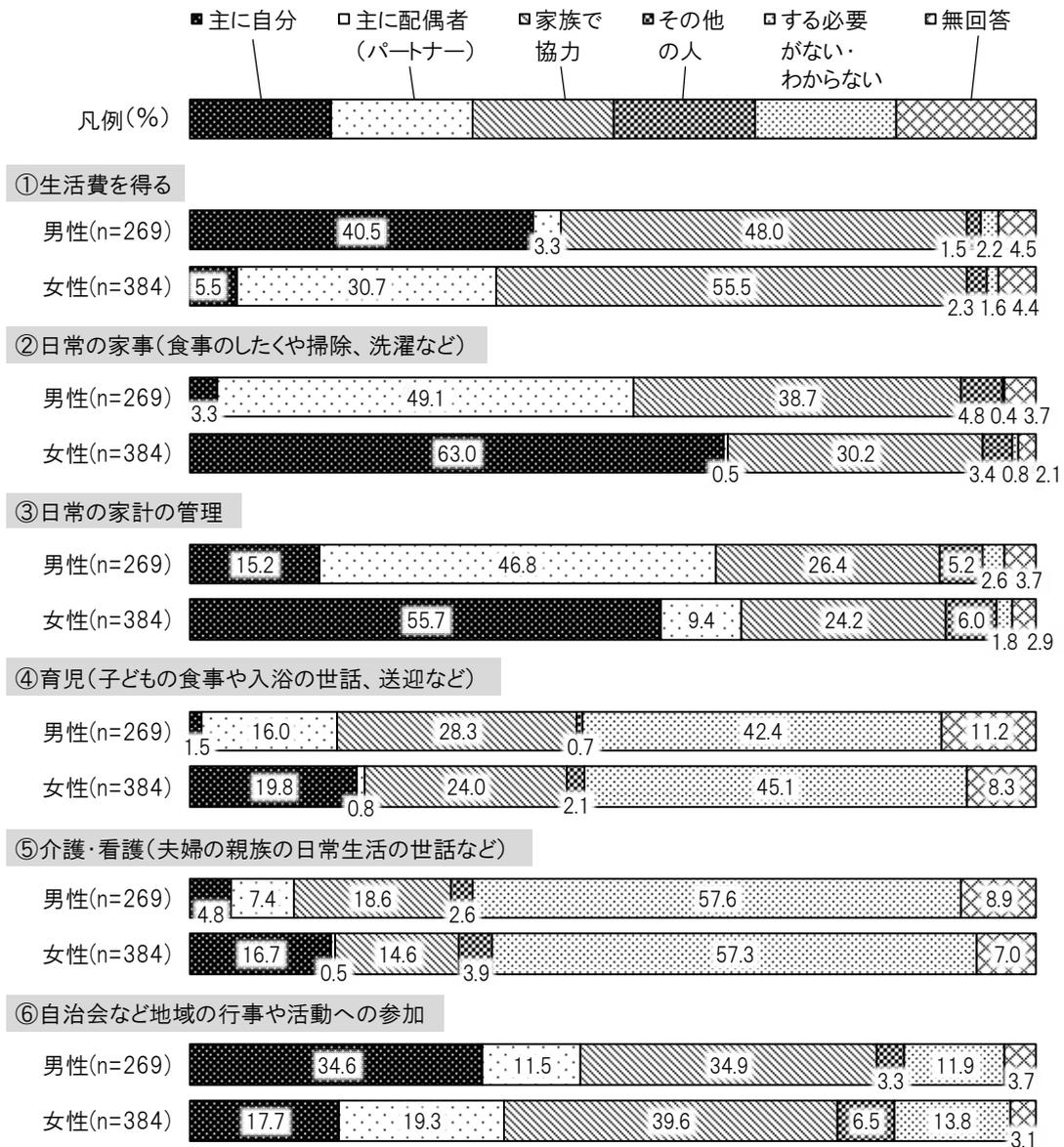
問8 あなたの家庭では、次にあげる家庭内の仕事を主に誰が担っていますか。

(○印1つつ)

家庭内の仕事の分担状況については、「家族で協力」の割合が高い順に「①生活費を得る」(52.2%)、「⑥自治会など地域の行事や活動への参加」(37.6%)となっている。また、「②日常の家事(食事のしたくや掃除、洗濯など)」や「③日常の家計の管理」では「主に自分」が約4割を占めている。



性別でみると、男性は女性に比べ「①生活費を得る」「⑥自治会など地域の行事や活動への参加」で「主に自分」の割合が高く、女性は「②日常の家事（食事のしたくや掃除、洗濯など）」「③日常の家計の管理」で「主に自分」の割合が男性を大きく上回っている。

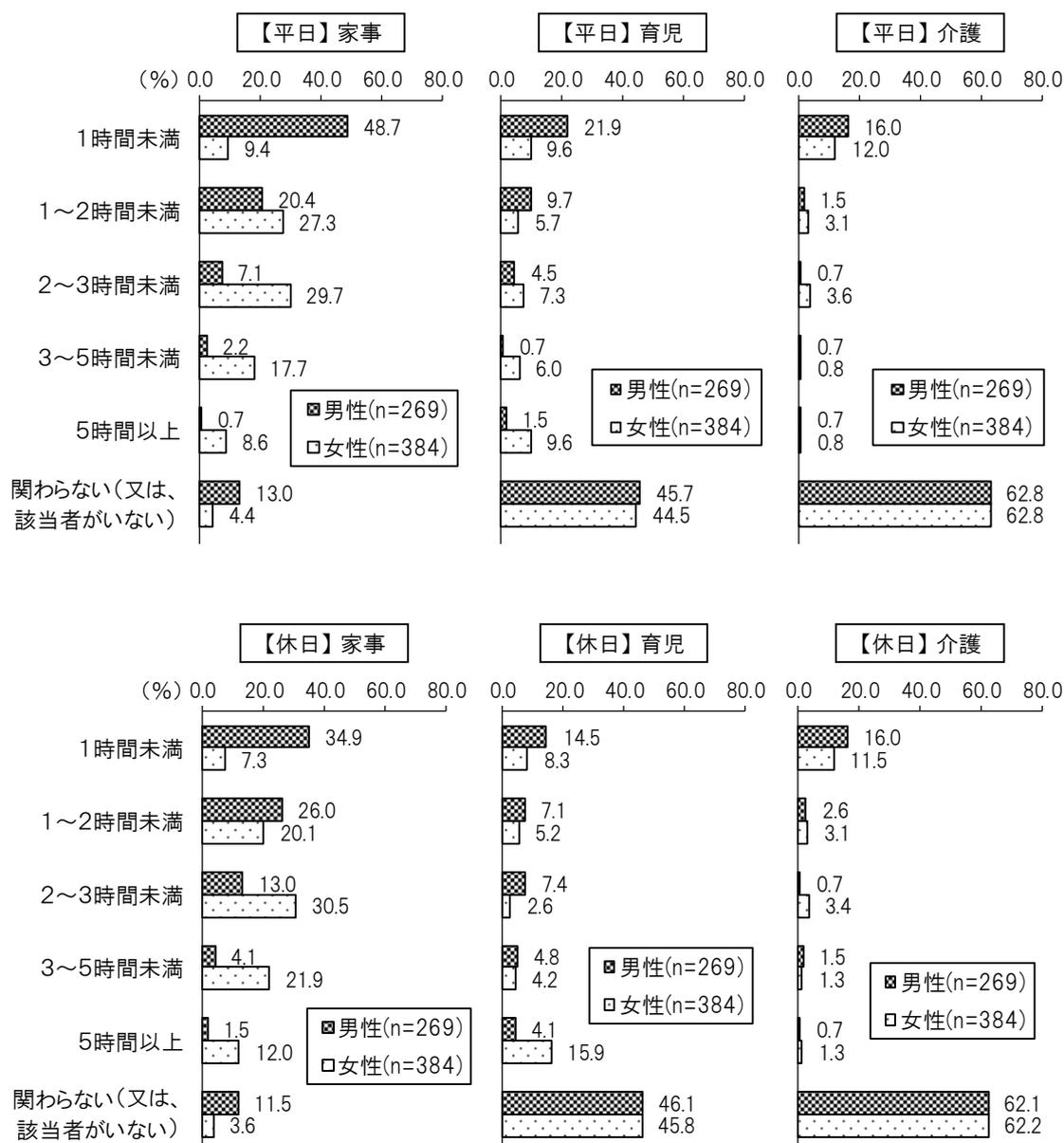


2 1日のうち家事や育児、介護に費やす時間

【問6で「2～5（単身世帯以外）」と答えた方におたずねします。】

問9 あなたが家事（食事のしたくや掃除、洗濯など）、育児（子どもの食事や入浴の世話、送迎など）、介護（夫婦の親族の日常生活の世話など）に費やす時間の合計は、1日あたりどのくらいですか。（○印1つずつ）

1日のうち家事に費やす時間をみると、平日、休日共に男性は「1時間未満」の割合が女性を大きく上回っており、女性は男性に比べ「2～3時間未満」「3～5時間未満」の割合が高くなっている。育児においては、平日の男性は「1時間未満」の割合が高く、女性は「3～5時間未満」「5時間以上」の割合が男性を上回っている。介護においては、男女共に「1時間未満」の割合が高くなっている。

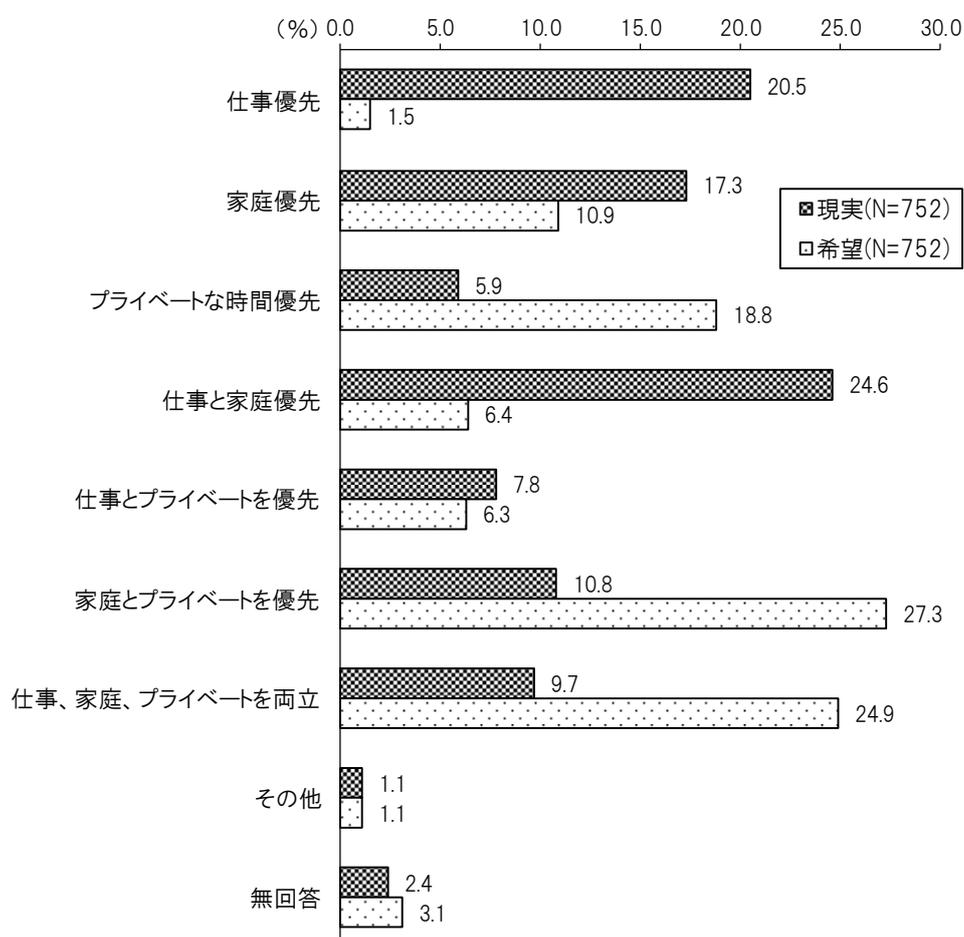


注:「無回答」は表記から省略している。

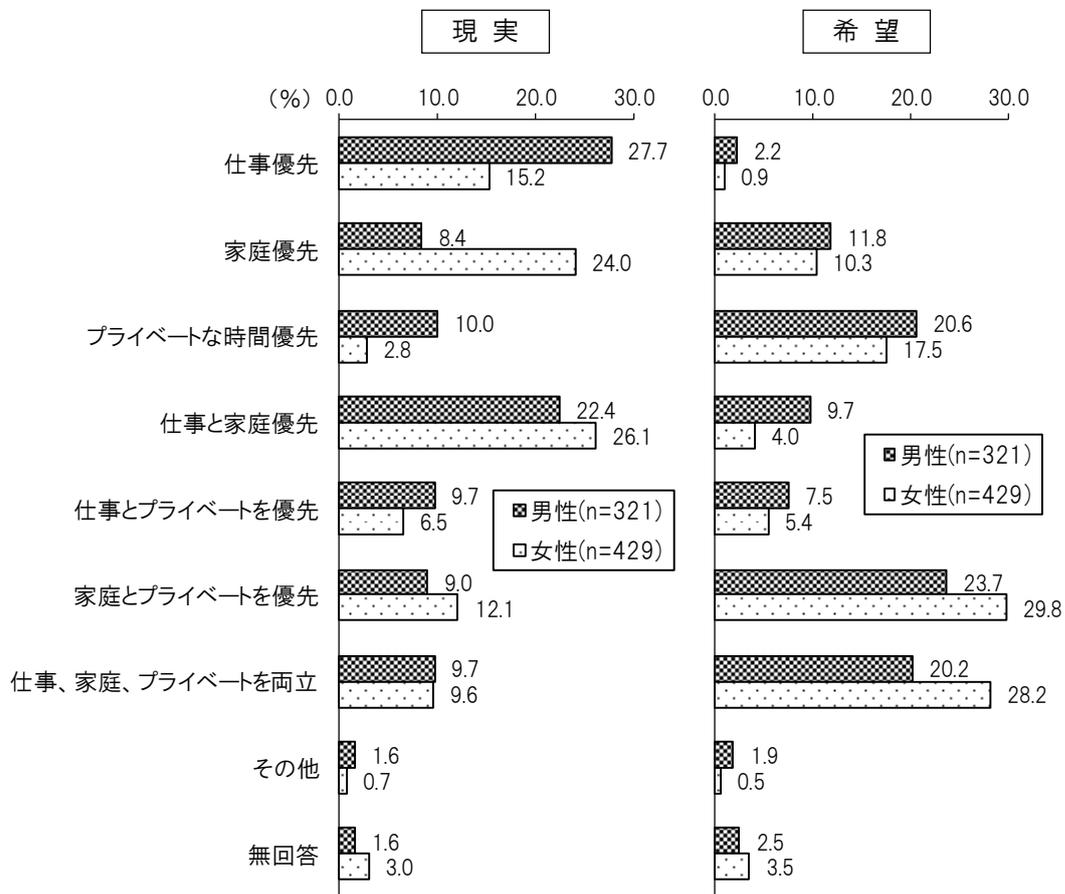
3 仕事や家庭、プライベートの優先度

問 10 あなたが生活の中で最も優先する（したい）事項についておたずねします。「現実」としての優先度と「希望」の優先度について、あなたのお考えや現状に最も近いのはそれぞれどれですか。（○印1つずつ）

仕事や家庭、プライベートの優先度について、現実では「仕事と家庭優先」の割合が24.6%と最も高く、次いで「仕事優先」（20.5%）、「家庭優先」（17.3%）の順となっている。一方、希望では「家庭とプライベートを優先」の割合が27.3%と最も高く、次いで「仕事、家庭、プライベートを両立」（24.9%）、「プライベートな時間優先」（18.8%）の順となっている。

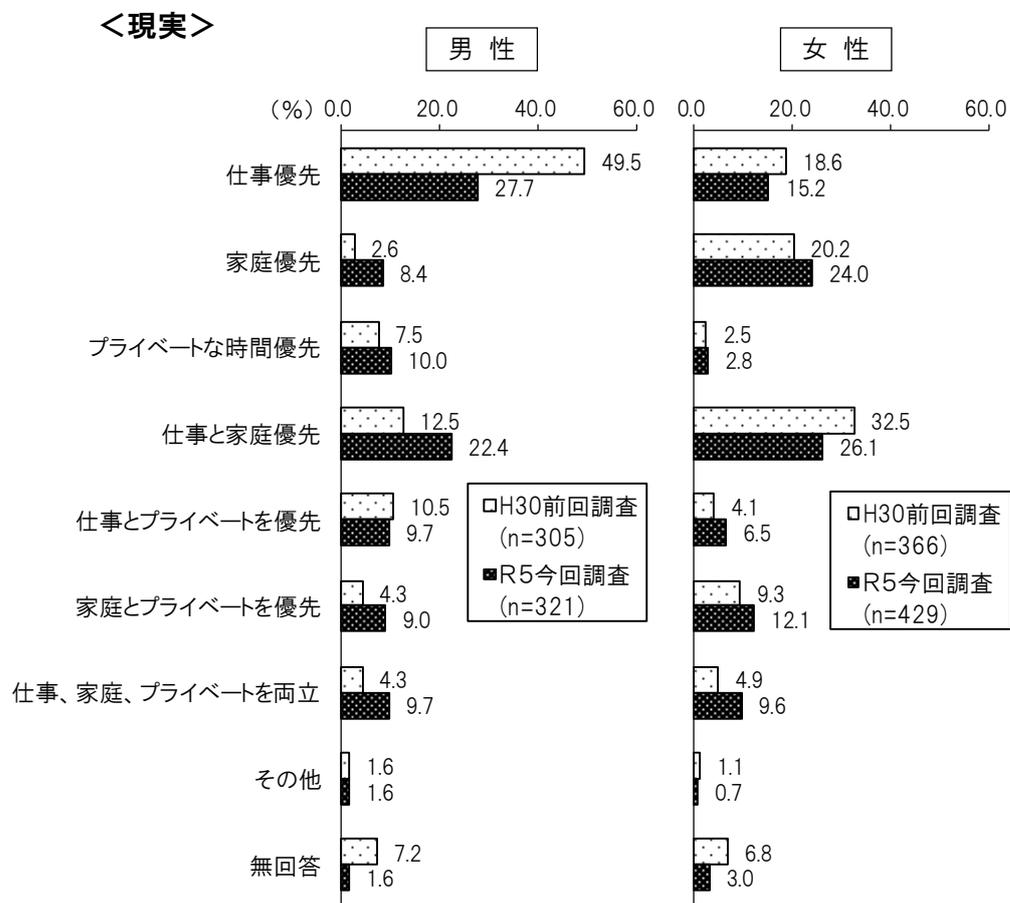


現実では、男性は「仕事優先」の割合が女性を大きく上回っており、女性は男性に比べ「家庭優先」の割合が高くなっている。希望では、女性は男性に比べ「家庭とプライベートを優先」「仕事、家庭、プライベートを両立」の割合が高くなっている。



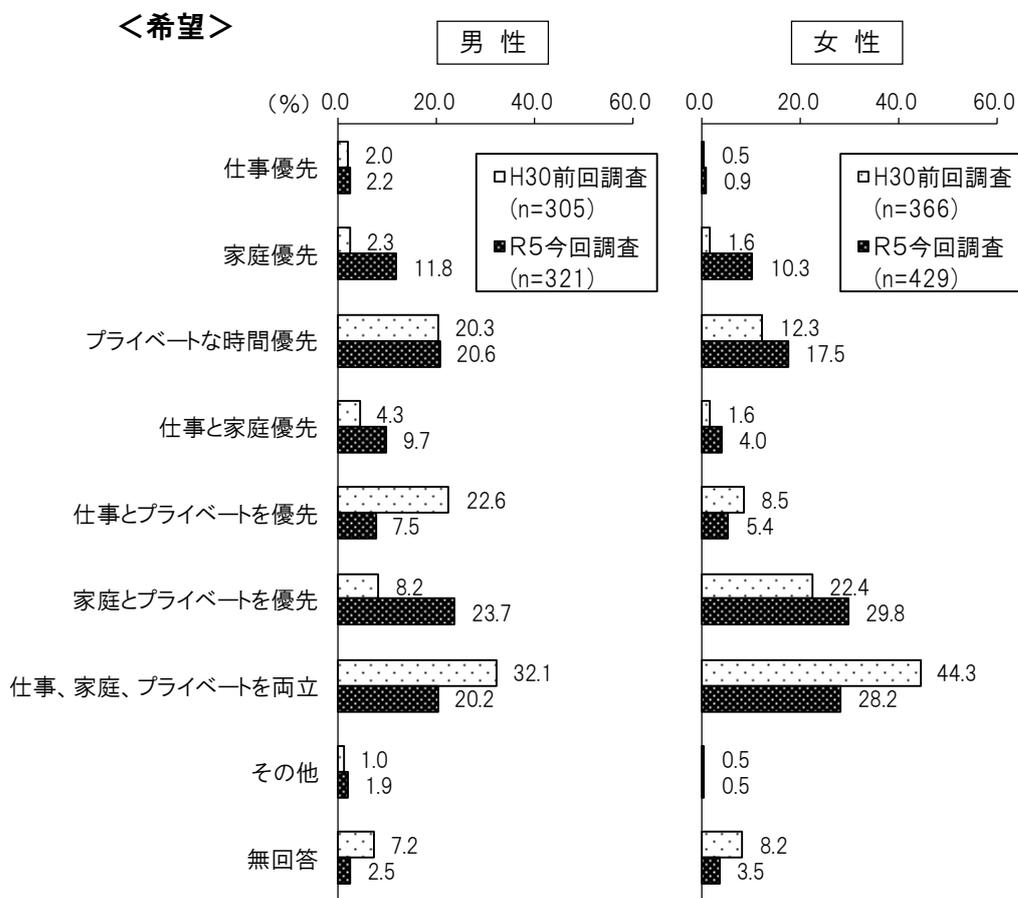
【時系列推移】

現実について前回調査結果と比べると、男性では「仕事優先」が大きく減少し、「仕事と家庭優先」が増加した。



注：前回調査では、「家庭」ではなく「家事」となっている。

希望について前回調査結果と比べると、男女共に「仕事、家庭、プライベートを両立」が減少し、「家庭とプライベートを優先」が増加した。



注：前回調査では、「家庭」ではなく「家事」となっている。

【2】仕事や職場のことについて

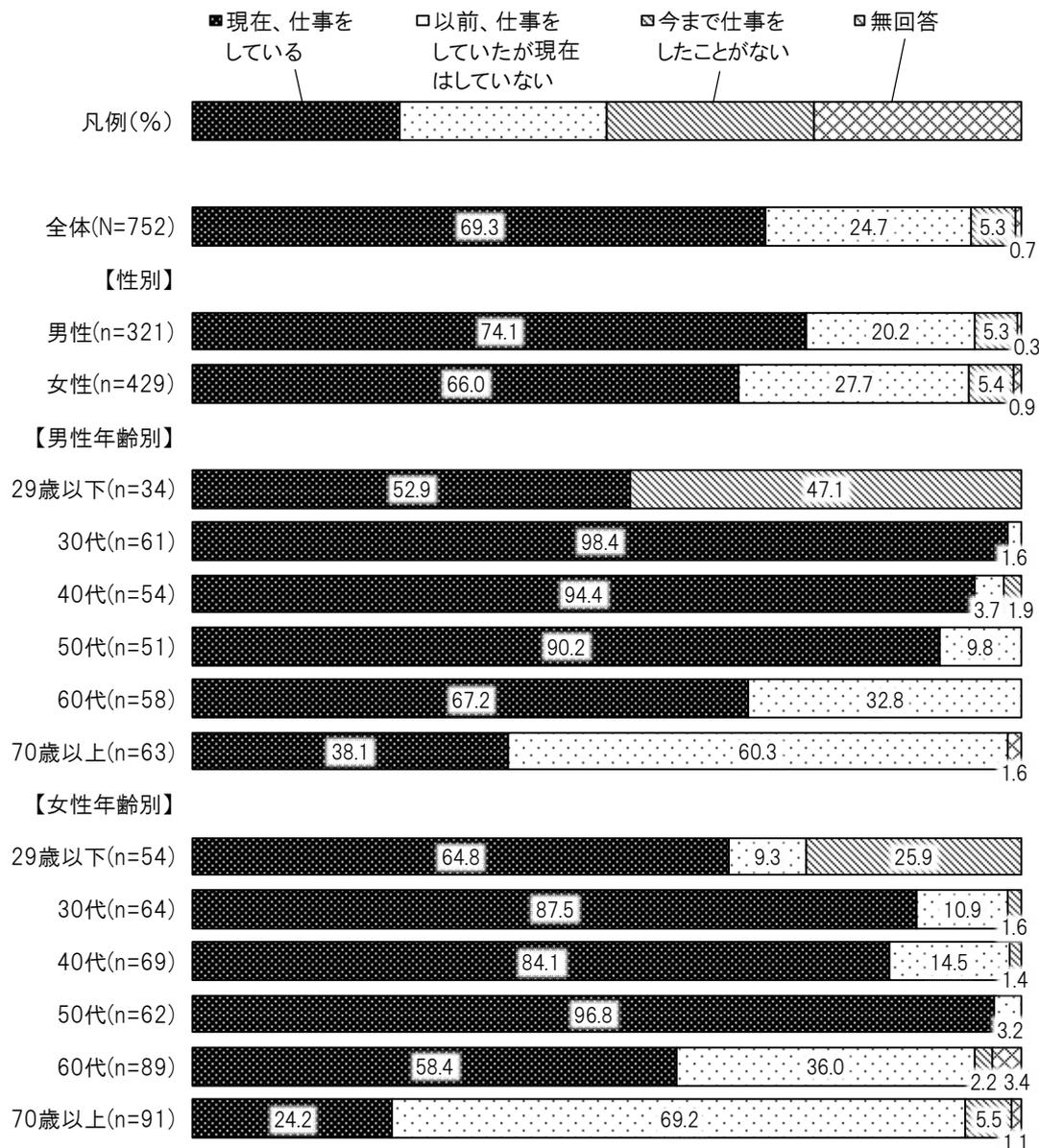
1 就労状況

問 11 あなたは現在、収入を得る仕事をしていますか。（学生のアルバイトは除く。）
 ※ 病気や出産・育児、家族の介護などで一時休業している場合も、仕事をしていることに含まれます。（○印1つ）

就労状況については、「現在、仕事をしている」が69.3%、「以前、仕事をしていたが現在はしていない」が24.7%、合計で94.0%となっている。一方、「今まで仕事をしたことがない」は5.3%となっている。

性別では、女性は男性に比べ「以前、仕事をしていたが現在はしていない」の割合が高くなっている。

年齢別では、男性の29歳以下で「今まで仕事をしたことがない」の割合が他の年齢層を大きく上回っている。



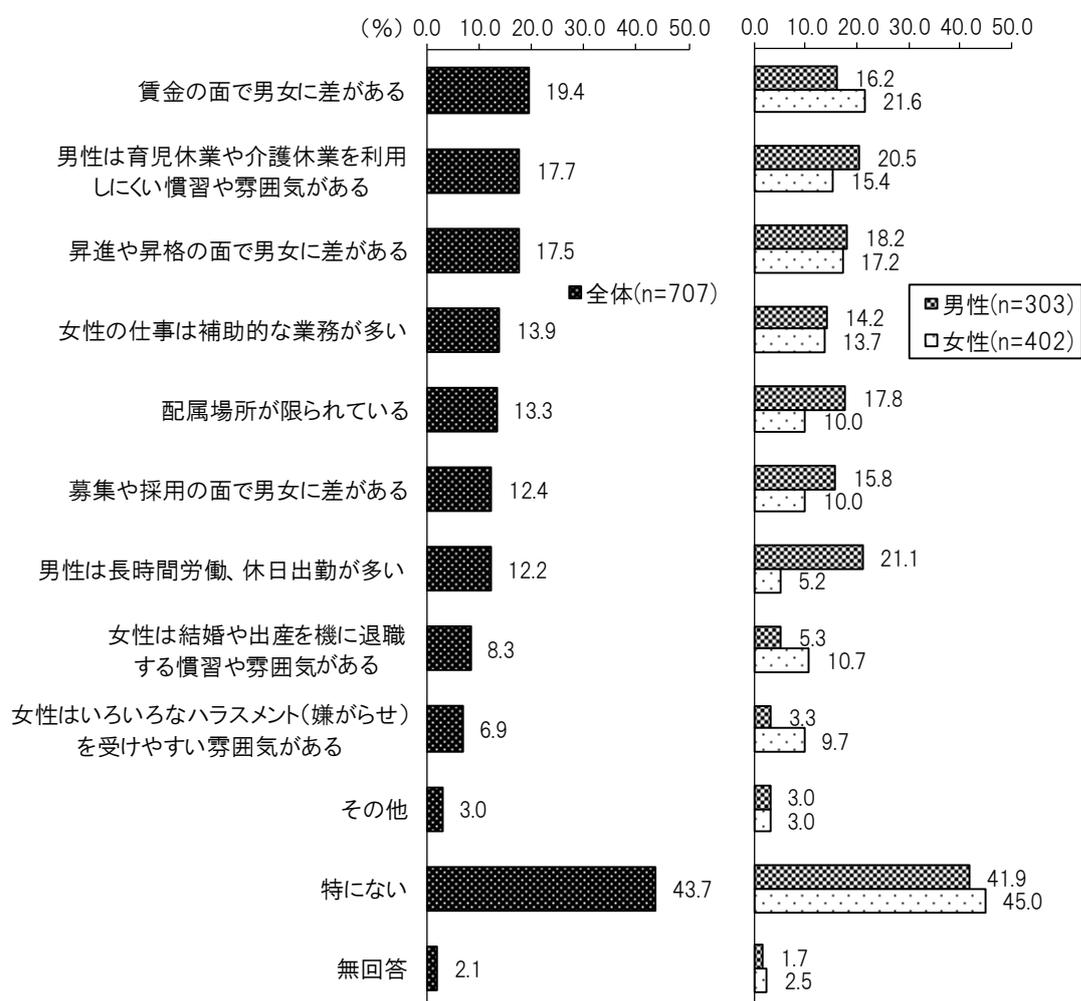
2 職場における男女間の格差

【問 11 で「1～2（仕事をしたことがある）」と答えた方におたずねします。】

問 12 あなたの職場では、仕事の内容や待遇面で、次のような男女間の格差がありますか（又は、過去においてありましたか）。（○印いくつでも）

職場における男女間の格差については、「賃金の面で男女に差がある」の割合が 19.4% と最も高く、次いで「男性は育児休業や介護休業を利用しにくい慣習や雰囲気がある」（17.7%）、「昇進や昇格の面で男女に差がある」（17.5%）、「女性の仕事は補助的な業務が多い」（13.9%）の順となっている。一方、「特にない」は 43.7% となっている。

性別では、男性は「男性は長時間労働、休日出勤が多い」の割合が女性を大きく上回っている。



年齢別では、男性は29歳以下で「配属場所が限られている」、30代で「男性は長時間労働、休日出勤が多い」、50代以上で「昇進や昇格の面で男女に差がある」の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。また、女性はおおむね年齢が上がるほど「賃金の面で男女に差がある」の割合が高く、若い年齢層ほど「特にない」の割合が高くなっている。

単位 (%)	賃金の面で男女に差がある	男性は育児休業や介護休業を利用しにくい慣習や雰囲気がある	昇進や昇格の面で男女に差がある	女性の仕事は補助的な業務が多い	配属場所が限られている	募集や採用の面で男女に差がある	男性は長時間労働、休日出勤が多い	慣習や雰囲気がある	女性結婚や出産を機に退職する	（嫌がらせ）を受けやすい雰囲気がある	女性はいろんなハラスメント	その他	特にない
全体(n=707)	19.4	17.7	17.5	13.9	13.3	12.4	12.2	8.3	6.9	3.0	43.7		
【男性年齢別】													
29歳以下(n=18)	22.2	16.7	5.6	22.2	55.6	16.7	22.2	0.0	5.6	0.0	27.8		
30代(n=61)	13.1	24.6	14.8	19.7	21.3	16.4	31.1	8.2	3.3	3.3	36.1		
40代(n=53)	9.4	22.6	5.7	9.4	18.9	5.7	17.0	5.7	3.8	3.8	60.4		
50代(n=51)	13.7	29.4	25.5	15.7	7.8	17.6	15.7	3.9	2.0	2.0	43.1		
60代(n=58)	24.1	12.1	25.9	13.8	13.8	20.7	20.7	3.4	3.4	5.2	36.2		
70歳以上(n=62)	17.7	16.1	22.6	9.7	14.5	17.7	19.4	6.5	3.2	1.6	40.3		
【女性年齢別】													
29歳以下(n=40)	2.5	12.5	15.0	12.5	2.5	2.5	7.5	12.5	7.5	2.5	57.5		
30代(n=63)	11.1	22.2	12.7	6.3	6.3	7.9	11.1	6.3	4.8	3.2	54.0		
40代(n=68)	19.1	17.6	19.1	11.8	11.8	11.8	7.4	14.7	8.8	7.4	51.5		
50代(n=62)	19.4	16.1	16.1	14.5	9.7	11.3	1.6	12.9	12.9	1.6	45.2		
60代(n=84)	33.3	15.5	19.0	16.7	11.9	13.1	3.6	9.5	15.5	1.2	33.3		
70歳以上(n=85)	30.6	9.4	18.8	17.6	12.9	9.4	2.4	9.4	7.1	2.4	38.8		

注：表中の「網掛け」は、各クロス集計（年齢別など）において最も高い割合を示している。
 但し、回答割合が10%未満の項目、n数が10未満の項目及び「その他」については網掛けしていない。
 また「無回答」は表記から省略している。（本報告書においては、以下同様）

3 男女間の格差に対する考え方

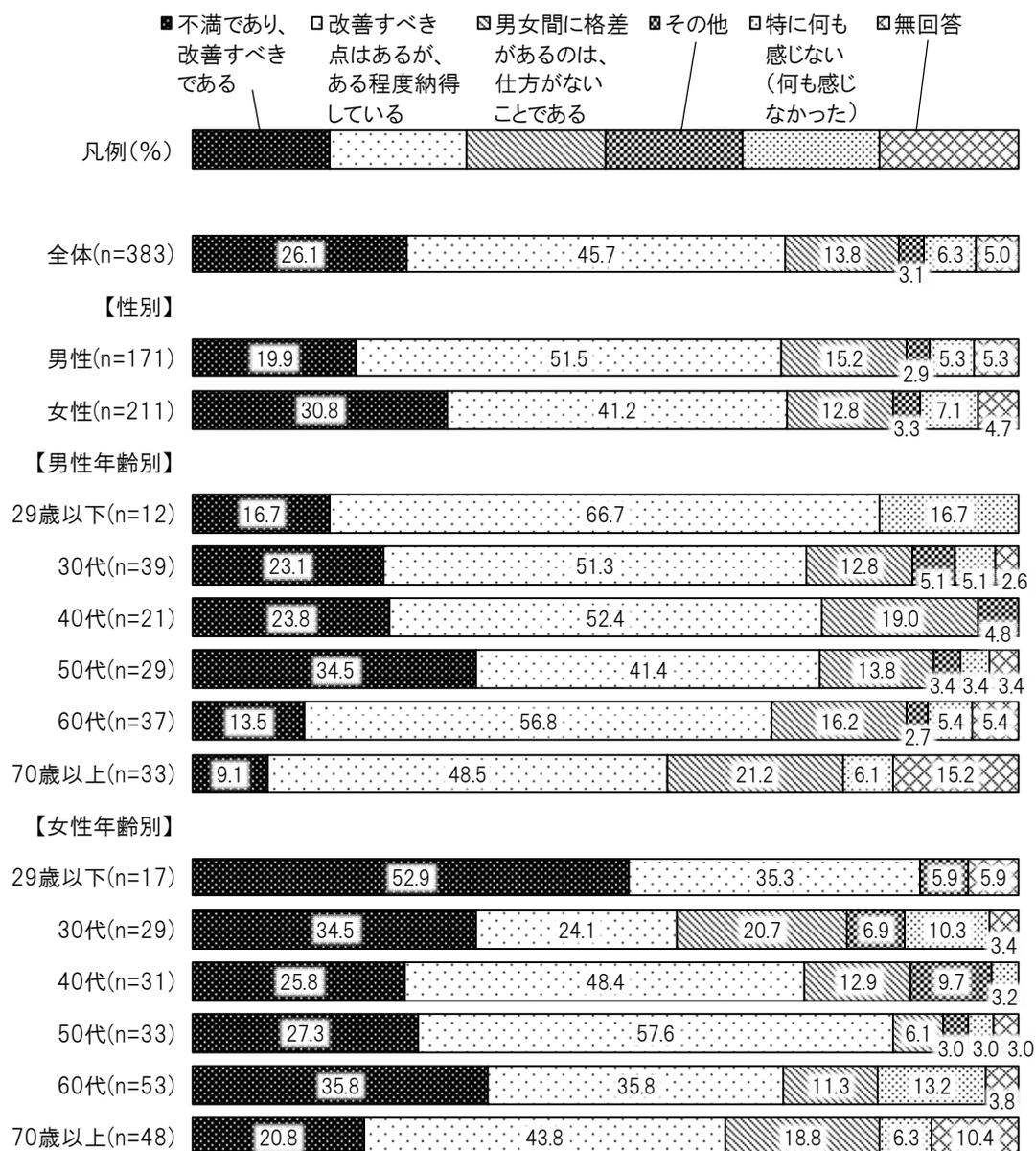
【問 12 で「1～10（男女間の格差がある）」と答えた方におたずねします。】

問 13 あなたは、そのような男女間の格差があることに対して、どのように思いますか。
(○印1つ)

男女間の格差については、「改善すべき点はあるが、ある程度納得している」の割合が45.7%と最も高く、次いで「不満であり、改善すべきである」(26.1%)、「男女間に格差があるのは、仕方がないことである」(13.8%)、「特に何も感じない(何も感じなかった)」(6.3%)の順となっている。

性別では、男性は女性に比べ「改善すべき点はあるが、ある程度納得している」の割合が高く、女性は「不満であり、改善すべきである」の割合が男性を大きく上回っている。

年齢別では、男性の29歳以下で「改善すべき点はあるが、ある程度納得している」、女性の29歳以下で「不満であり、改善すべきである」の割合がそれぞれ他の年齢層を大きく上回っている。



4 管理職への登用希望

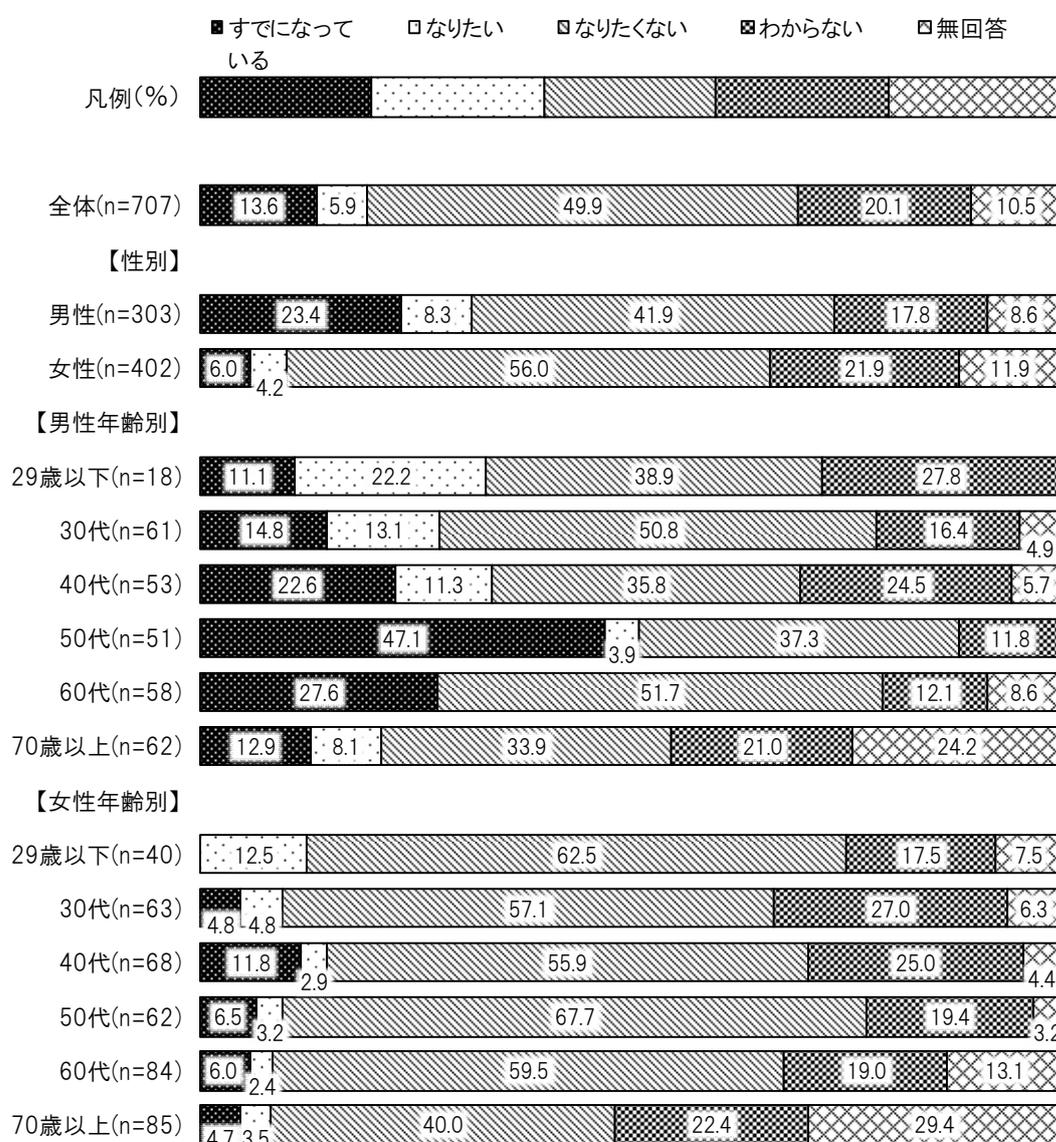
【問 11 で「1～2（仕事をしたことがある）」と答えた方におたずねします。】

問 14 あなたは、管理職になりたいと思いますか。（○印1つ）

管理職への登用希望については、約半数（49.9%）が「なりたくない」と回答しており、「すでになっている」が13.6%、「なりたい」が5.9%、「わからない」が20.1%となっている。

性別では、男性は「すでになっている」の割合が女性を大きく上回っており、女性は男性に比べ「なりたくない」の割合が高くなっている。

年齢別では、男女共に29歳以下で「なりたい」の割合が高く、男性の50代で「すでになっている」の割合が他の年齢層を大きく上回っている。

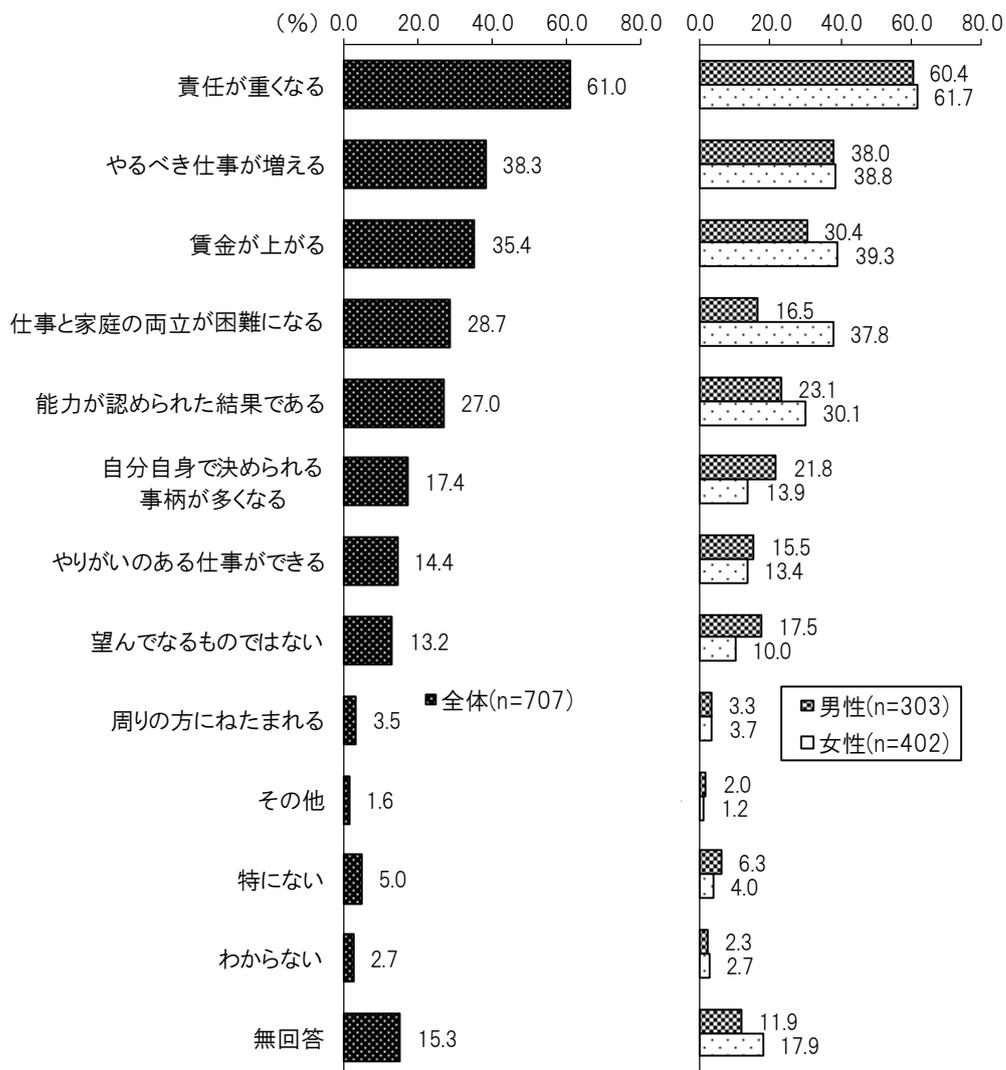


5 管理職へのイメージ

【問 11 で「1～2（仕事をしたことがある）」と答えた方におたずねします。】
 問 15 あなたは、管理職以上に昇進することについて、どのようなイメージを持っていますか。（○印いくつでも）

管理職へのイメージについては、「責任が重くなる」の割合が 61.0%と最も高く、次いで「やるべき仕事が増える」（38.3%）、「賃金が上がる」（35.4%）、「仕事と家庭の両立が困難になる」（28.7%）、「能力が認められた結果である」（27.0%）の順となっている。

性別では、女性は「仕事と家庭の両立が困難になる」の割合が男性を大きく上回っている。



年齢別では、男性は29歳以下で「責任が重くなる」、50代で「能力が認められた結果である」「自分自身で決められる事柄が多くなる」の割合がそれぞれ高くなっている。また、男女共におおむね若い年齢層ほど「やるべき仕事が増える」「仕事と家庭の両立が困難になる」の割合が高くなっている。

単位 (%)	責任が重くなる	やるべき仕事が増える	賃金上がる	仕事と家庭の両立が困難になる	能力が認められた結果である	自分自身で決められる事柄が多くなる	やりがいのある仕事ができる	望んでなるものではない	周りの方にねたまれる	その他	特にない	わからない
全体(n=707)	61.0	38.3	35.4	28.7	27.0	17.4	14.4	13.2	3.5	1.6	5.0	2.7
【男性年齢別】												
29歳以下(n=18)	88.9	66.7	38.9	22.2	22.2	22.2	22.2	11.1	5.6	0.0	0.0	5.6
30代(n=61)	78.7	59.0	34.4	24.6	24.6	18.0	9.8	16.4	6.6	3.3	1.6	1.6
40代(n=53)	52.8	37.7	28.3	18.9	17.0	26.4	15.1	22.6	3.8	3.8	1.9	3.8
50代(n=51)	56.9	35.3	35.3	17.6	31.4	33.3	25.5	21.6	3.9	2.0	7.8	3.9
60代(n=58)	63.8	29.3	36.2	15.5	24.1	15.5	13.8	15.5	1.7	1.7	8.6	0.0
70歳以上(n=62)	40.3	19.4	16.1	4.8	19.4	17.7	12.9	14.5	0.0	0.0	12.9	1.6
【女性年齢別】												
29歳以下(n=40)	65.0	50.0	40.0	37.5	17.5	27.5	12.5	10.0	2.5	0.0	0.0	5.0
30代(n=63)	71.4	54.0	46.0	49.2	28.6	9.5	9.5	12.7	3.2	3.2	1.6	0.0
40代(n=68)	73.5	41.2	44.1	47.1	36.8	25.0	17.6	5.9	2.9	0.0	0.0	1.5
50代(n=62)	66.1	45.2	45.2	38.7	35.5	16.1	12.9	11.3	4.8	1.6	3.2	0.0
60代(n=84)	66.7	42.9	52.4	33.3	38.1	14.3	20.2	8.3	7.1	0.0	4.8	1.2
70歳以上(n=85)	35.3	11.8	12.9	25.9	20.0	0.0	7.1	11.8	1.2	2.4	10.6	8.2

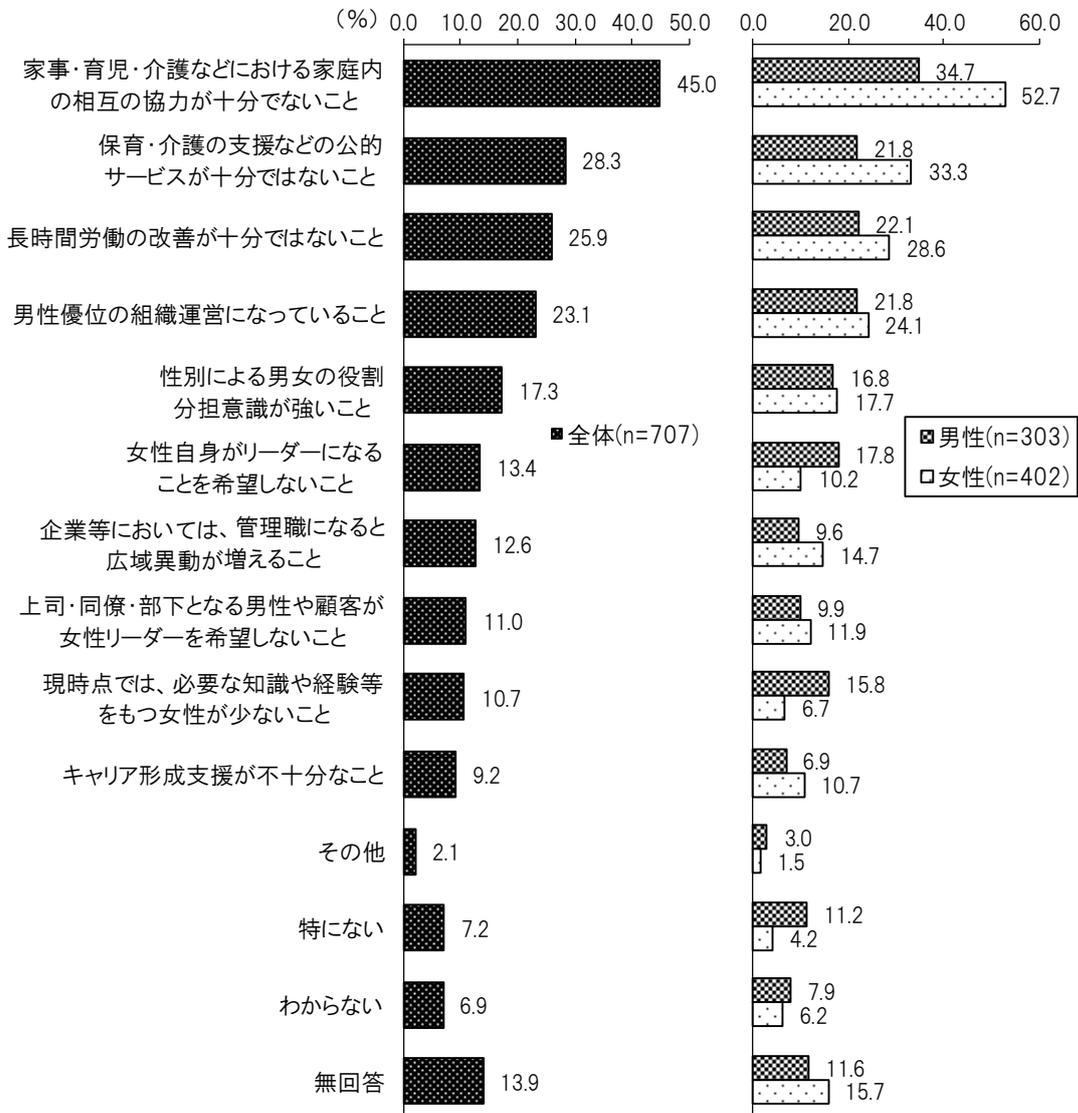
6 女性の管理職を増やすときに障害となること

【問 11 で「1～2（仕事をしたことがある）」と答えた方におたずねします。】

問 16 あなたは、職場で女性の管理職を増やすときに障害となるものは何だと思いますか。（○印いくつでも）

女性の管理職を増やすときに障害となることについては、「家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力が十分でないこと」の割合が45.0%と最も高く、次いで「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」（28.3%）、「長時間労働の改善が十分ではないこと」（25.9%）、「男性優位の組織運営になっていること」（23.1%）の順となっている。

性別では、女性は「家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力が十分でないこと」「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」などの割合が男性を大きく上回っている。



年齢別では、男性の30代や女性の29歳以下で「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」、男性の50代で「女性自身がリーダーになることを希望しないこと」、男性の60代で「長時間労働の改善が十分ではないこと」「男性優位の組織運営になっていること」の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。

単位 (%)	家事・育児の協力が十分でないこと	保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと	長時間労働の改善が十分ではないこと	男性優位の組織運営になっていること	性別による男女の役割分担意識が強いこと	女性自身がリーダーになることを希望しないこと	企業等においては、管理職になると広域異動が増えること	上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと	現時点では、必要な知識や経験等をもつ女性が少ないこと	キャリア形成支援が不十分なこと	その他	特になし	わからない
全体(n=707)	45.0	28.3	25.9	23.1	17.3	13.4	12.6	11.0	10.7	9.2	2.1	7.2	6.9
【男性年齢別】													
29歳以下(n=18)	38.9	22.2	16.7	11.1	11.1	11.1	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0	5.6	27.8
30代(n=61)	42.6	29.5	26.2	24.6	16.4	19.7	4.9	13.1	16.4	8.2	4.9	9.8	4.9
40代(n=53)	39.6	18.9	15.1	17.0	13.2	17.0	9.4	1.9	11.3	7.5	3.8	15.1	9.4
50代(n=51)	35.3	19.6	17.6	19.6	23.5	27.5	9.8	15.7	11.8	5.9	3.9	13.7	7.8
60代(n=58)	34.5	20.7	31.0	29.3	19.0	17.2	13.8	6.9	22.4	6.9	3.4	8.6	3.4
70歳以上(n=62)	21.0	19.4	21.0	21.0	14.5	11.3	9.7	11.3	21.0	8.1	0.0	11.3	8.1
【女性年齢別】													
29歳以下(n=40)	55.0	45.0	30.0	32.5	22.5	12.5	15.0	17.5	5.0	17.5	0.0	5.0	5.0
30代(n=63)	55.6	33.3	25.4	14.3	17.5	9.5	12.7	7.9	9.5	9.5	4.8	6.3	4.8
40代(n=68)	57.4	35.3	36.8	22.1	19.1	11.8	20.6	14.7	4.4	17.6	1.5	0.0	10.3
50代(n=62)	54.8	35.5	25.8	27.4	17.7	8.1	17.7	14.5	6.5	14.5	1.6	3.2	4.8
60代(n=84)	60.7	36.9	35.7	27.4	21.4	14.3	16.7	11.9	7.1	7.1	0.0	2.4	1.2
70歳以上(n=85)	36.5	21.2	18.8	23.5	10.6	5.9	7.1	8.2	7.1	3.5	1.2	8.2	10.6

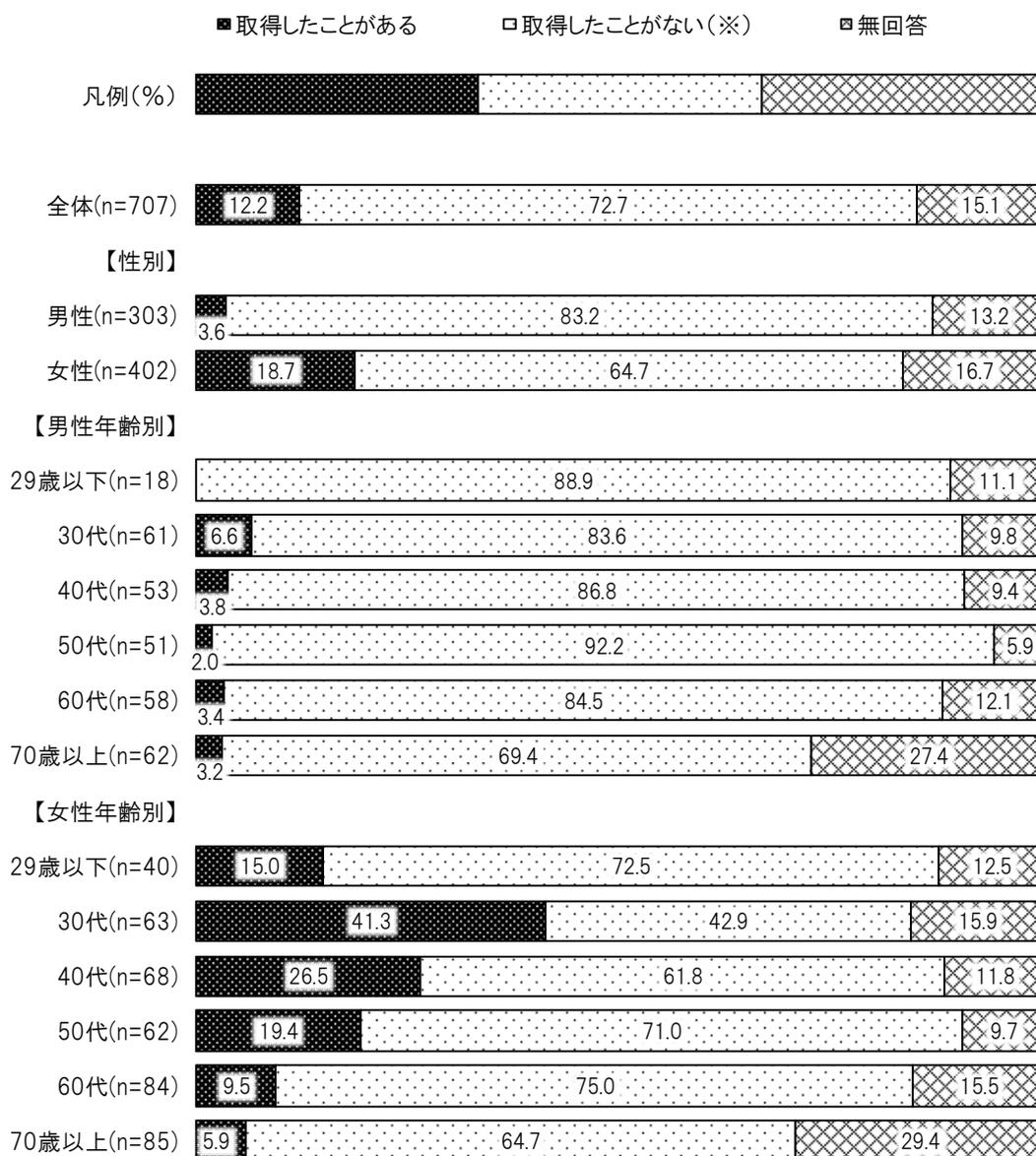
7 育児休業や介護休業の取得状況

【問 11 で「1～2（仕事をしたことがある）」と答えた方におたずねします。】
 問 17 あなたは、育児休業や介護休業を取得したことがありますか。（○印1つずつ）

① 育児休業

育児休業の取得状況については、「取得したことがある」割合が12.2%となっており、男性で3.6%、女性で18.7%となっている。

年齢別では、女性はおおむね若い年齢層ほど「取得したことがある」割合が高くなっている。

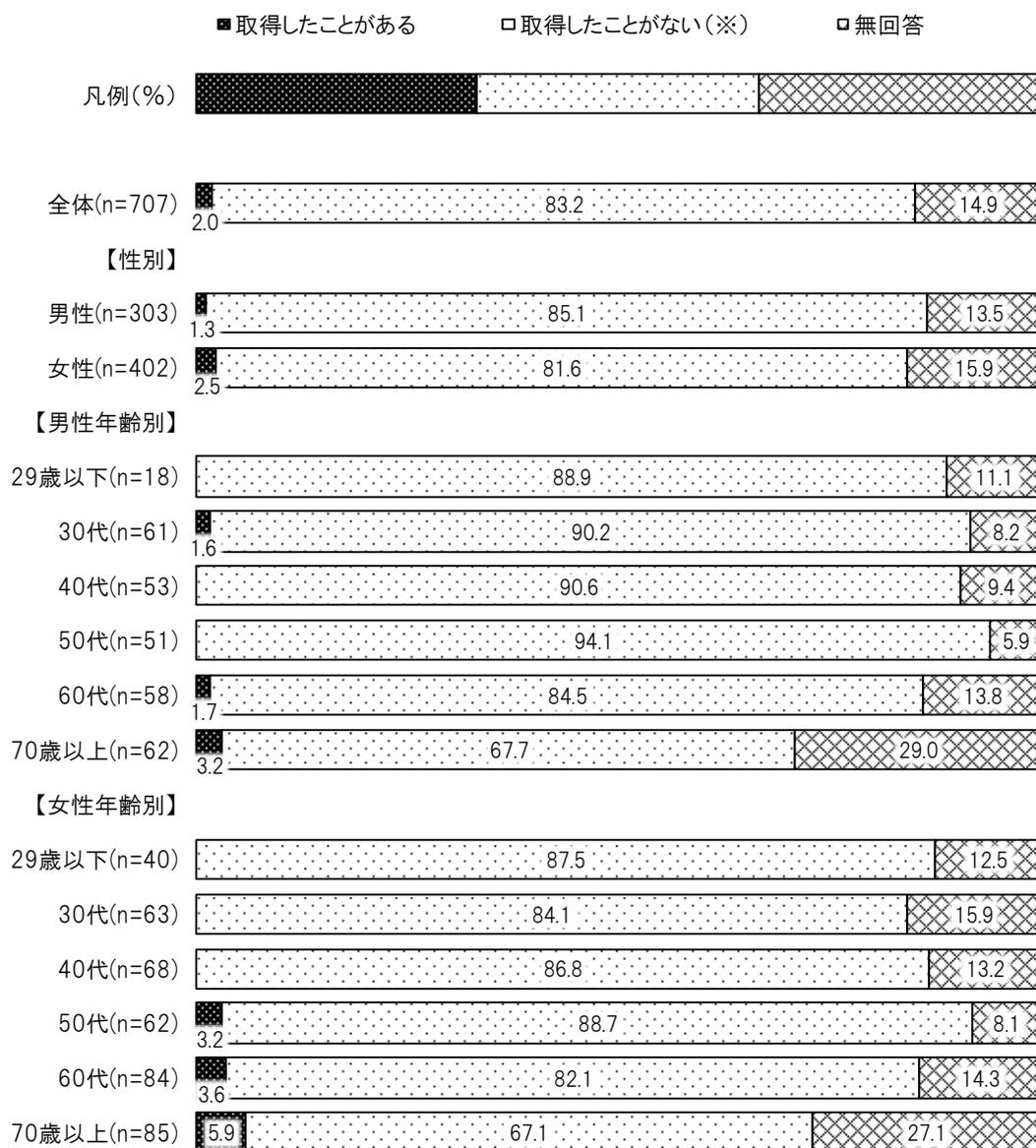


※取得したことがない(取得する必要がなかったを含む)

② 介護休業

介護休業の取得状況については、「取得したことがある」割合が2.0%となっており、男性で1.3%、女性で2.5%となっている。

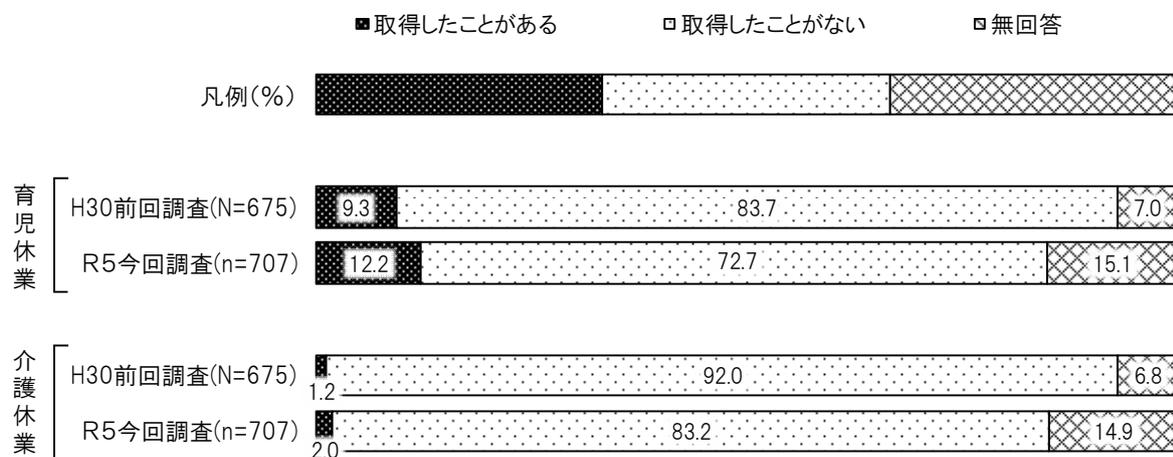
年齢別では、女性の50代以上で「取得したことがある」割合が高くなっている。



※取得したことがない(取得する必要がなかったを含む)

【時系列推移】

前回調査と聴取方法が異なるため単純な比較はできないが、育児休業、介護休業共に「取得したことがある」がやや増加した。



注1: 前回調査では、全員を対象としている

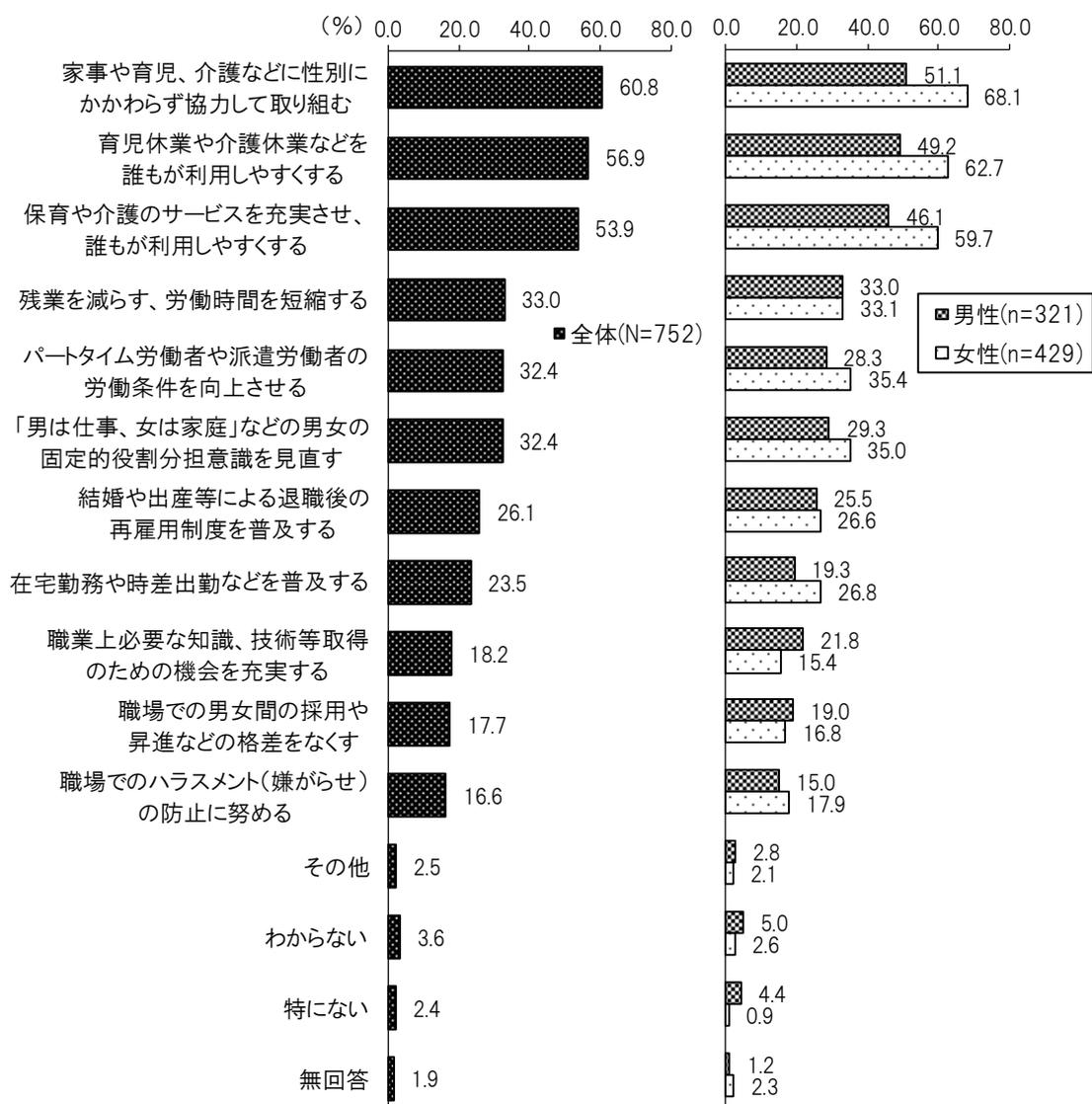
注2: 前回調査について「取得したことがない」は、「知っているが、利用したことはない」「知らなかった」を合算している。

8 働きやすい社会環境をつくるために必要なこと

問 18 あなたは、性別にかかわらず働きやすい社会環境をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○印5つまで）

働きやすい社会環境をつくるために必要なことについては、「家事や育児、介護などに性別にかかわらず協力して取り組む」の割合が60.8%と最も高く、次いで「育児休業や介護休業などを誰もが利用しやすくする」（56.9%）、「保育や介護のサービスを充実させ、誰もが利用しやすくする」（53.9%）、「残業を減らす、労働時間を短縮する」（33.0%）の順となっている。

性別では、女性は「家事や育児、介護などに性別にかかわらず協力して取り組む」「育児休業や介護休業などを誰もが利用しやすくする」「保育や介護のサービスを充実させ、誰もが利用しやすくする」の割合が男性を大きく上回っている。



年齢別では、男女共に29歳以下で「職場での男女間の採用や昇進などの格差をなくす」、30代で「残業を減らす、労働時間を短縮する」、50代で「職場でのハラスメント（嫌がらせ）の防止に努める」、70歳以上で「職業上必要な知識、技術等取得のための機会を充実する」の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。

単位 (%)	家事や育児、介護などに性別にかかわらず協力して取り組む	育児休業や介護休業などを誰もが利用しやすいとする	保育や介護のサービスを充実させ、誰もが利用しやすいとする	残業を減らす、労働時間を短縮する	パートタイム労働者や派遣労働者の労働条件を向上させる	「男は仕事、女は家庭」などの男女の固定的役割分担意識を見直す	結婚や出産等による退職後の再雇用制度を普及する	在宅勤務や時差出勤などを普及する	職業上必要な知識、技術等取得のための機会を充実する	職場での男女間の採用や昇進などの格差をなくす	職場でのハラスメント（嫌がらせ）の防止に努める	その他	わからない	特にない
全体(N=752)	60.8	56.9	53.9	33.0	32.4	32.4	26.1	23.5	18.2	17.7	16.6	2.5	3.6	2.4
【男性年齢別】														
29歳以下(n=34)	58.8	61.8	44.1	41.2	32.4	29.4	23.5	26.5	14.7	29.4	17.6	0.0	11.8	2.9
30代(n=61)	45.9	50.8	47.5	54.1	21.3	16.4	24.6	29.5	23.0	11.5	11.5	6.6	4.9	3.3
40代(n=54)	57.4	42.6	38.9	29.6	20.4	38.9	18.5	24.1	18.5	7.4	13.0	3.7	5.6	1.9
50代(n=51)	66.7	51.0	43.1	25.5	19.6	43.1	27.5	13.7	19.6	21.6	27.5	5.9	3.9	5.9
60代(n=58)	41.4	46.6	46.6	32.8	43.1	24.1	25.9	17.2	22.4	22.4	8.6	0.0	3.4	5.2
70歳以上(n=63)	42.9	47.6	54.0	17.5	33.3	27.0	31.7	7.9	28.6	25.4	14.3	0.0	3.2	6.3
【女性年齢別】														
29歳以下(n=54)	77.8	66.7	51.9	46.3	24.1	35.2	29.6	25.9	13.0	27.8	22.2	5.6	0.0	0.0
30代(n=64)	78.1	78.1	54.7	50.0	25.0	35.9	29.7	37.5	9.4	14.1	20.3	0.0	1.6	1.6
40代(n=69)	68.1	60.9	62.3	34.8	36.2	40.6	23.2	36.2	17.4	17.4	21.7	2.9	2.9	1.4
50代(n=62)	77.4	79.0	74.2	29.0	40.3	37.1	22.6	32.3	14.5	21.0	27.4	3.2	1.6	0.0
60代(n=89)	58.4	55.1	69.7	22.5	42.7	31.5	25.8	23.6	13.5	14.6	12.4	1.1	1.1	0.0
70歳以上(n=91)	58.2	47.3	46.2	25.3	38.5	31.9	28.6	12.1	22.0	11.0	9.9	1.1	6.6	2.2

【3】男女の平等意識について

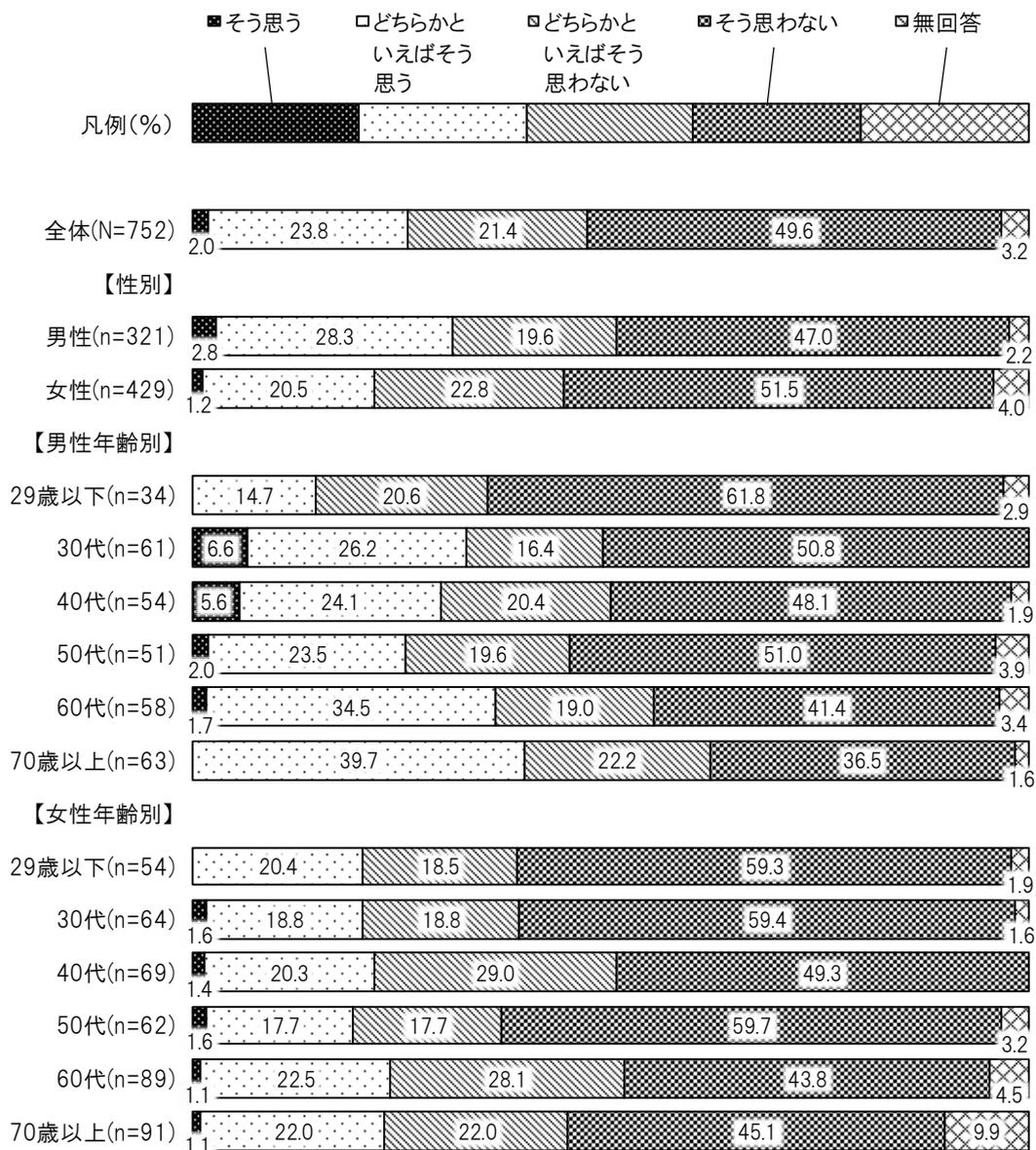
1 男は仕事、女は家庭という考え方について

問 19 あなたは、「男は仕事、女は家庭」といった性別によって男女の役割を固定する考え方について、どのように思いますか。(○印1つ)

男は仕事、女は家庭という考え方については、「そう思う」が2.0%、「どちらかといえばそう思う」が23.8%、合計で25.8%が『そう思う』と回答している。一方、「どちらかといえばそう思わない」(21.4%)、「そう思わない」(49.6%)の合計は71.0%となっている。

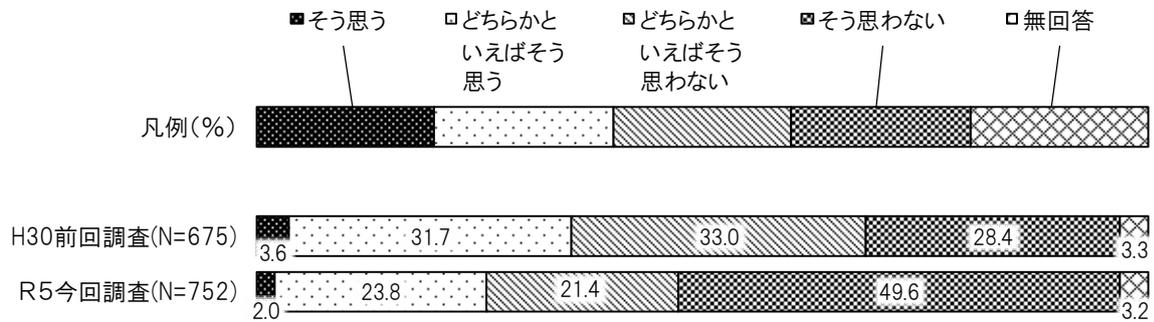
性別では、男性は女性に比べ『そう思う(合計)』の割合が高くなっている。

年齢別では、男性の29歳以下で「そう思わない」の割合が他の年齢層を大きく上回っている。

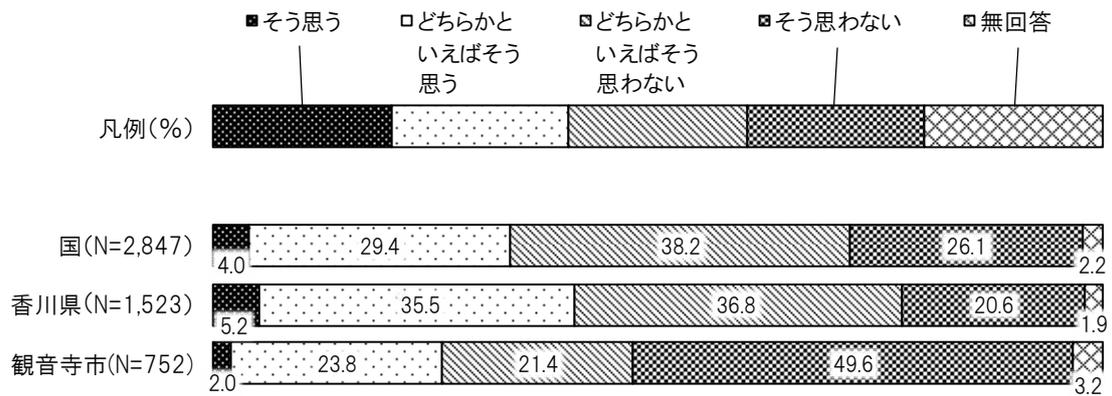


【時系列推移】

前回調査結果と比べ、「そう思わない」が大きく増加した。



【参考／香川県・国との比較】

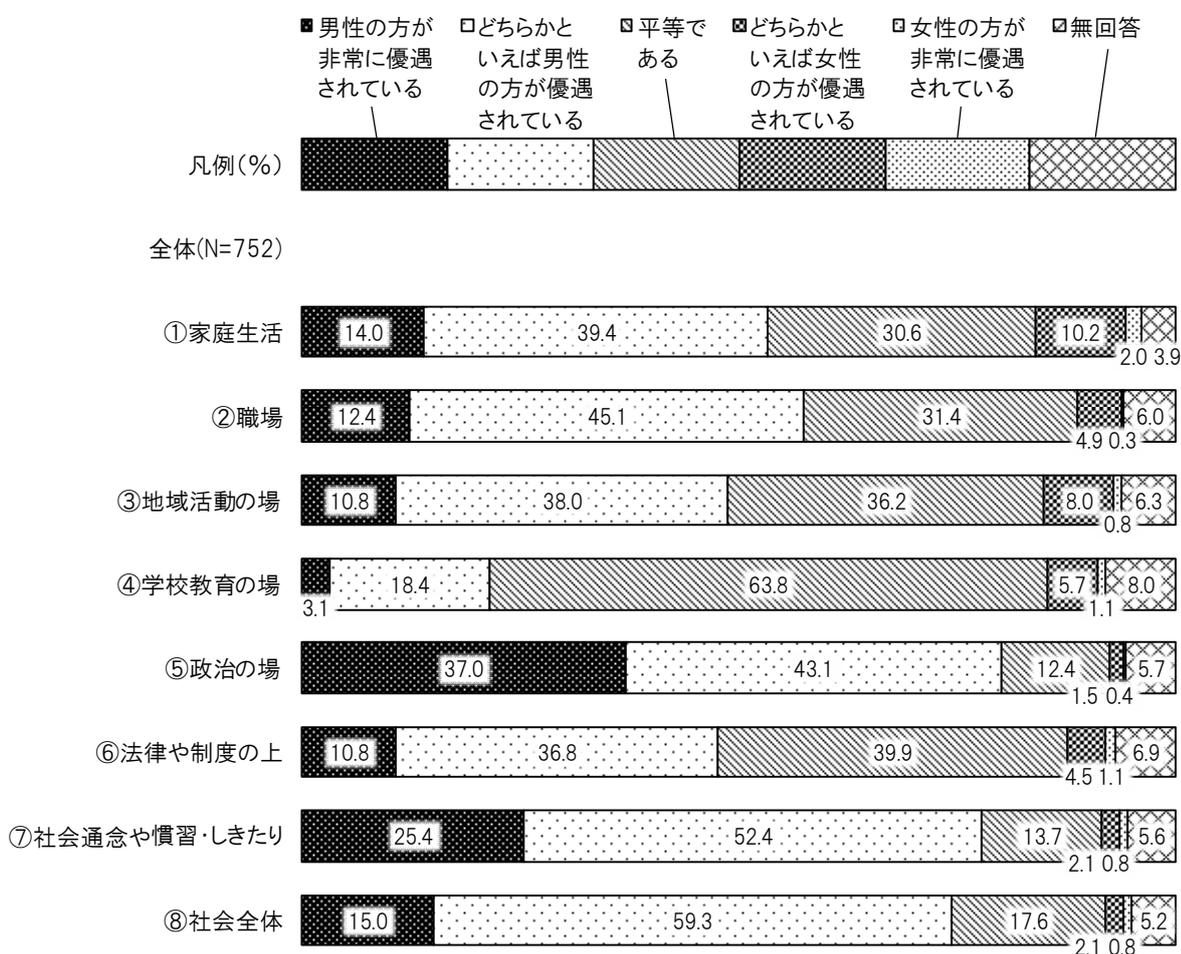


2 男女の平等意識

問 20 あなたは、次の分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。①から⑧までの項目についてお答えください。（○印1つずつ）

男女の平等意識については、全ての分野において、『男性優遇』（「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計）の割合が『女性優遇』（「女性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計）の割合を上回っている。特に、「⑤政治の場」（80.1%）、「⑦社会通念や慣習・しきたり」（77.8%）、「⑧社会全体」（74.3%）で『男性優遇』の割合が高くなっている。

一方、「平等である」は「④学校教育の場」（63.8%）で高くなっている。

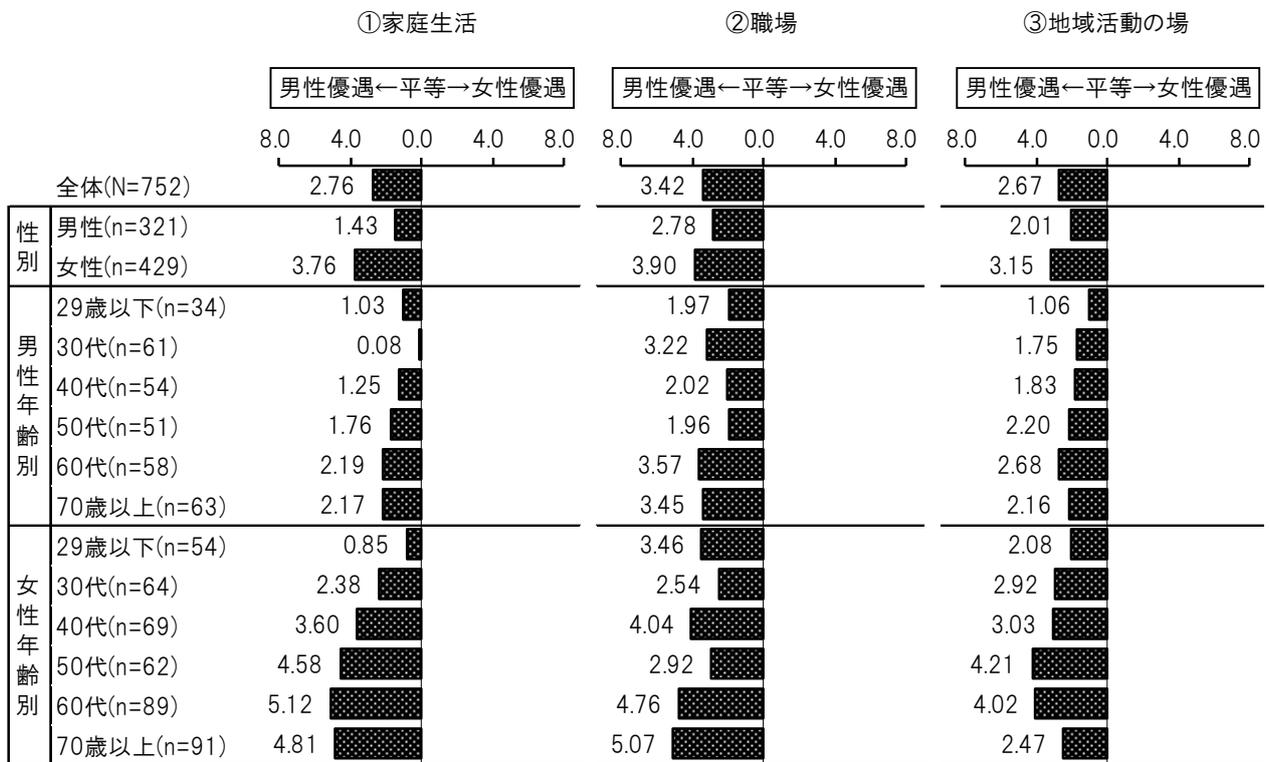


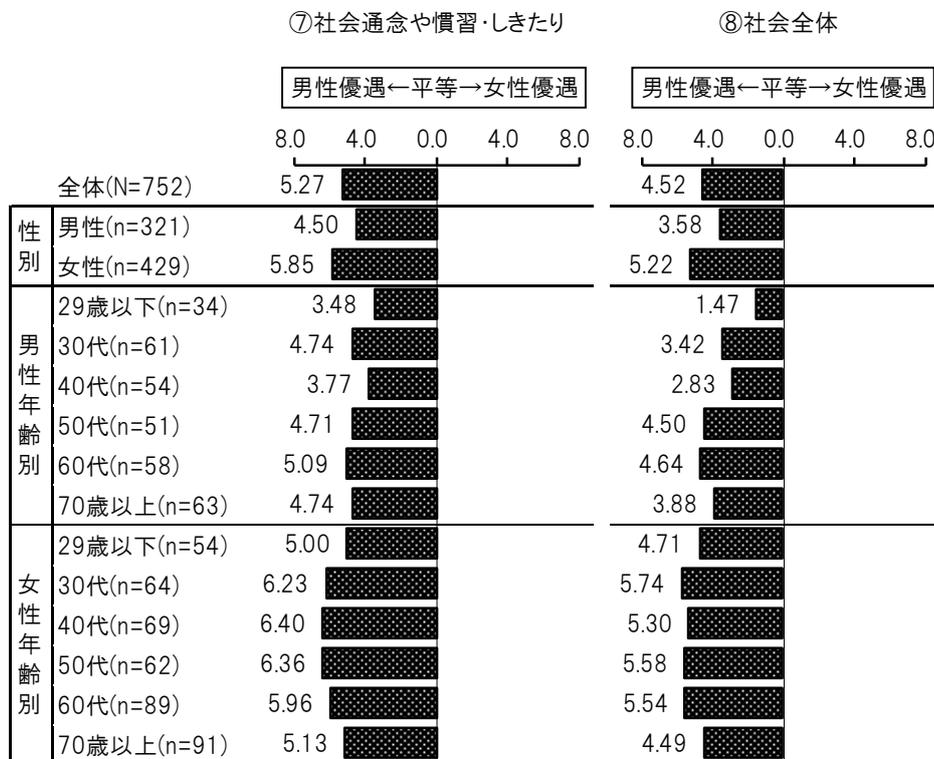
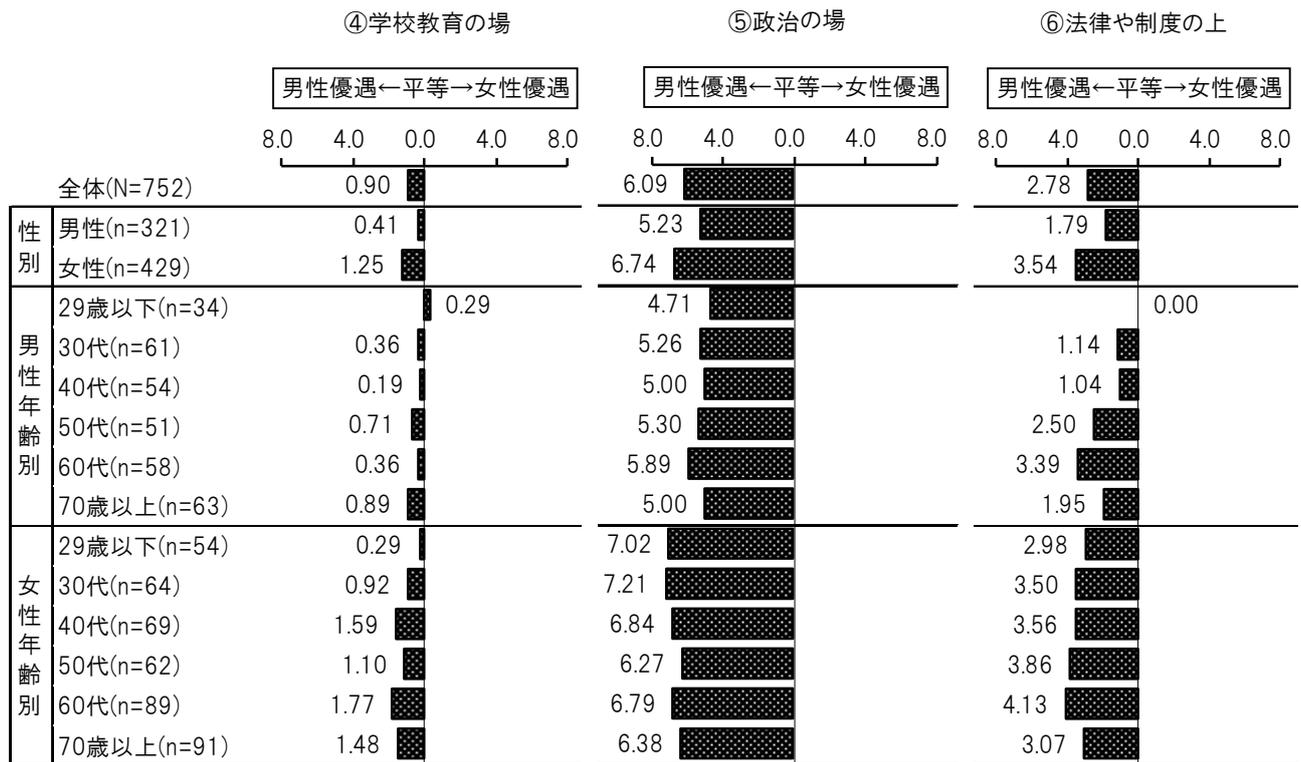
平均評定値*による属性別傾向をみると、全ての分野において、女性は男性に比べ『男性優遇』意識が高くなっている。

年齢別では、女性の50～60代で「③地域活動の場」、男女共に60代以上で「②職場」において『男性優遇』意識がそれぞれ高くなっている。また、女性はおおむね年齢が上がるほど「①家庭生活」で『男性優遇』意識が高くなっている。

※平均評定値

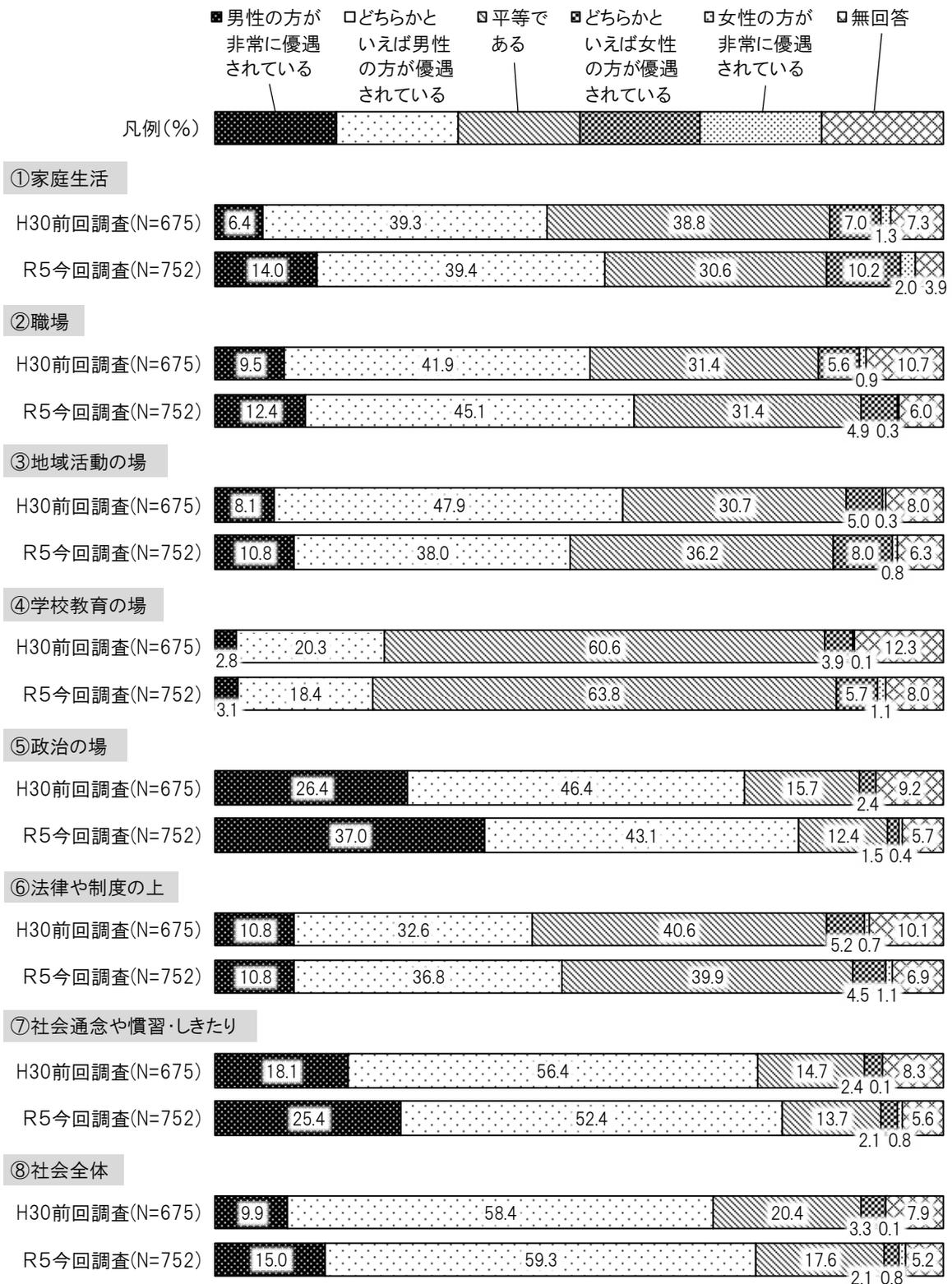
平均評定値とは、男性、女性それぞれについて「非常に優遇されている」に10点、「どちらかといえば優遇されている」に5点、「平等である」に0点の係数を、それぞれの回答件数に乘じ加重平均して算出した値で、グラフ上では左側が男性優遇、右側が女性優遇、0に近いほど平等を示す指標である。



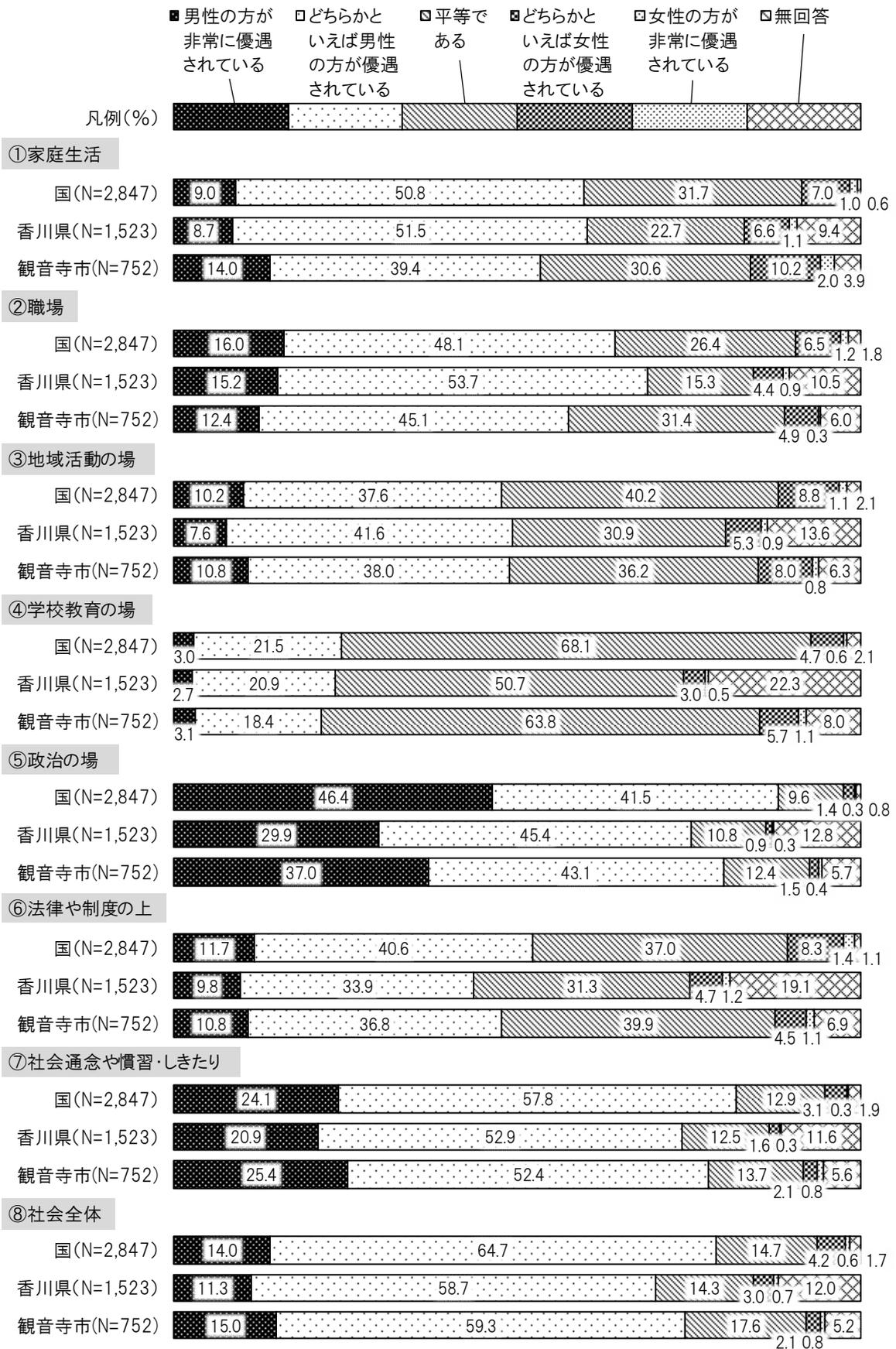


【時系列推移】

前回調査結果と比べ、「①家庭生活」「⑤政治の場」「⑦社会通念や慣習・しきたり」などで「男性の方が非常に優遇されている」が増加した。



【参考／香川県・国との比較】



注：香川県調査では「わからない」の選択肢があるが、「無回答」と合算して表記している。

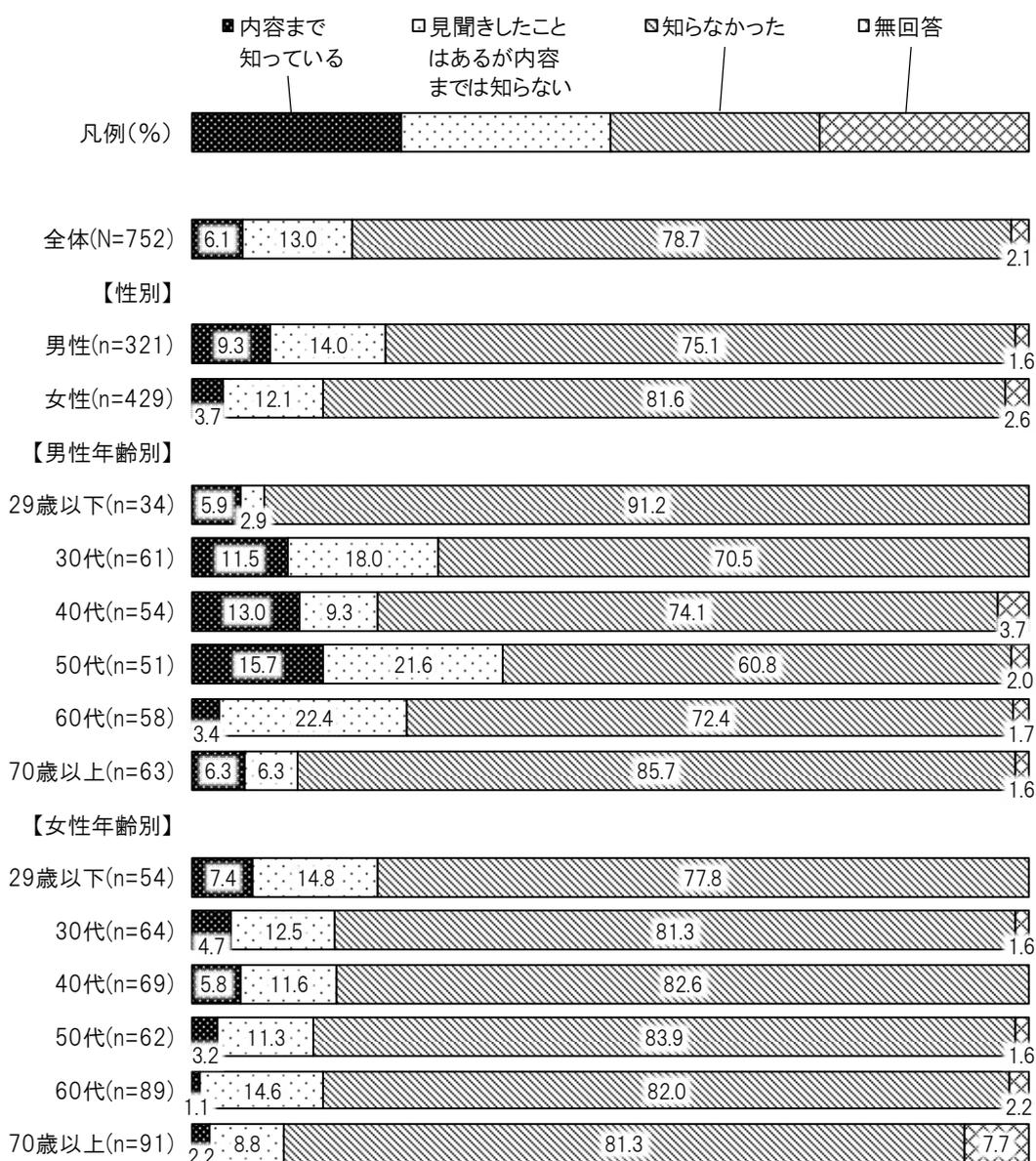
3 アンコンシャス・バイアスの認知

問 21 あなたは「アンコンシャス・バイアス」という言葉を知っていますか。
(○印1つ)

アンコンシャス・バイアスについては、「内容まで知っている」が6.1%、「見聞きしたことはあるが内容までは知らない」が13.0%、合計で19.1%となっている。一方、約8割(78.7%)は「知らなかった」と回答している。

性別では、男性は女性に比べ「内容まで知っている」の割合が高く、女性は「知らなかった」が男性を上回っている。

年齢別では、男性の30～50代で「内容まで知っている」の割合が他の年齢層に比べて高くなっている。



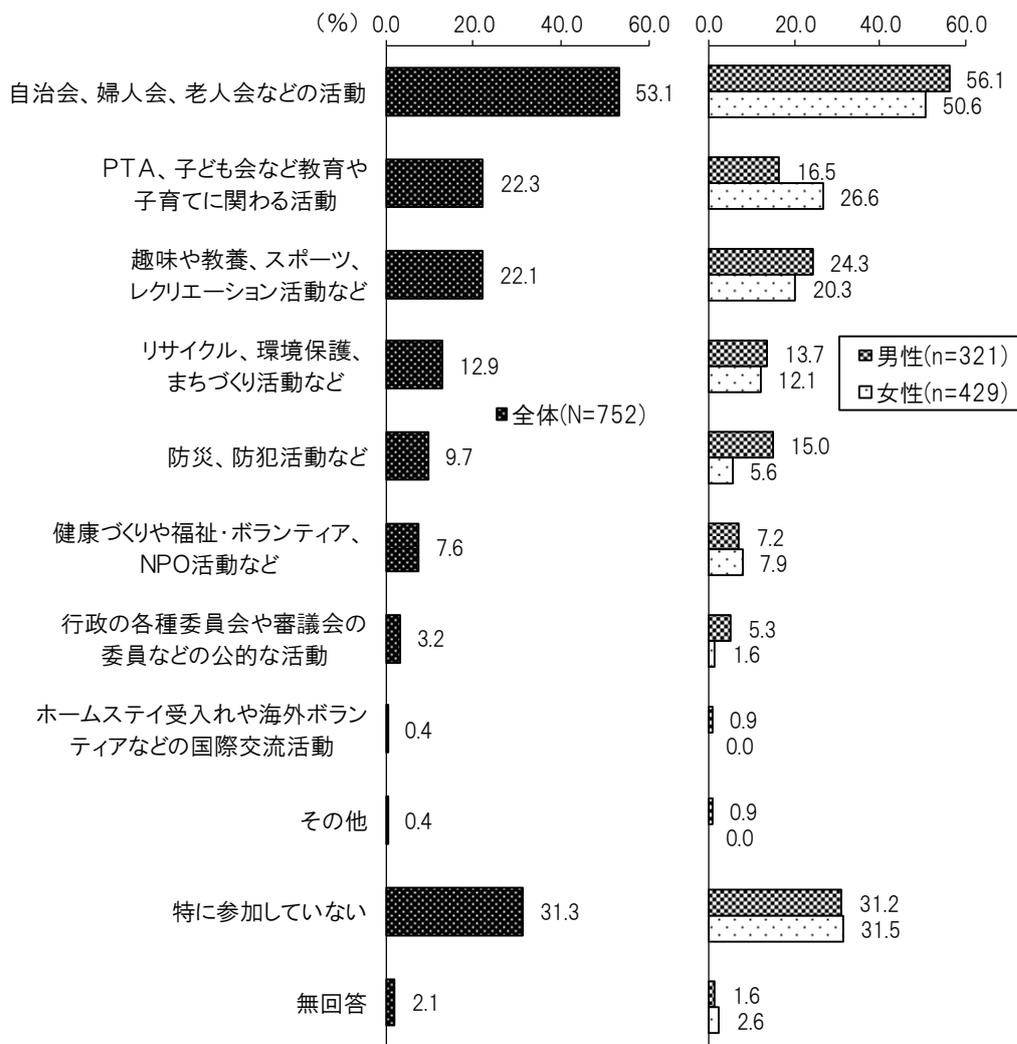
【4】地域での活動について

1 地域活動への参加状況

問 22 あなたは、次の地域活動に参加していますか。コロナ前の活動も含めてお答えください。（○印いくつでも）

地域活動への参加状況については、「自治会、婦人会、老人会などの活動」の割合が 53.1% と最も高く、次いで「PTA、子ども会など教育や子育てに関わる活動」（22.3%）、「趣味や教養、スポーツ、レクリエーション活動など」（22.1%）、「リサイクル、環境保護、まちづくり活動など」（12.9%）の順となっている。一方、約3割（31.3%）は「特に参加していない」と回答している。

性別では、男性は女性に比べ「自治会、婦人会、老人会などの活動」「防災、防犯活動など」の割合が高く、女性は「PTA、子ども会など教育や子育てに関わる活動」の割合が男性を大きく上回っている。



年齢別では、男女共に29歳以下で「特に参加していない」、40代で「PTA、子ども会など教育や子育てに関わる活動」、70歳以上で「防災、防犯活動など」「健康づくりや福祉・ボランティア、NPO活動など」の割合がそれぞれ高くなっている。また、男女共におおむね年齢が上がるほど「自治会、婦人会、老人会などの活動」の割合が高くなっている。

単位 (%)	自治会、 婦人会、 老人会などの 活動	PTA、 子ども会など 教育や子 育てに関わる 活動	趣味や教養、 スポーツ、 レクリ エーション 活動など	リサイクル、 環境保護、 まちづ くり活動など	防災、 防犯活動など	健康づくりや 福祉・ボラン ティア、NPO 活動など	行政の各種 委員会の委 員などの公 的な活動	ホームステイ 受入れや海 外交流活 動	その他	特に 参加し てい ない
全体(N=752)	53.1	22.3	22.1	12.9	9.7	7.6	3.2	0.4	0.4	31.3
【男性年齢別】										
29歳以下(n=34)	20.6	2.9	23.5	2.9	14.7	5.9	2.9	2.9	0.0	67.6
30代(n=61)	37.7	18.0	32.8	9.8	11.5	4.9	0.0	0.0	0.0	41.0
40代(n=54)	53.7	35.2	20.4	16.7	16.7	9.3	3.7	0.0	3.7	27.8
50代(n=51)	54.9	19.6	13.7	9.8	9.8	0.0	2.0	3.9	2.0	33.3
60代(n=58)	79.3	8.6	24.1	10.3	10.3	1.7	8.6	0.0	0.0	13.8
70歳以上(n=63)	74.6	11.1	28.6	27.0	25.4	19.0	12.7	0.0	0.0	19.0
【女性年齢別】										
29歳以下(n=54)	7.4	9.3	3.7	1.9	3.7	1.9	0.0	0.0	0.0	79.6
30代(n=64)	32.8	37.5	10.9	6.3	3.1	1.6	1.6	0.0	0.0	43.8
40代(n=69)	46.4	66.7	23.2	14.5	4.3	5.8	4.3	0.0	0.0	18.8
50代(n=62)	69.4	37.1	24.2	14.5	4.8	8.1	1.6	0.0	0.0	22.6
60代(n=89)	71.9	11.2	15.7	13.5	2.2	4.5	2.2	0.0	0.0	21.3
70歳以上(n=91)	58.2	6.6	36.3	17.6	13.2	20.9	0.0	0.0	0.0	19.8

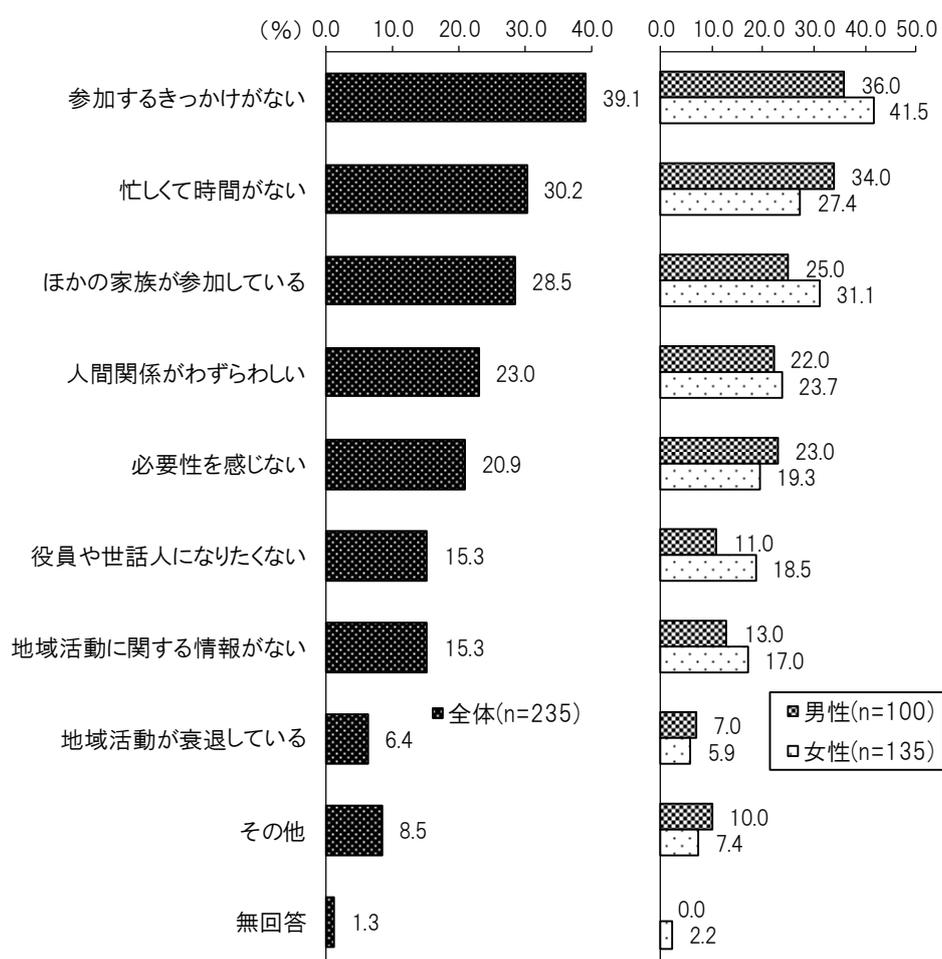
2 地域活動に参加していない理由

【問 22 で「10（特に参加していない）」と答えた方におたずねします。】

問 23 「特に参加していない」理由を教えてください。（○印いくつでも）

地域活動に参加していない理由については、「参加するきっかけがない」の割合が 39.1% と最も高く、次いで「忙しくて時間がない」（30.2%）、「ほかの家族が参加している」（28.5%）、「人間関係がわずらわしい」（23.0%）、「必要性を感じない」（20.9%）の順となっている。

性別では、女性は男性に比べ「参加するきっかけがない」「ほかの家族が参加している」「役員や世話人になりたくない」などの割合が高くなっている。



年齢別では、男女共に 50 代で「忙しくて時間がない」の割合が高く、男性は 29 歳以下で「参加するきっかけがない」、40 代で「人間関係がわずらわしい」、70 歳以上で「ほかの家族が参加している」の割合がそれぞれ高くなっている。また、女性は 50 代で「人間関係がわずらわしい」、60 代で「役員や世話人になりたくない」の割合がそれぞれ高くなっている。

単位 (%)	参加するきっかけがない	忙しくて時間がない	ほかの家族が参加している	人間関係がわずらわしい	必要性を感じない	役員や世話人になりたくない	地域活動に関する情報がない	地域活動が衰退している	その他
全体(n=235)	39.1	30.2	28.5	23.0	20.9	15.3	15.3	6.4	8.5
【男性年齢別】									
29歳以下(n=23)	47.8	26.1	21.7	8.7	30.4	8.7	13.0	4.3	8.7
30代(n=25)	36.0	44.0	20.0	36.0	36.0	12.0	12.0	20.0	4.0
40代(n=15)	33.3	26.7	33.3	46.7	26.7	20.0	6.7	6.7	13.3
50代(n=17)	35.3	47.1	29.4	5.9	5.9	11.8	11.8	0.0	17.6
60代(n=8)	12.5	37.5	0.0	25.0	12.5	0.0	37.5	0.0	25.0
70歳以上(n=12)	33.3	16.7	41.7	8.3	8.3	8.3	8.3	0.0	0.0
【女性年齢別】									
29歳以下(n=43)	41.9	27.9	37.2	14.0	11.6	4.7	18.6	4.7	4.7
30代(n=28)	50.0	35.7	21.4	25.0	14.3	28.6	14.3	0.0	14.3
40代(n=13)	53.8	15.4	46.2	23.1	30.8	23.1	23.1	15.4	7.7
50代(n=14)	21.4	42.9	42.9	42.9	35.7	7.1	7.1	0.0	7.1
60代(n=19)	42.1	26.3	10.5	26.3	15.8	36.8	10.5	10.5	5.3
70歳以上(n=18)	33.3	11.1	33.3	27.8	27.8	22.2	27.8	11.1	5.6

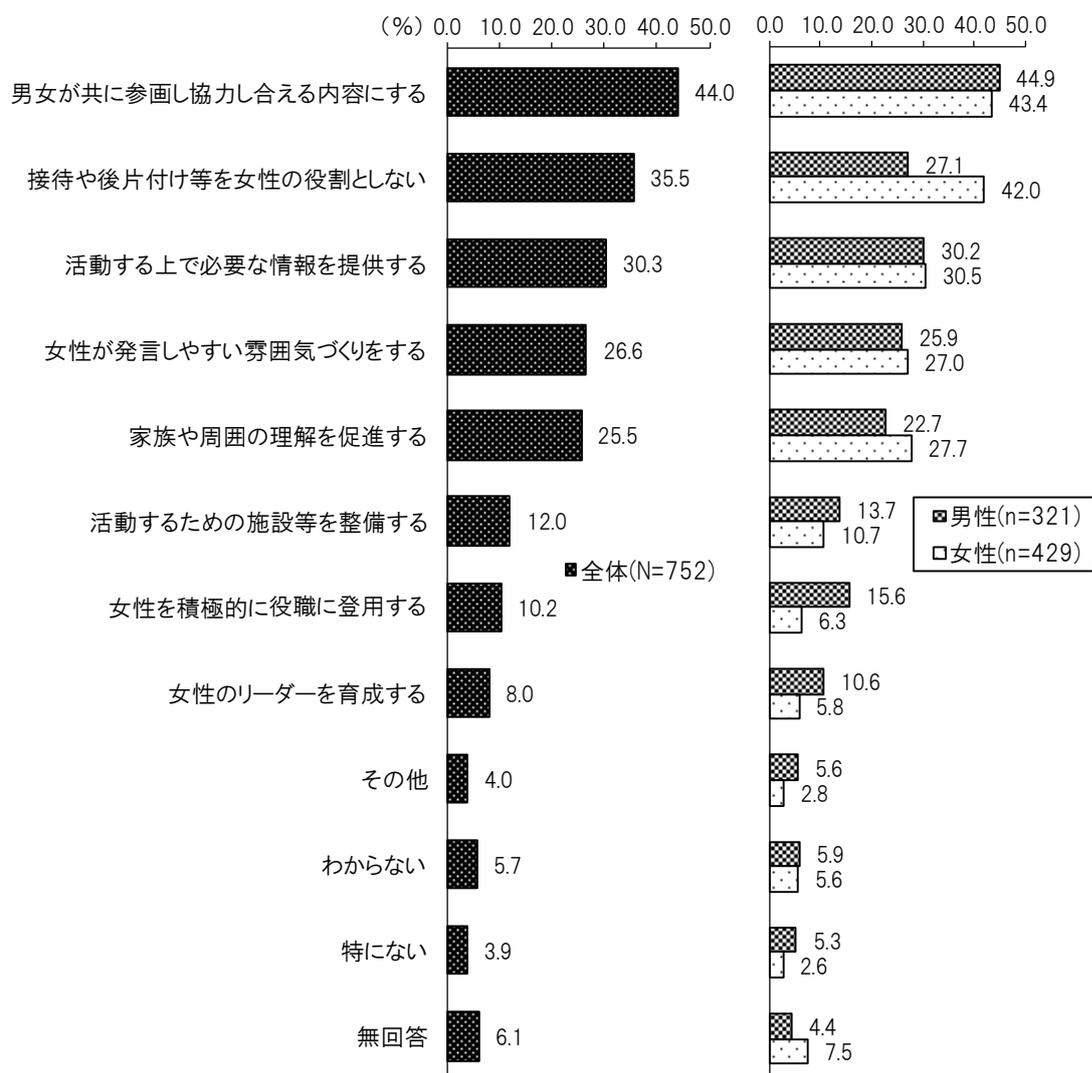
注：男性の 60 代については、件数(n=)が少ないため参考値として参照

3 誰もが地域活動に参加していくために必要なこと

問 24 性別にかかわらず、誰もが地域活動に積極的に参加していくために、どのようなことが必要だと思いますか。（○印3つまで）

誰もが地域活動に参加していくために必要なことについては、「男女が共に参画し協力し合える内容にする」の割合が44.0%と最も高く、次いで「接待や後片付け等を女性の役割としない」（35.5%）、「活動する上で必要な情報を提供する」（30.3%）、「女性が発言しやすい雰囲気づくりをする」（26.6%）の順となっている。

性別では、女性は「接待や後片付け等を女性の役割としない」の割合が男性を大きく上回っている。



年齢別では、男性は29歳以下で「家族や周囲の理解を促進する」、40代で「接待や後片付け等を女性の役割としない」、60代以上で「男女が共に参画し協力し合える内容にする」、70歳以上で「活動する上で必要な情報を提供する」の割合がそれぞれ高く、女性は30代で「接待や後片付け等を女性の役割としない」の割合が高くなっている。

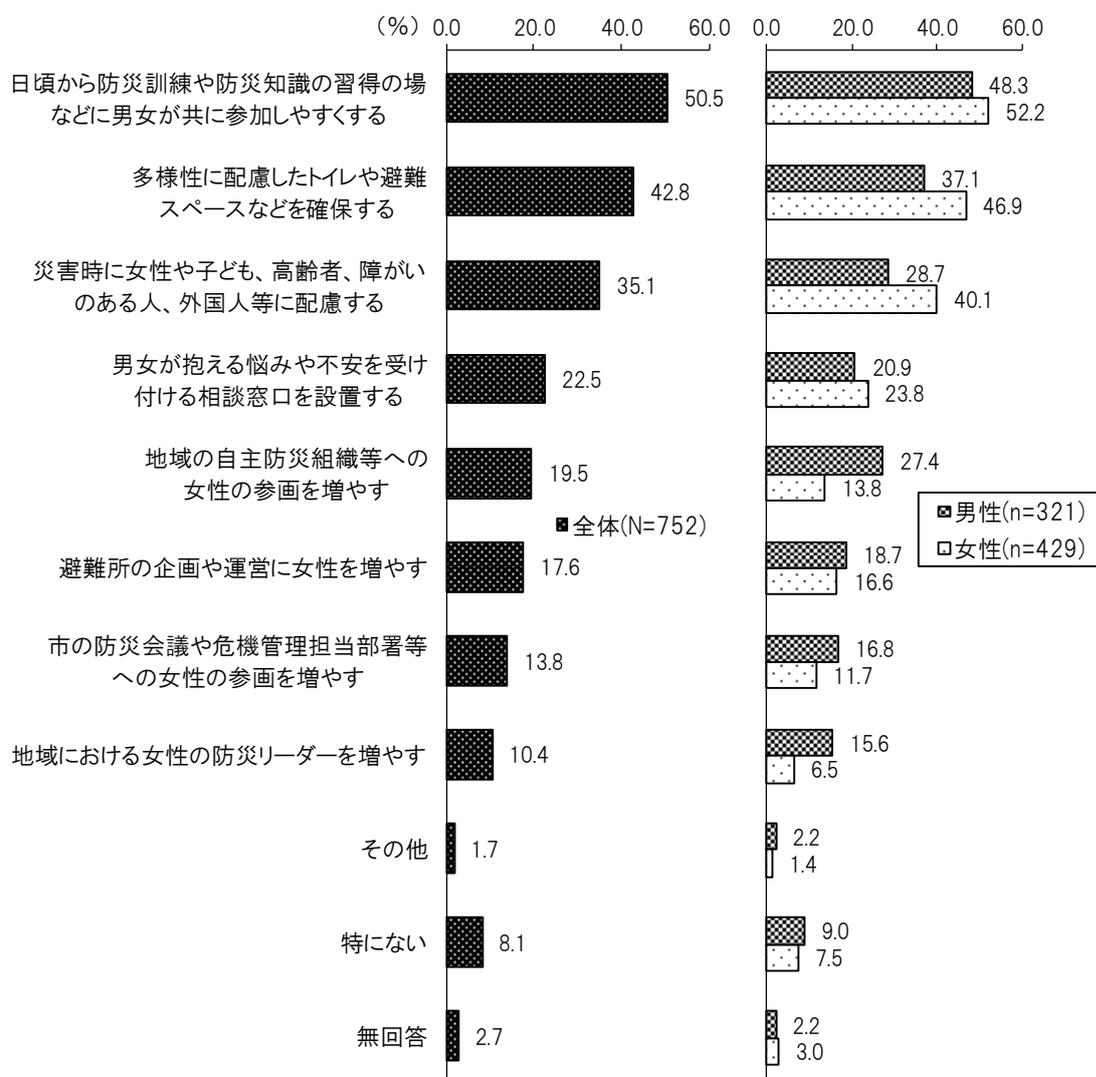
単位 (%)	男女が共に参画し協力し合える	接待や後片付け等を女性の役割としない	活動する上で必要な情報を提供する	女性が発言しやすい雰囲気づくりをする	家族や周囲の理解を促進する	活動するための施設等を整備する	女性を積極的に役職に登用する	女性のリーダーを育成する	その他	わからない	特にない
全体(N=752)	44.0	35.5	30.3	26.6	25.5	12.0	10.2	8.0	4.0	5.7	3.9
【男性年齢別】											
29歳以下(n=34)	35.3	23.5	8.8	26.5	32.4	8.8	0.0	2.9	2.9	14.7	5.9
30代(n=61)	36.1	23.0	29.5	18.0	21.3	11.5	13.1	13.1	8.2	6.6	9.8
40代(n=54)	40.7	38.9	25.9	20.4	24.1	13.0	9.3	9.3	5.6	7.4	5.6
50代(n=51)	39.2	23.5	27.5	31.4	21.6	13.7	21.6	13.7	9.8	3.9	7.8
60代(n=58)	58.6	22.4	36.2	27.6	25.9	17.2	22.4	5.2	1.7	3.4	1.7
70歳以上(n=63)	54.0	30.2	42.9	31.7	15.9	15.9	20.6	15.9	4.8	3.2	1.6
【女性年齢別】											
29歳以下(n=54)	31.5	44.4	33.3	31.5	20.4	9.3	9.3	11.1	3.7	11.1	1.9
30代(n=64)	43.8	59.4	21.9	23.4	35.9	10.9	4.7	1.6	3.1	4.7	0.0
40代(n=69)	40.6	47.8	34.8	20.3	27.5	11.6	8.7	2.9	7.2	8.7	0.0
50代(n=62)	51.6	43.5	25.8	32.3	24.2	11.3	4.8	6.5	1.6	6.5	1.6
60代(n=89)	47.2	33.7	27.0	28.1	24.7	10.1	10.1	9.0	2.2	3.4	4.5
70歳以上(n=91)	42.9	30.8	38.5	27.5	31.9	11.0	1.1	4.4	0.0	2.2	5.5

4 地域の防災において強化すべき取組

問 25 あなたは、地域の防災（災害対応）において、男女共同参画を推進するためには、今後、どのような取組を強化すべきだと思いますか。（○印3つまで）

地域の防災において強化すべき取組については、「日頃から防災訓練や防災知識の習得の場などに男女が共に参加しやすくする」の割合が50.5%と最も高く、次いで「多様性に配慮したトイレや避難スペースなどを確保する」（42.8%）、「災害時に女性や子ども、高齢者、障がいのある人、外国人等に配慮する」（35.1%）、「男女が抱える悩みや不安を受け付ける相談窓口を設置する」（22.5%）の順となっている。

性別では、女性は「多様性に配慮したトイレや避難スペースなどを確保する」「災害時に女性や子ども、高齢者、障がいのある人、外国人等に配慮する」の割合が男性を大きく上回っている。



年齢別では、男性は29歳以下で「多様性に配慮したトイレや避難スペースなどを確保する」、50代で「災害時に女性や子ども、高齢者、障がいのある人、外国人等に配慮する」、70歳以上で「日頃から防災訓練や防災知識の習得の場などに男女が共に参加しやすくする」の割合がそれぞれ高く、女性は30代で「災害時に女性や子ども、高齢者、障がいのある人、外国人等に配慮する」の割合が高くなっている。

単位 (%)	す 得 日 頃 か ら 防 災 訓 練 や 防 災 知 識 の 習 得 の 場 な ど に 男 女 が 共 に 参 加 し や す く す る	多 様 性 に 配 慮 し た ト イ レ や 避 難 ス ペ ー ス な ど を 確 保 す る	障 が い の あ る 人 、 子 ど も 、 高 齢 者 、 外 国 人 等 に 配 慮 す る	男 女 が 抱 え る 悩 み や 不 安 を 受 け 付 ける 相 談 窓 口 を 設 置 す る	参 画 を 増 や す 地 域 の 自 主 防 災 組 織 等 へ の 女 性 の 参 画	避 難 所 の 企 画 や 運 営 に 女 性 を 増 や す	市 の 防 災 会 議 や 危 機 管 理 担 当 部 署 等 へ の 女 性 の 参 画 を 増 や す	地 域 に お け る 女 性 の 防 災 リ ー ダ ー を 増 や す	そ の 他	特 に な い
全体(N=752)	50.5	42.8	35.1	22.5	19.5	17.6	13.8	10.4	1.7	8.1
【男性年齢別】										
29歳以下(n=34)	32.4	47.1	32.4	17.6	17.6	5.9	2.9	11.8	0.0	26.5
30代(n=61)	36.1	37.7	26.2	21.3	14.8	21.3	23.0	18.0	1.6	11.5
40代(n=54)	51.9	37.0	24.1	11.1	25.9	22.2	18.5	7.4	3.7	9.3
50代(n=51)	45.1	31.4	49.0	29.4	27.5	17.6	17.6	13.7	5.9	5.9
60代(n=58)	51.7	34.5	22.4	24.1	34.5	17.2	22.4	17.2	0.0	3.4
70歳以上(n=63)	65.1	38.1	22.2	20.6	39.7	22.2	11.1	22.2	1.6	4.8
【女性年齢別】										
29歳以下(n=54)	50.0	46.3	37.0	31.5	11.1	18.5	16.7	1.9	1.9	9.3
30代(n=64)	43.8	45.3	50.0	26.6	12.5	9.4	4.7	6.3	3.1	9.4
40代(n=69)	47.8	50.7	44.9	29.0	8.7	15.9	14.5	14.5	4.3	4.3
50代(n=62)	58.1	45.2	38.7	17.7	19.4	21.0	14.5	8.1	0.0	9.7
60代(n=89)	57.3	43.8	38.2	25.8	10.1	15.7	13.5	4.5	0.0	7.9
70歳以上(n=91)	53.8	49.5	34.1	15.4	19.8	18.7	7.7	4.4	0.0	5.5

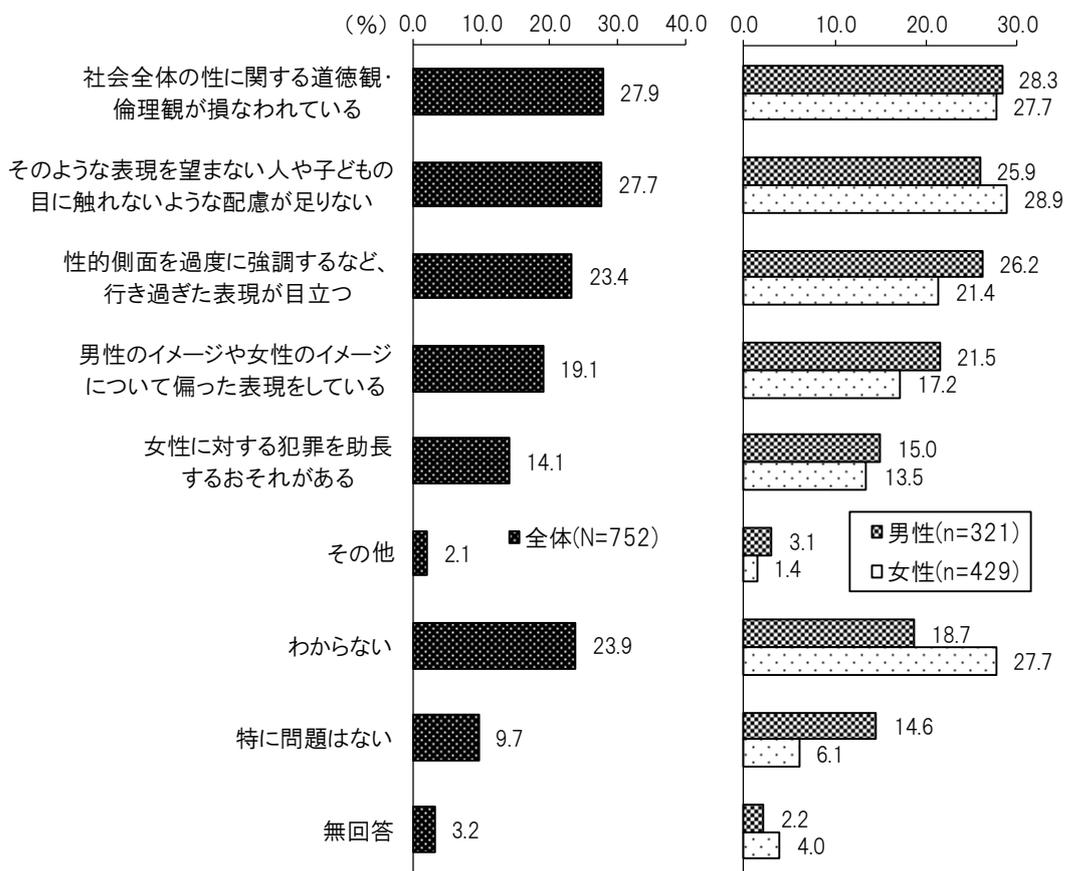
【5】人権や暴力の防止等について

1 メディアにおける表現について

問 26 あなたは、メディアにおける固定的な性別役割分担の表現や性・暴力表現について、どのようにお考えですか。（○印いくつでも）

メディアにおける表現については、「社会全体の性に関する道德観・倫理観が損なわれている」の割合が27.9%と最も高く、ほぼ並んで「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」（27.7%）が続き、以下「性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ」（23.4%）、「男性のイメージや女性のイメージについて偏った表現をしている」（19.1%）の順となっている。

性別では、男性は女性に比べ「特に問題はない」の割合が高く、女性は「わからない」の割合が男性を上回っている。

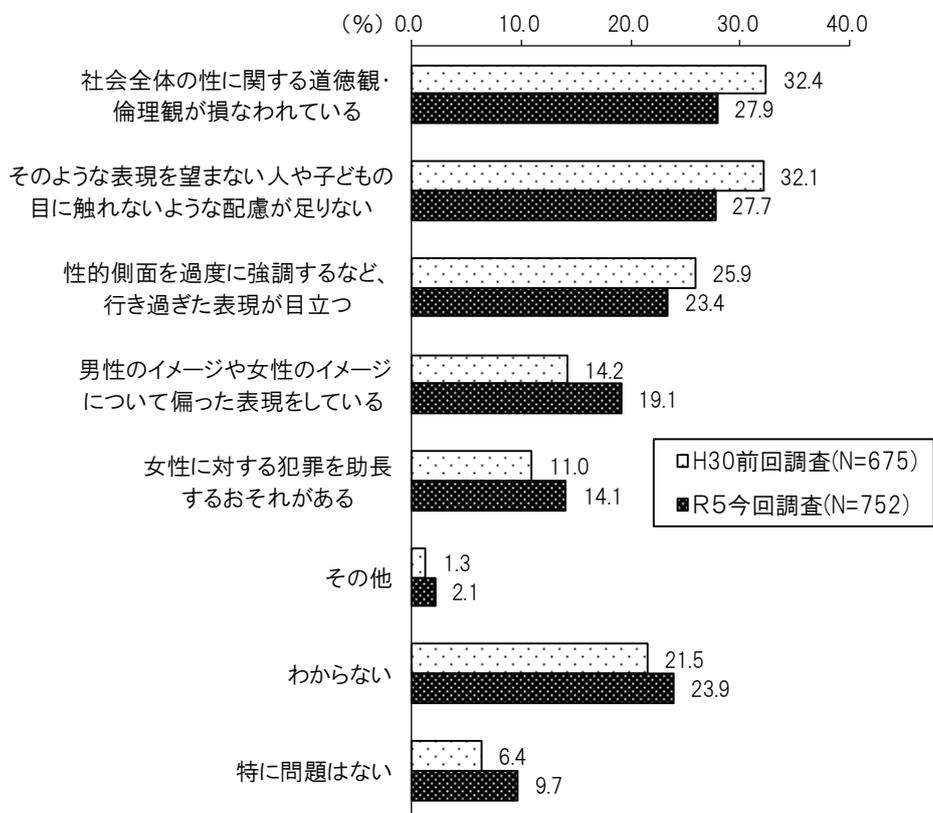


性別では、男女共に29歳以下で「男性のイメージや女性のイメージについて偏った表現をしている」、60代以上で「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。

単位 (%)	社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている	子どものような表現を望まない人や配慮が足りない	性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ	男性のイメージや女性のイメージについて偏った表現をしてい	女性に対する犯罪を助長するおそれがある	その他	わからない	特に問題はない
全体(N=752)	27.9	27.7	23.4	19.1	14.1	2.1	23.9	9.7
【男性年齢別】								
29歳以下(n=34)	20.6	29.4	20.6	35.3	11.8	2.9	29.4	11.8
30代(n=61)	18.0	24.6	21.3	24.6	16.4	1.6	19.7	19.7
40代(n=54)	13.0	14.8	18.5	18.5	11.1	3.7	27.8	18.5
50代(n=51)	29.4	25.5	23.5	19.6	15.7	5.9	11.8	21.6
60代(n=58)	36.2	31.0	41.4	13.8	20.7	3.4	10.3	5.2
70歳以上(n=63)	47.6	30.2	28.6	22.2	12.7	1.6	17.5	11.1
【女性年齢別】								
29歳以下(n=54)	14.8	20.4	18.5	25.9	14.8	3.7	35.2	7.4
30代(n=64)	18.8	29.7	14.1	20.3	10.9	0.0	39.1	6.3
40代(n=69)	23.2	37.7	14.5	18.8	13.0	0.0	24.6	8.7
50代(n=62)	24.2	25.8	30.6	17.7	16.1	1.6	22.6	6.5
60代(n=89)	37.1	33.7	21.3	18.0	15.7	1.1	19.1	2.2
70歳以上(n=91)	38.5	24.2	27.5	7.7	11.0	2.2	29.7	6.6

【時系列推移】

前回調査結果と比べ、「男性のイメージや女性のイメージについて偏った表現をしている」が増加した。

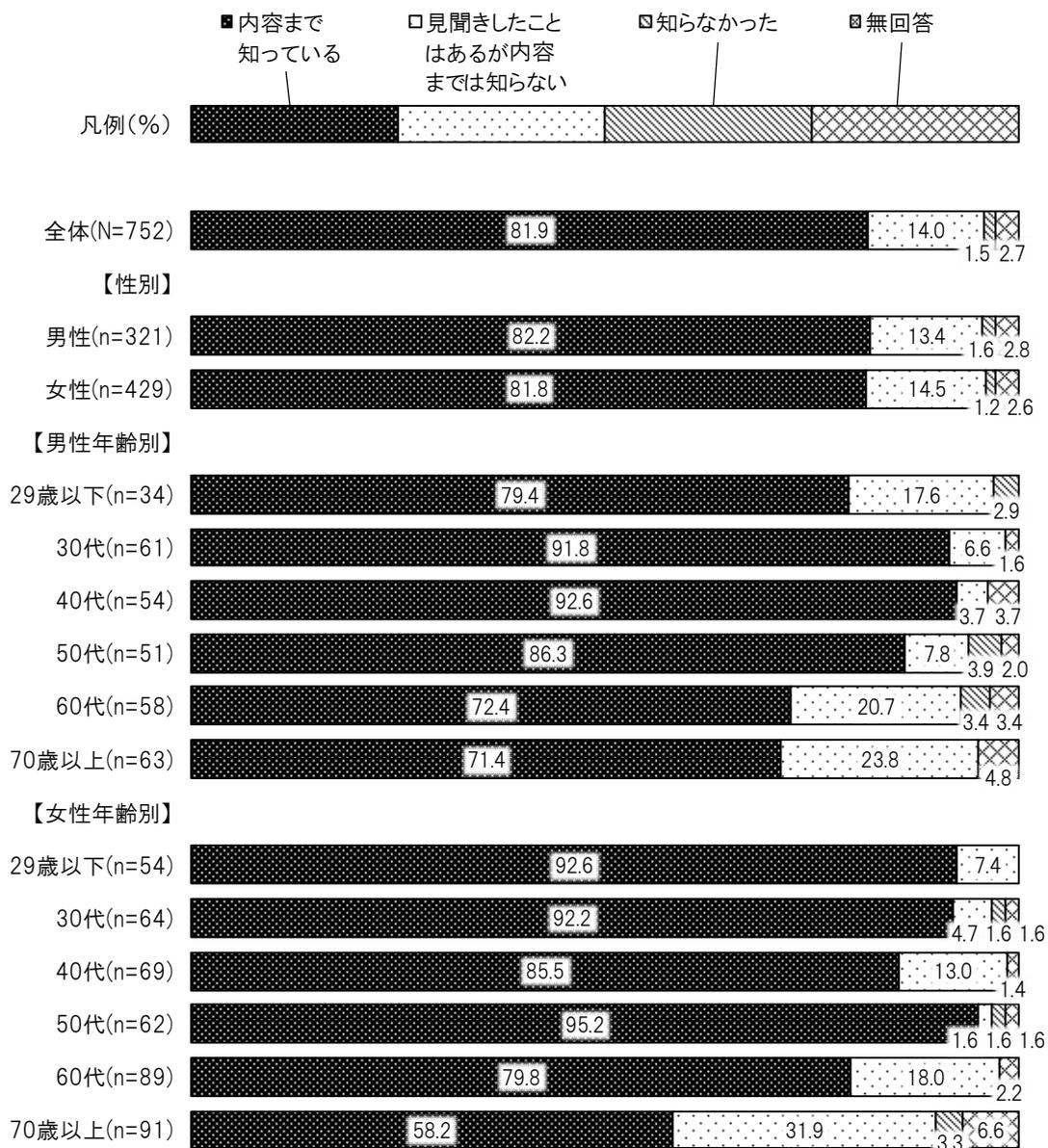


2 セクシュアルハラスメントの認知

問 27 あなたは「セクシュアルハラスメント（セクハラ）」という言葉を知っていますか。（○印1つ）

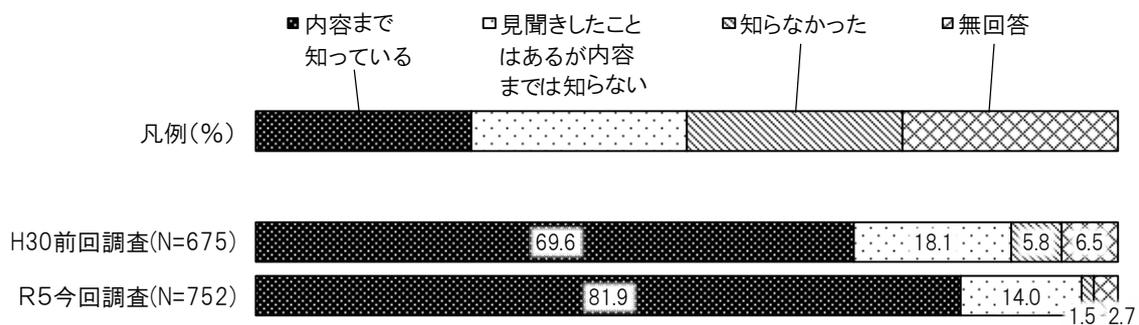
セクシュアルハラスメントについては、「内容まで知っている」が81.9%、「見聞きしたことはあるが内容までは知らない」が14.0%、合計で95.9%となっている。一方、「知らなかった」は1.5%となっている。

性別では大きな差はみられないが、年齢別では、男性の60代以上や女性の70歳以上で「見聞きしたことはあるが内容までは知らない」の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。



【時系列推移】

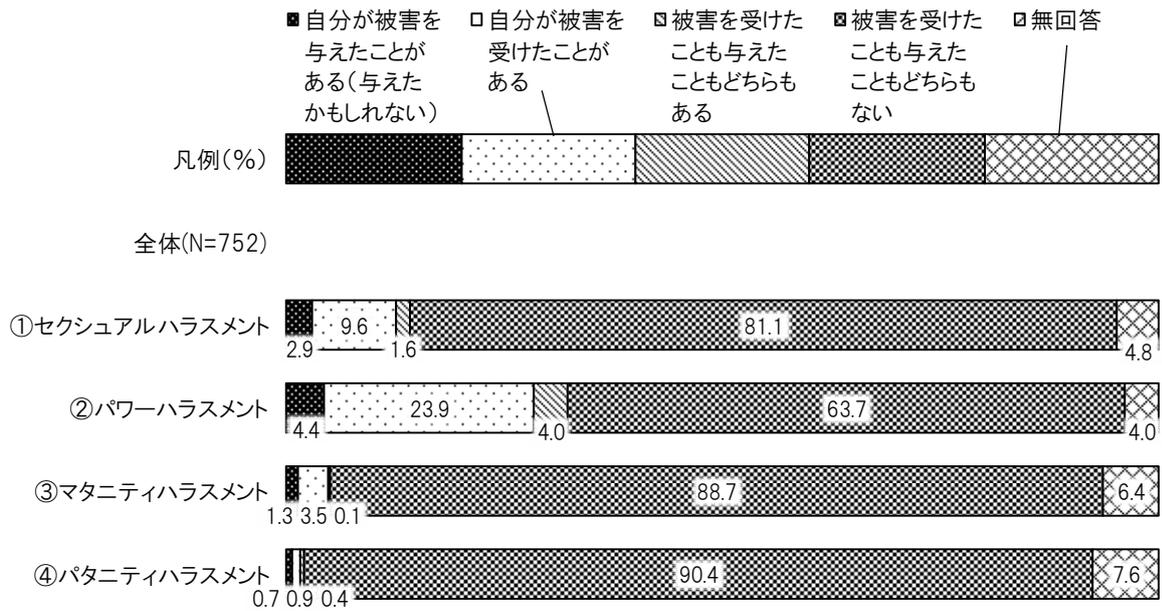
前回調査結果と比べ、「内容まで知っている」が大きく増加した。



3 各種ハラスメントの経験

問 28 あなたは、ここ数年の間に、次の各種ハラスメント行為の経験がありますか。
(○印1つずつ)

各種ハラスメントの経験について、「自分が被害を受けたことがある」の割合が高い順に「②パワーハラスメント」(23.9%)、「①セクシュアルハラスメント」(9.6%)、「③マタニティハラスメント」(3.5%)となっている。

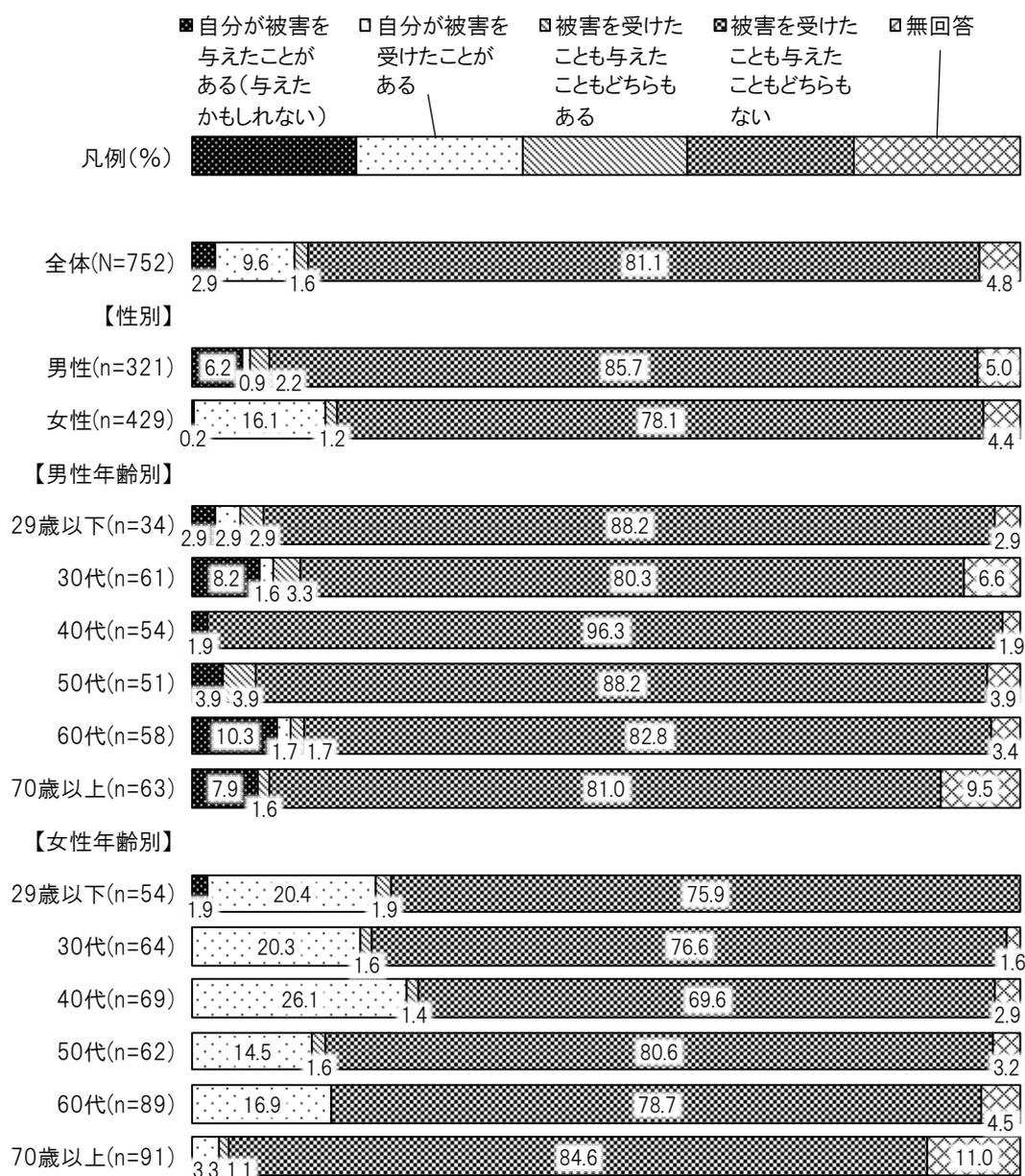


① セクシュアルハラスメント

セクシュアルハラスメントについては、「自分が被害を与えたことがある（与えたかもしれない）」が2.9%、「自分が被害を受けたことがある」が9.6%、「被害を受けたことも与えたこともどちらもある」が1.6%となっている。

性別では、女性は「自分が被害を受けたことがある」の割合が男性を大きく上回っている。

年齢別では、女性の40代で「自分が被害を受けたことがある」の割合が他の年齢層に比べて高くなっている。

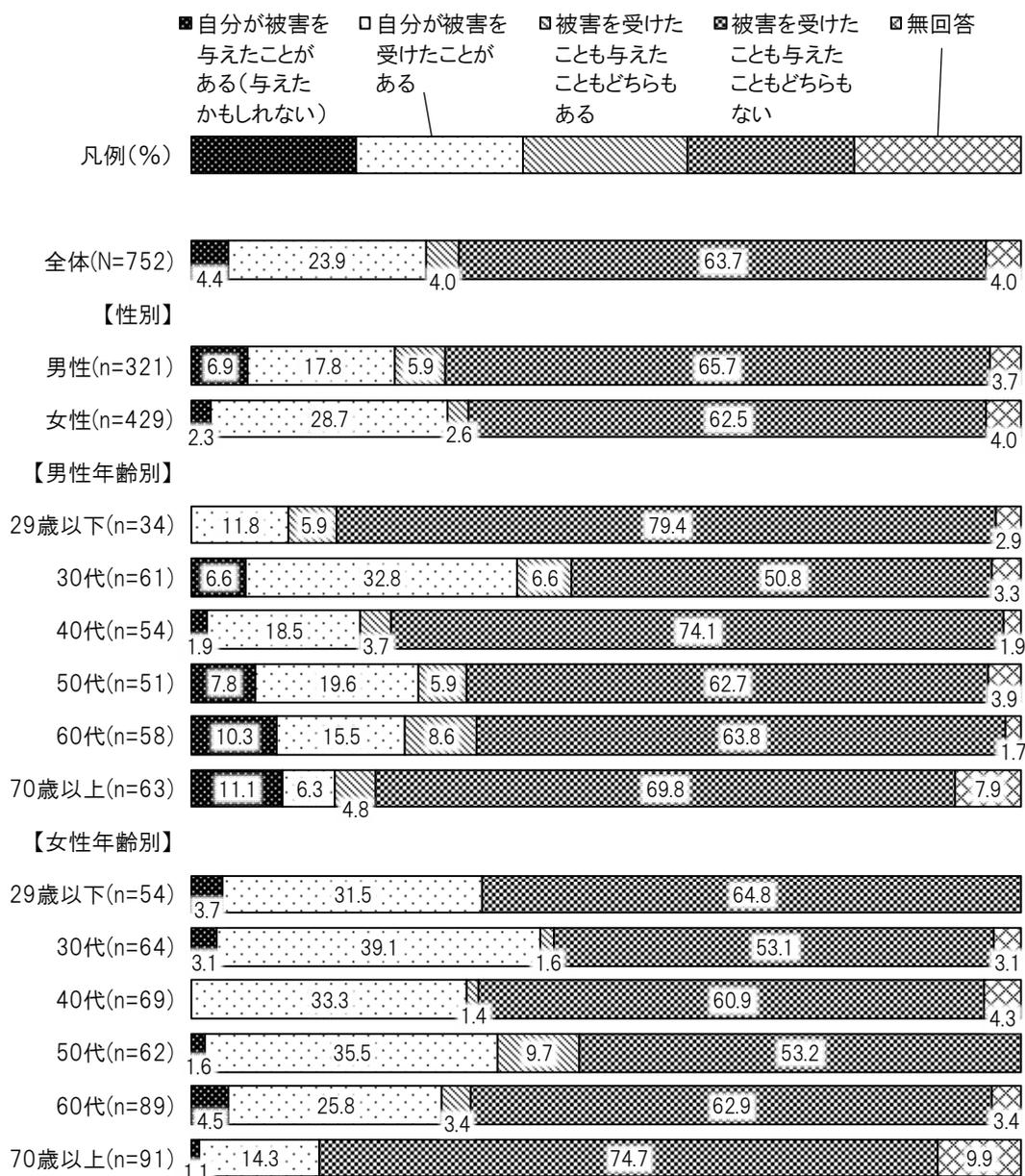


② パワーハラスメント

パワーハラスメントについては、「自分が被害を与えたことがある（与えたかもしれない）」が4.4%、「自分が被害を受けたことがある」が23.9%、「被害を受けたことも与えたこともどちらもある」が4.0%となっている。

性別では、女性は「自分が被害を受けたことがある」の割合が男性を大きく上回っている。

年齢別では、男女共に30代で「自分が被害を受けたことがある」の割合が他の年齢層に比べて高くなっている。

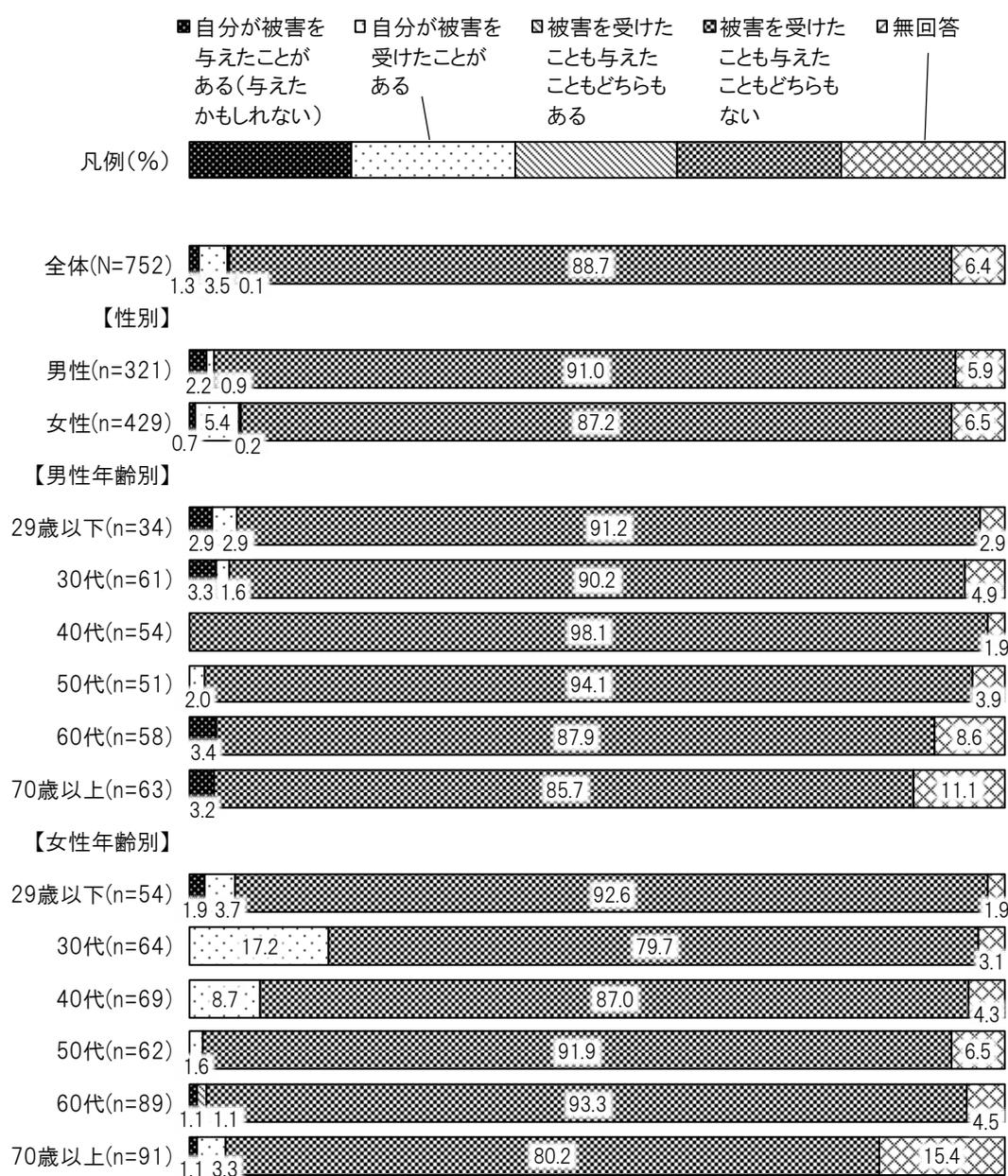


③ マタニティハラスメント

マタニティハラスメントについては、「自分が被害を与えたことがある（与えたかもしれない）」が1.3%、「自分が被害を受けたことがある」が3.5%、「被害を受けたことも与えたこともどちらもある」が0.1%となっている。

性別では、女性は男性に比べ「自分が被害を受けたことがある」の割合が高くなっている。

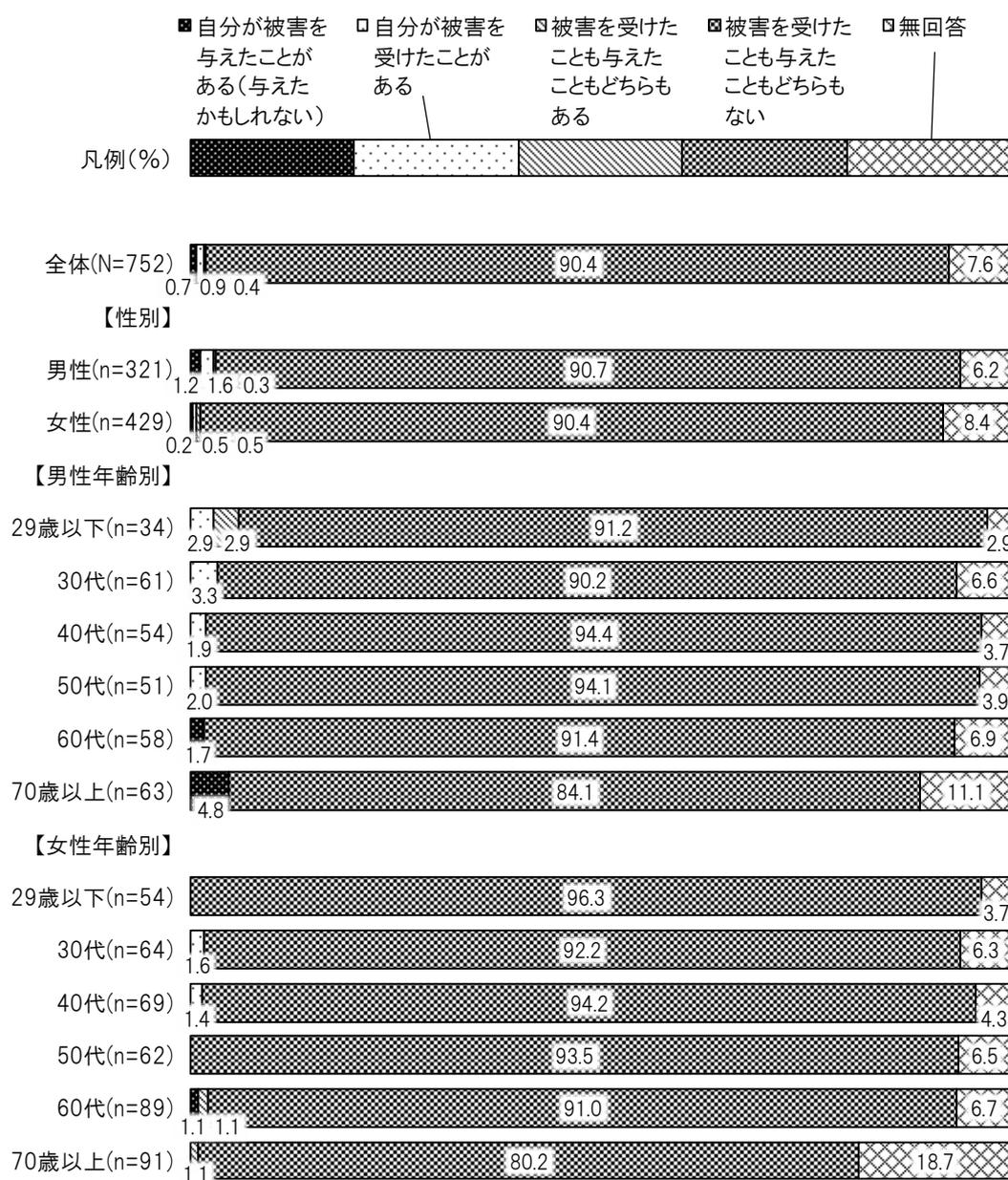
年齢別では、女性の30代で「自分が被害を受けたことがある」の割合が他の年齢層に比べて高くなっている。



④ パタニティハラスメント

パタニティハラスメントについては、「自分が被害を与えたことがある（与えたかもしれない）」が0.7%、「自分が被害を受けたことがある」が0.9%、「被害を受けたことも与えたこともどちらもある」が0.4%となっている。

性別では大きな差はみられないが、年齢別では男性の70歳以上で「自分が被害を与えたことがある（与えたかもしれない）」の割合が他の年齢層に比べてやや高くなっている。



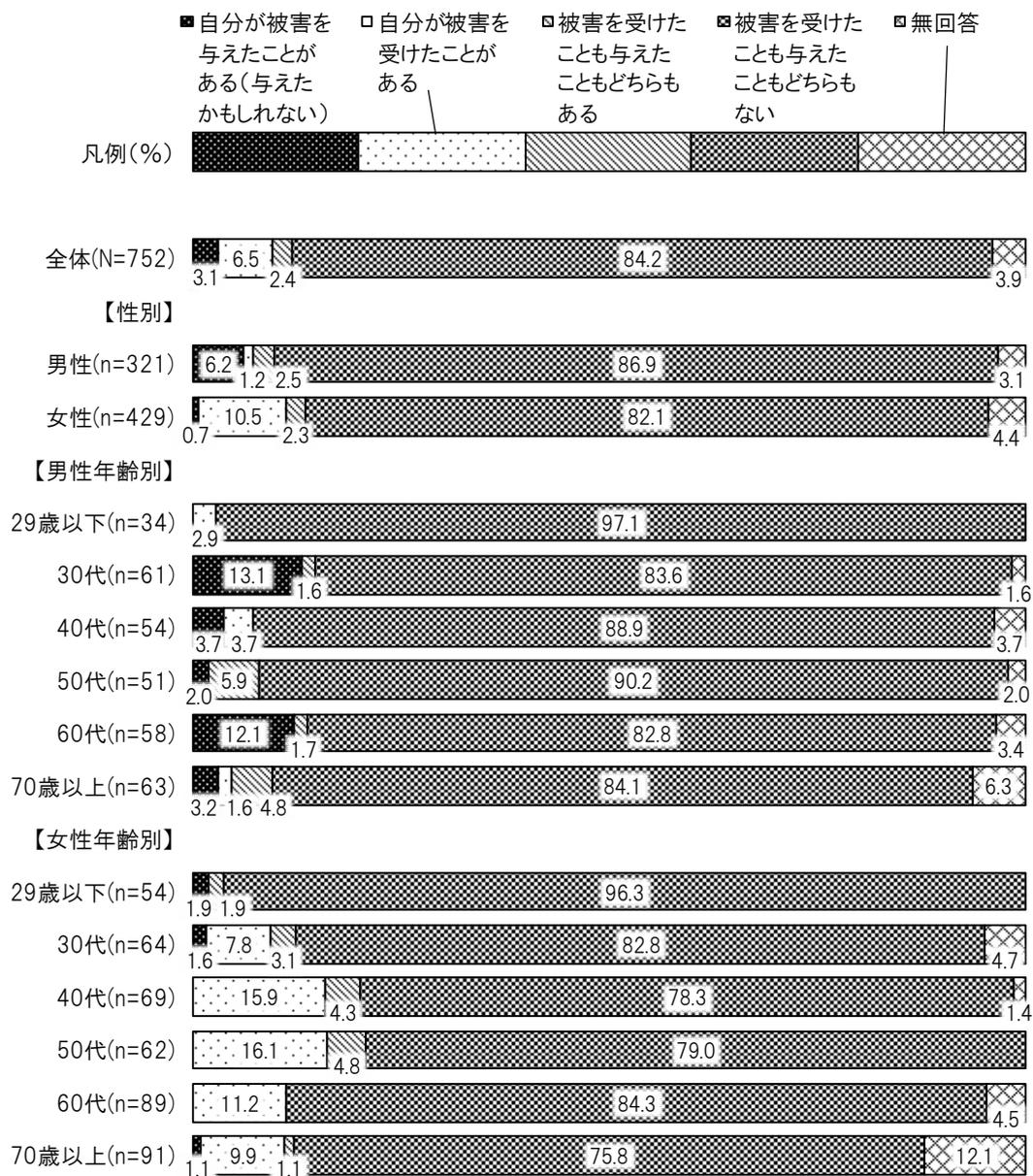
4 ドメスティック・バイオレンス（DV）の経験

問 29 あなたは、ここ数年の間に、ドメスティック・バイオレンス（DV）の経験がありますか。（○印1つ）

ドメスティック・バイオレンス（DV）については、「自分が被害を与えたことがある（与えたかもしれない）」が3.1%、「自分が被害を受けたことがある」が6.5%、「被害を受けたことも与えたこともどちらもある」が2.4%となっている。

性別では、女性は男性に比べ「自分が被害を受けたことがある」の割合が高くなっている。

年齢別では、女性の40～50代で「自分が被害を受けたことがある」の割合が他の年齢層に比べて高くなっている。

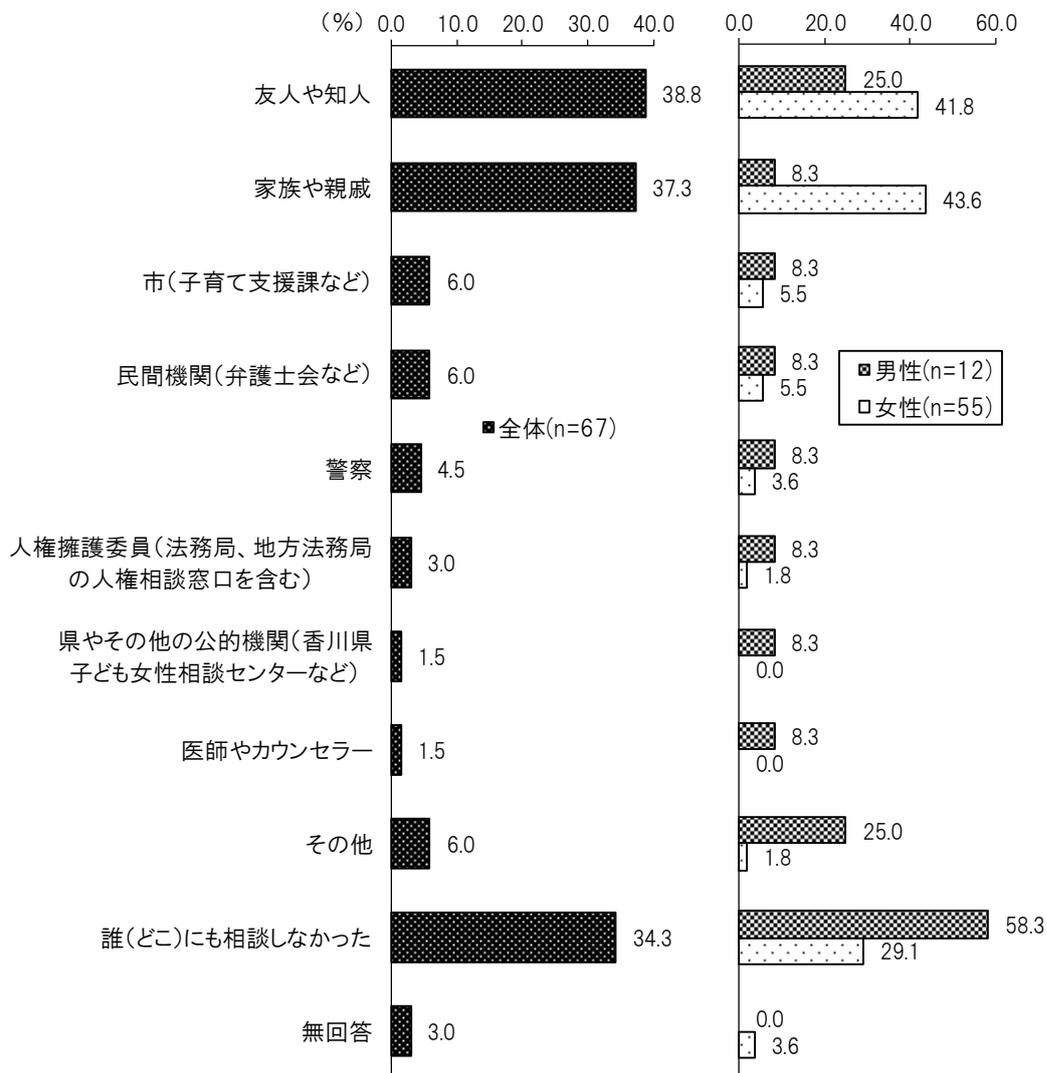


5 DVに関する相談状況

【問 29 で「2～3（被害を受けたことがある）」と答えた方におたずねします。】
 問 30 あなたは、ドメスティック・バイオレンス（DV）について、誰かに打ち明けた
 り、相談したりしましたか。（○印いくつでも）

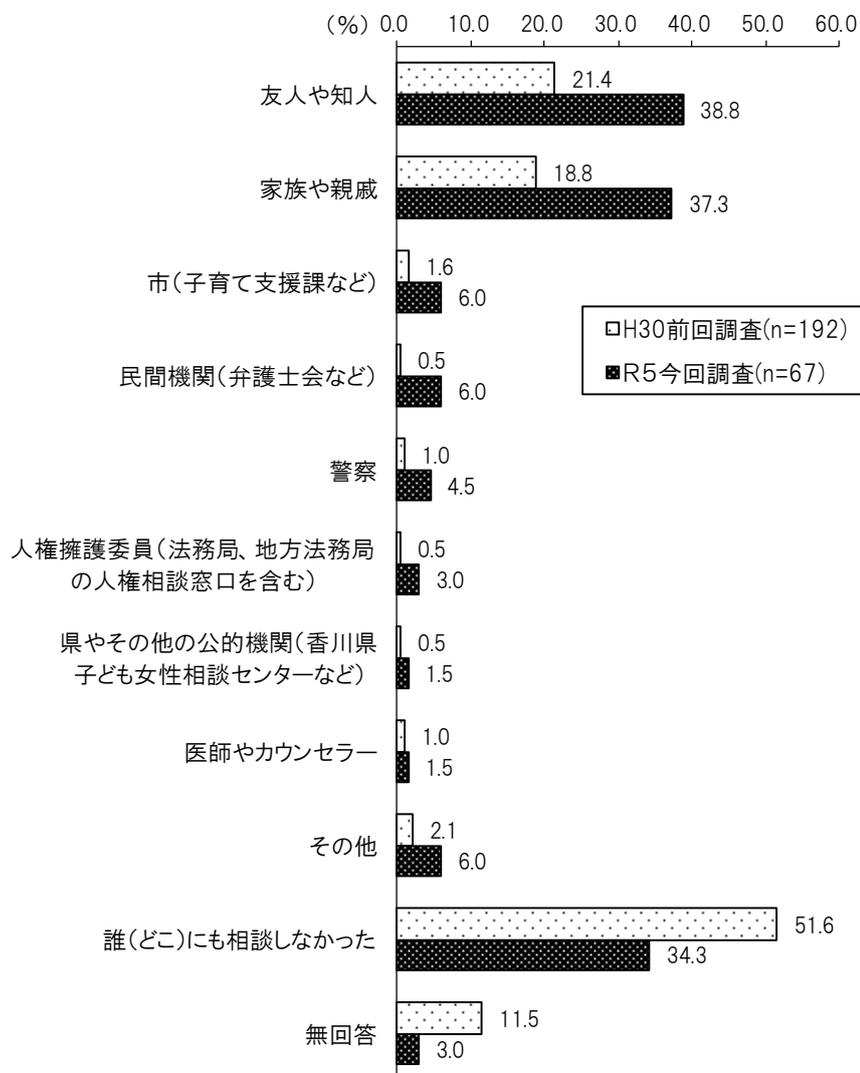
DVに関する相談状況については、「友人や知人」の割合が38.8%と最も高く、ほぼ並んで「家族や親戚」（37.3%）が続き、「誰（どこ）にも相談しなかった」は34.3%となっている。

性別では、男性は「誰（どこ）にも相談しなかった」の割合が女性を大きく上回っており、女性は男性に比べ「友人や知人」「家族や親戚」の割合が高くなっている。



【時系列推移】

前回調査結果と比べ、「友人や知人」「家族や親戚」が大きく増加し、「誰（どこ）にも相談しなかった」が大きく減少した。

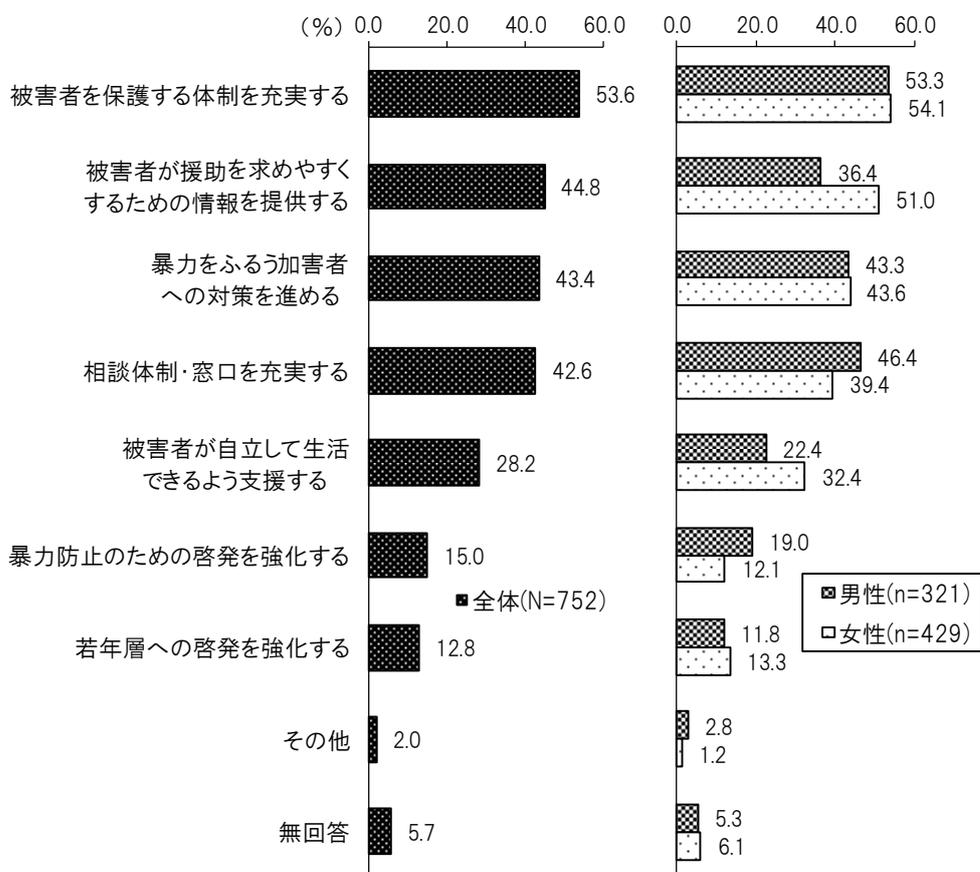


6 DV防止や被害者支援として必要な取組

問 31 あなたは、ドメスティック・バイオレンス（DV）の防止や被害者支援への取組として、どのようなことが必要だと思いますか。（○印3つまで）

DV防止や被害者支援として必要な取組については、「被害者を保護する体制を充実する」の割合が53.6%と最も高く、次いで「被害者が援助を求めやすくするための情報を提供する」（44.8%）、「暴力をふるう加害者への対策を進める」（43.4%）、「相談体制・窓口を充実する」（42.6%）の順となっている。

性別では、女性は「被害者が援助を求めやすくするための情報を提供する」「被害者が自立して生活できるよう支援する」の割合が男性を大きく上回っている。



年齢別では、男女共に50～60代で「相談体制・窓口を充実する」の割合が高く、男性は29歳以下で「被害者が援助を求めやすくするための情報を提供する」、40代で「暴力をふるう加害者への対策を進める」、70歳以上で「暴力防止のための啓発を強化する」の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。

単位 (%)	被害者を保護する体制を充実する	被害者が援助を求めやすくするための情報を提供する	暴力をふるう加害者への対策を進める	相談体制・窓口を充実する	被害者が自立して生活できるよう支援する	暴力防止のための啓発を強化する	若年層への啓発を強化する	その他
全体(N=752)	53.6	44.8	43.4	42.6	28.2	15.0	12.8	2.0
【男性年齢別】								
29歳以下(n=34)	58.8	47.1	35.3	41.2	32.4	14.7	14.7	2.9
30代(n=61)	50.8	37.7	45.9	39.3	23.0	11.5	18.0	3.3
40代(n=54)	59.3	38.9	53.7	31.5	27.8	14.8	7.4	5.6
50代(n=51)	62.7	27.5	45.1	56.9	21.6	19.6	15.7	2.0
60代(n=58)	41.4	41.4	34.5	60.3	24.1	22.4	10.3	1.7
70歳以上(n=63)	50.8	30.2	42.9	47.6	11.1	28.6	6.3	1.6
【女性年齢別】								
29歳以下(n=54)	59.3	55.6	50.0	38.9	22.2	13.0	7.4	1.9
30代(n=64)	67.2	50.0	54.7	37.5	37.5	12.5	15.6	1.6
40代(n=69)	63.8	49.3	52.2	29.0	39.1	4.3	18.8	1.4
50代(n=62)	48.4	50.0	45.2	51.6	40.3	11.3	17.7	1.6
60代(n=89)	49.4	56.2	42.7	48.3	27.0	15.7	13.5	0.0
70歳以上(n=91)	42.9	46.2	25.3	31.9	29.7	14.3	7.7	1.1

【6】男女共同参画の取組について

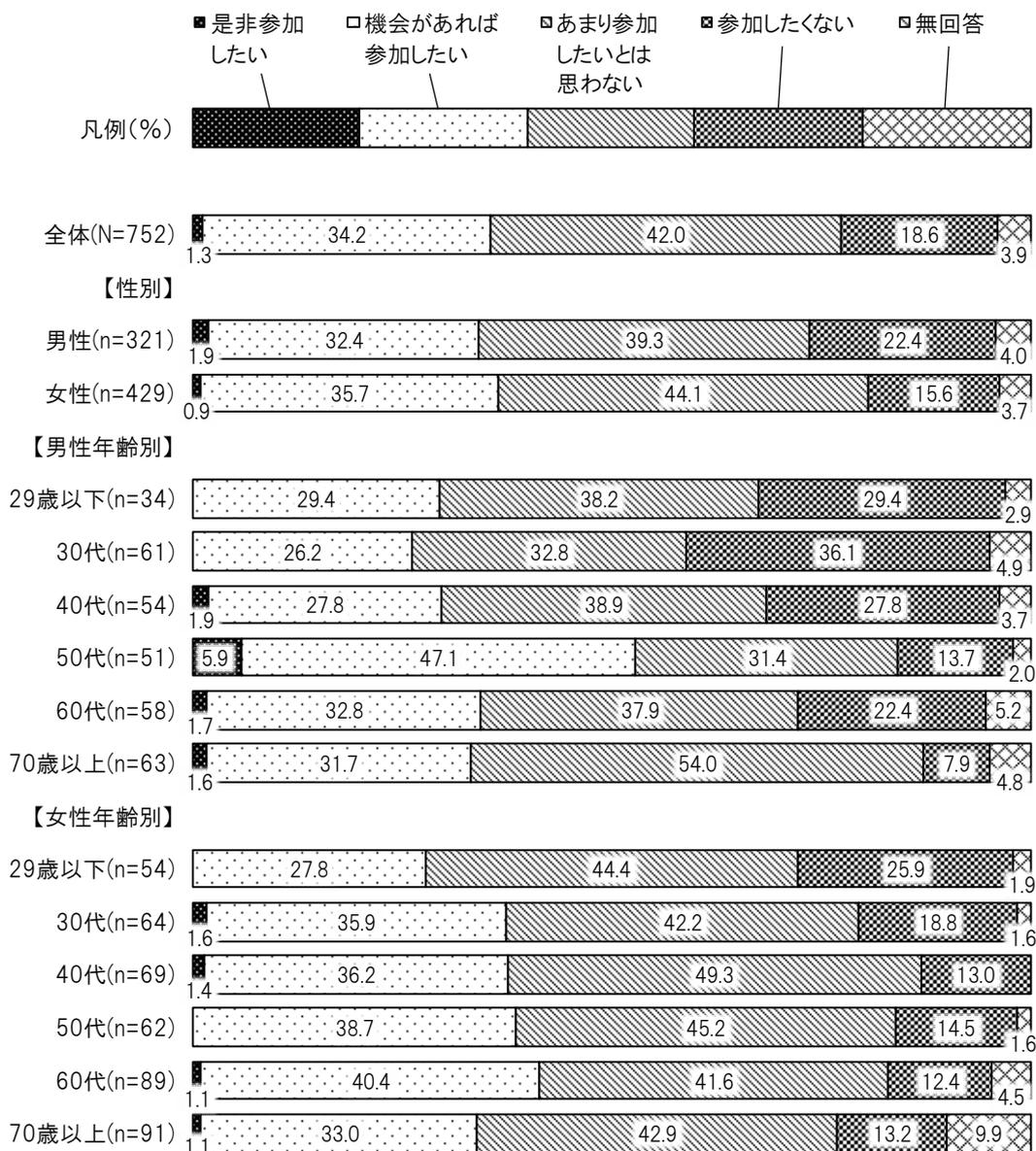
1 男女共同参画に関するセミナー等への参加意向

問 32 あなたは、今後、香川県や観音寺市が開催する男女共同参画に関するセミナーやイベント、講座などがあれば、参加（観覧）してみたいと思いますか。（○印1つ）

男女共同参画に関するセミナー等への参加意向については、「是非参加したい」が1.3%、「機会があれば参加したい」が34.2%、合計で35.5%が『参加したい』と回答している。一方、「あまり参加したいとは思わない」（42.0%）、「参加したくない」（18.6%）の合計は60.6%となっている。

性別では、男性は女性に比べ「参加したくない」の割合が高くなっている。

年齢別では、男性の50代で『参加したい（合計）』の割合が他の年齢層を大きく上回っている。

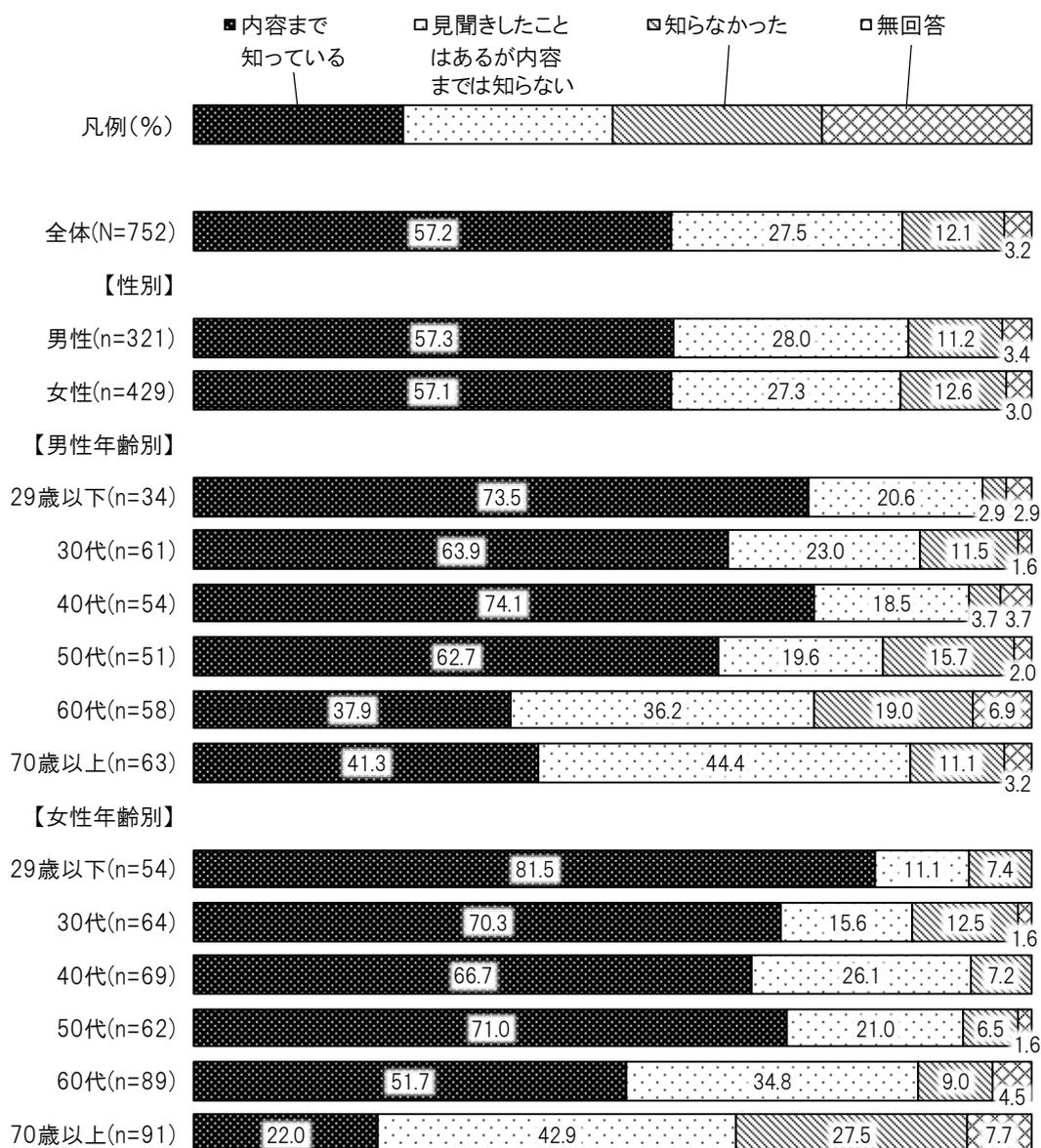


2 LGBTQの認知

問 33 あなたは「LGBTQ（性的少数者）」という言葉を知っていますか。
 (○印1つ)

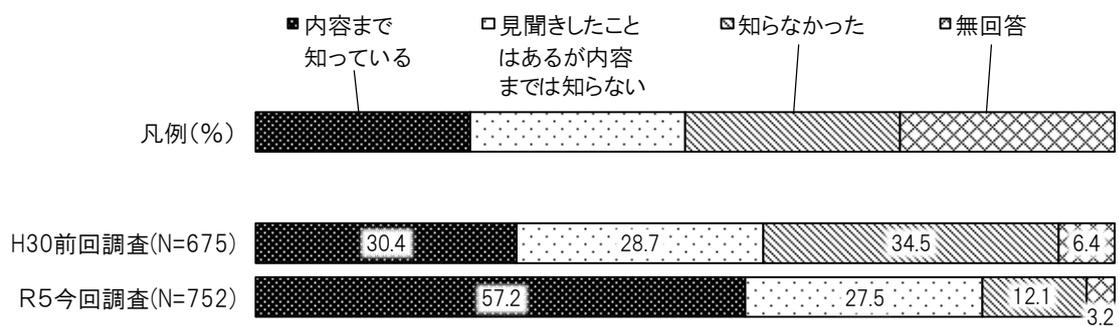
LGBTQについては、「内容まで知っている」が57.2%、「見聞きしたことはあるが内容までは知らない」が27.5%、合計で84.7%となっている。一方、「知らなかった」は12.1%となっている。

性別では大きな差はみられないが、年齢別では、男女共に60代以上で「見聞きしたことはあるが内容までは知らない」の割合が他の年齢層に比べて高くなっている。



【時系列推移】

前回調査結果と比べ、「内容まで知っている」が大きく増加した。



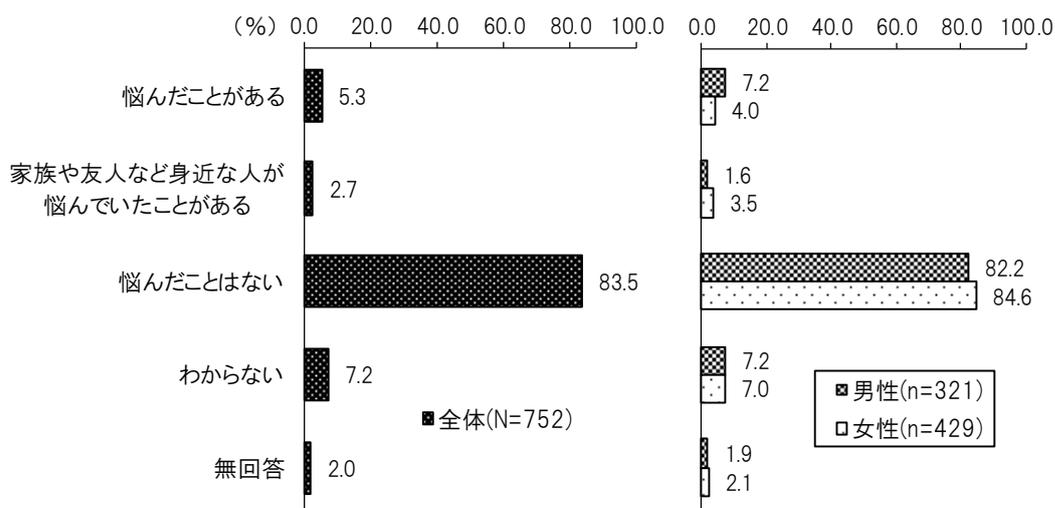
3 性的指向などに悩んだ経験

問 34 あなたは今までに自分の身体の性や心の性、又は性的指向などに悩んだことがありますか。(○印いくつでも)

性的指向などに悩んだ経験については、「悩んだことがある」が5.3%、「家族や友人など身近な人が悩んでいたことがある」が2.7%となっている。

性別では、男性は女性に比べ「悩んだことがある」の割合がやや高くなっている。

年齢別では、女性の29歳以下で「悩んだことがある」「家族や友人など身近な人が悩んでいたことがある」の割合が他の年齢層に比べてやや高くなっている。



単位 (%)	悩んだことがある	家族や友人など身近な人が悩んでいたことがある	悩んだことはない	わからない
全体(N=752)	5.3	2.7	83.5	7.2
【男性年齢別】				
29歳以下(n=34)	5.9	0.0	79.4	14.7
30代(n=61)	8.2	6.6	78.7	3.3
40代(n=54)	7.4	0.0	85.2	5.6
50代(n=51)	7.8	0.0	84.3	5.9
60代(n=58)	6.9	0.0	79.3	10.3
70歳以上(n=63)	6.3	1.6	85.7	6.3
【女性年齢別】				
29歳以下(n=54)	9.3	11.1	72.2	11.1
30代(n=64)	4.7	6.3	82.8	7.8
40代(n=69)	2.9	2.9	88.4	7.2
50代(n=62)	1.6	1.6	85.5	8.1
60代(n=89)	3.4	1.1	88.8	3.4
70歳以上(n=91)	3.3	1.1	85.7	6.6

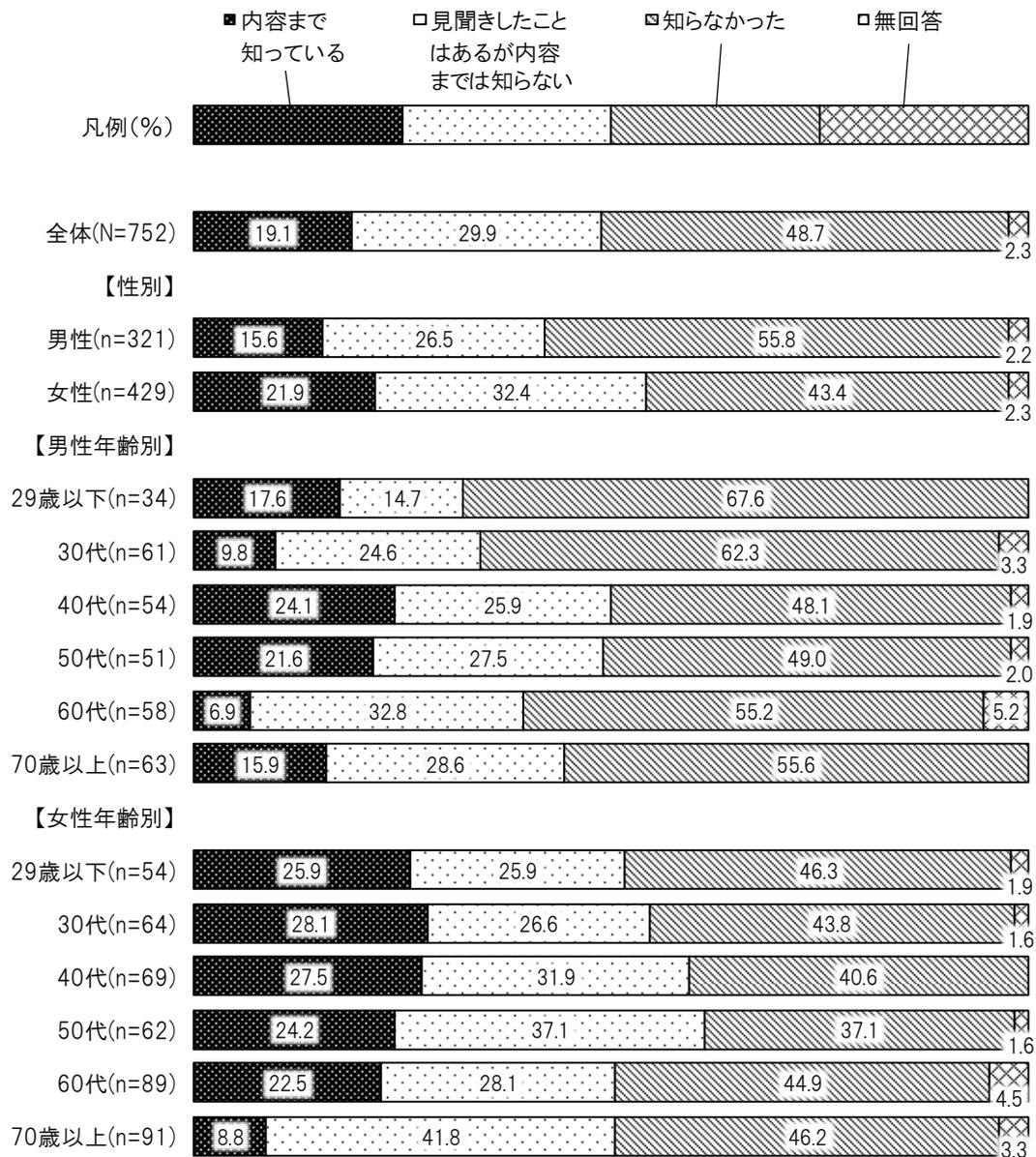
4 パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度の認知

問 35 あなたは令和4(2022)年4月から本市が導入している「パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度」を知っていますか。(○印1つ)

パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度については、「内容まで知っている」が19.1%、「見聞きしたことはあるが内容までは知らない」が29.9%、合計で49.0%となっている。一方、「知らなかった」は48.7%となっている。

性別では、男性は「知らなかった」の割合が女性を大きく上回っている。

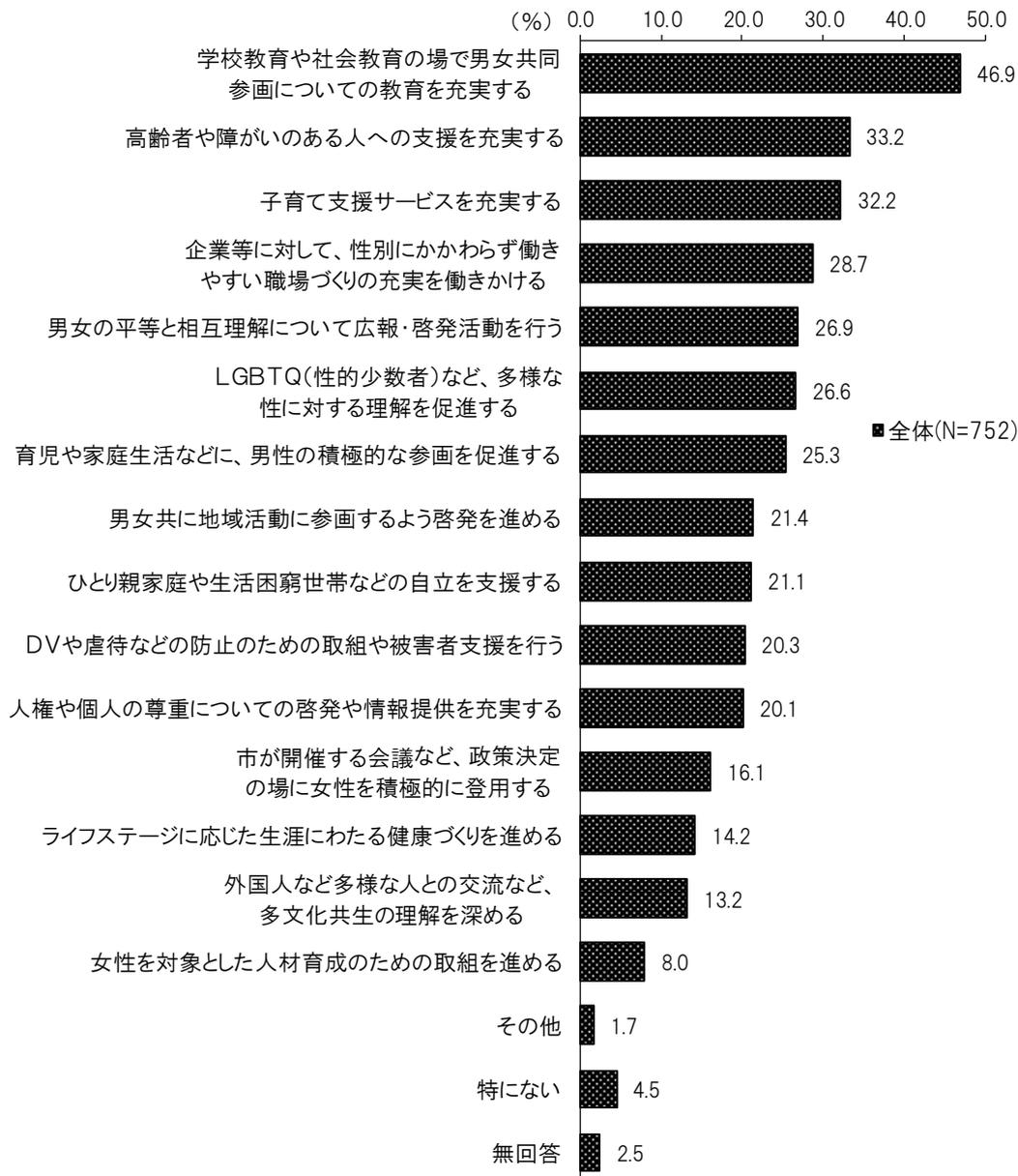
年齢別では、男性の30代以下で「知らなかった」の割合が他の年齢層に比べて高くなっている。



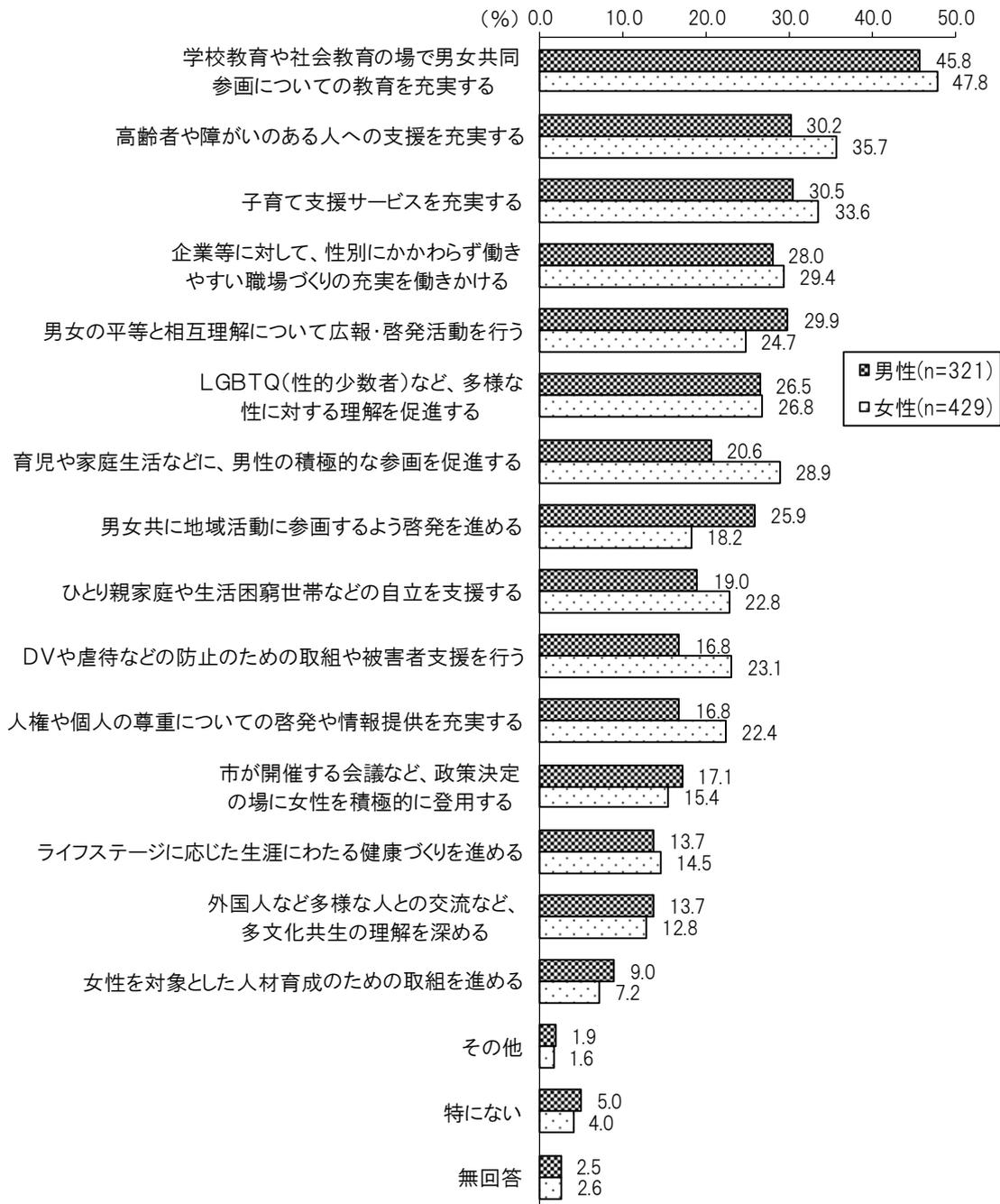
5 男女共同参画の推進に市が力を入れるべきこと

問 36 あなたは、男女共同参画を積極的に進めるために、本市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（○印5つまで）

男女共同参画の推進に市が力を入れるべきことについては、「学校教育や社会教育の場で男女共同参画についての教育を充実する」の割合が46.9%と最も高く、次いで「高齢者や障がいのある人への支援を充実する」（33.2%）、「子育て支援サービスを充実する」（32.2%）、「企業等に対して、性別にかかわらず働きやすい職場づくりの充実を働きかける」（28.7%）の順となっている。



性別では、男性は女性に比べ「男女の平等と相互理解について広報・啓発活動を行う」「男女共に地域活動に参画するよう啓発を進める」の割合が高く、女性は「高齢者や障がいのある人への支援を充実する」「育児や家庭生活などに、男性の積極的な参画を促進する」などの割合が男性を上回っている。



女性の年齢別では、30代で「子育て支援サービスを充実する」「育児や家庭生活などに、男性の積極的な参画を促進する」の割合が他の年齢層に比べて高くなっている。また、若い年齢層ほど「LGBTQ（性的少数者）など、多様な性に対する理解を促進する」の割合が高く、おおむね年齢が上がるほど「学校教育や社会教育の場で男女共同参画についての教育を充実する」の割合が高くなっている。

単位 (%)	育男女学校 を女共教育 充実参画や する社会に つ教育の場 で	の高 支援者や障 がいのある 人へ	する 子育て支 援サービ スを充 実	く か わ ら ず 働 き や す い 職 場 づ か	企 業 等 に 対 し て 、 性 別 に か	男 女 の 平 等 と 相 互 理 解 を 行 う つ	解 を 促 進 す る	L G B T Q （ 性 的 少 数 者 ） に 対 す る 理	性 育 児 の 積 極 的 な 参 画 を 促 進 す る	男 女 共 に 地 域 活 動 に 参 画 す る	帯 ひ と り の 親 家 庭 や 生 活 困 窮 世	う め の 取 組 や 被 害 者 の 支 援 を 行 う
全体(N=752)	46.9	33.2	32.2	28.7	26.9	26.6	25.3	21.4	21.1	20.3		
【女性年齢別】												
29歳以下(n=54)	35.2	29.6	48.1	31.5	18.5	44.4	31.5	14.8	22.2	29.6		
30代(n=64)	43.8	28.1	50.0	32.8	18.8	42.2	53.1	12.5	15.6	26.6		
40代(n=69)	50.7	24.6	31.9	27.5	18.8	33.3	29.0	17.4	21.7	29.0		
50代(n=62)	54.8	41.9	21.0	29.0	32.3	25.8	30.6	17.7	22.6	24.2		
60代(n=89)	58.4	43.8	31.5	29.2	30.3	19.1	16.9	20.2	25.8	19.1		
70歳以上(n=91)	40.7	40.7	25.3	27.5	26.4	8.8	20.9	23.1	26.4	15.4		

単位 (%)	る の 啓 発 や 個 人 情 報 の 提 供 を 充 つ 実 い す て	に 登 用 す る 場 に 女 性 を 積 極 的 政	策 が 開 催 す る 会 議 な ど 、 極 的 政	市 が 開 催 す る 女 性 を 積 極 的 政	め に わ た る 健 康 づ に 応 じ た 進	ラ イ フ ス テ ー ジ に あ ら わ せ る 進	を 深 め る 多 文 化 共 生 の 理 解	外 国 人 な ど 多 様 な 人 と の 交	の 女 性 を 対 象 と し た 人 材 育 成	そ の 他	特 に な い
全体(N=752)	20.1	16.1	14.2	13.2	8.0	1.7	4.5				
【女性年齢別】											
29歳以下(n=54)	18.5	20.4	11.1	14.8	13.0	0.0	1.9				
30代(n=64)	12.5	15.6	3.1	15.6	10.9	1.6	6.3				
40代(n=69)	20.3	13.0	18.8	14.5	10.1	5.8	5.8				
50代(n=62)	24.2	12.9	12.9	9.7	4.8	1.6	0.0				
60代(n=89)	34.8	12.4	12.4	14.6	3.4	1.1	2.2				
70歳以上(n=91)	19.8	18.7	24.2	8.8	4.4	0.0	6.6				

【7】自由記述回答集約結果

問 37 観音寺市の男女共同参画を推進するための取組について、ご意見やご要望などがありましたら、自由にお書きください。

男女共同参画について、意見・要望等を自由記述方式で尋ねたところ、以下のような意見がみられた。なお、自由記述については、誤字等の修正を除き、原文に基づいて掲載している。

1 人権が尊重される社会の実現・意識づくりについて

- ・差別と区別の認識をしてもらう。(男性 30 代)
- ・男女という表現をするのではなく、一人一人に焦点を当てた表現をすべき。(男性 30 代)
- ・詳しいことはあまり分かりませんが、真のジェンダー平等が実現できれば、性別問わず全員に利益が得られると思います。逆に市外や発展途上国に向けて発信、行動することも必要になるかと思います。様々な地域、国と連携をとる取組もできればなどは思います。(男性 30 代)
- ・男女共同参画と少し離れるかもですが、ホームレスの男女率はなぜか男性が圧倒的に多いですし、数十年間の日本の男女の所得推移は女性だけ伸びているし、ひとり親に関しても女性親は男性親に比べて、支援が豊富に感じます。女性優遇されている点も何かしらあるのではないかと思います。(男性 30 代)
- ・歴史、伝統、文化等で平等ではいけないこともある。(男性 30 代)
- ・男性と女性は特性が違うと思っている。お互いの良い点を発揮できればよいことであり、無理に平等平等というのは違うと思う。平等というのであれば、女性も引越し業務の力作業や深夜勤務ありの3交代、3Kと呼ばれる仕事もするべきということになる。男性だけ劣悪な環境で働き、女性は事務作業というのは男女差別では？屁理屈ではなく、平等とはそういうことであると思う。(男性 30 代)
- ・私個人の意見としては、男性と女性で担えることが違うため、最低限の役割分担、格差は発生せざるを得ないと思っている。しかしお互いが男女の違いや特性を理解し、尊重し合っていれば、男女共同参画などと謳わなければならない事態になっていなかったと思う。要は常日頃から感謝の気持ちをお互いに持っているかということである。男性は女性に感謝しておらず、逆も然りであるため、男女平等と叫んでいるのである。おそらく「男女平等」と言い出した人物は、感謝を受けずに過ごしてきたのだと推測する。(男性 30 代)
- ・自分の中の常識で人をはからず、いろんな人がいることを全ての人が理解すれば、問題はなくなると思う。男性だから…、女性だから…、昔は…、今の人…などと、自分の中で決めつけているだけで、「多様性」に注目すれば、争いや妬み、偏見等の問題や心配ごとはない。(女性 30 代)

- ・国や県、ほかの地方自治体等がこのようなことをしているから、こういう政策だから…と真似するように同じようなことをするだけではよくないと思う。男女それぞれの考えを聞くことはもちろんだが、男でも女でも考え方、価値観はそれぞれで、Aの人を生きやすくするために取り組んで来た結果、今までは普通に生きやすかったBの人たちが生きづらくなったなどにはならないよう、気をつけていただきたい。男女の差別は絶対によくはないが、区別はあっていいと思う。脳や身体づくりが元々違うのだから、同じようにしようとしてもできないことはある。男だから女だからではなく、その「個人」には何が向いているのか、それを優先することが大切。「男だから…女だから…」「男らしく」「女らしく」など、そういうものは別になくそうとしなくていいと思うし、あってもいいと思う（性別に関係ないことはなくすべきだが）。ただ、「私は男だけど、女らしいことがいいんです」など、本人も気楽にカミングアウトできる、そして、聞いた人も「そうなんだ！いいね！」と受け入れることができる、そういう教育は大切だと思う。「持ちつ持たれつの支え合う社会」になってほしい。（女性 30代）
- ・学校や施設等では男女共同参画や男女平等、LGBTQなどの教育は行われているが、その意識が変わらないのは、それに興味を持たない大人や年配の方々。何かの企画と抱き合わせでハラスメントをなくす（ハラスメントだと知らしめる）機会を与えないと、自分からそれを知ろうとも改善しようと思わないと思う。無意識・無関心の人をどう巻き込み、意識改革するかが課題ではないかと思う。相談窓口は、メールやチャットを利用したり、匿名も可とすることで相談しやすくなるのでは？（されていたら、無知ですみません。）（女性 40代）
- ・観音寺で生まれて、県外で長く暮らして戻ってきましたが、やはり、ここにはこの良い所がたくさんあると改めて認識したと同時に、都会で長くいた習慣からすると、不安に思ったこともたくさんあります。このような計画はとても素晴らしいことだと思うと同時に、高齢者がたくさんいる観音寺市で、LGBTQや女性にもっと！という流れになることは、まだまだ時間がかかると思います。現在就学している子どもたちは、SNSや様々な媒体を通じてこれからの時代に寄り添うことができるので、性の壁も薄く低いものかもしれません。子育て世代の人たちも、子どもを通じてとか、自身も様々な媒体を通じて受け入れる姿勢は増えてくると思います。おそらく、いわゆる昭和生まれの世代、その世代の親世代の人々の理解がもっともっと広まれば、何か変わるようなそんな気がします。偉そうなことをたくさん、すみません。観音寺市大好きです。これからも住みやすい環境でありますよう、よろしくをお願いします。（女性 40代）
- ・以前、弁護士相談に行ったとき、担当が高齢の男性の弁護士だった。最初から人を見下したような態度で、セクハラに感じるようなことを言われた。相談を受ける弁護士の言動とは思えなかった。二度と利用したいと思わなかった。もっとそういう“イヤな思い”をした言葉とか意見が市の担当の方に届くように工夫してほしい。自治会の集まりにおいても、若い人や女性が意見を述べられる雰囲気はないと思う。参加する気にもならない。自治会長は何が偉いんだろうか？何でも“年齢”とか“男”だからというだけで決めていて、不愉快だ。（女性 50代）
- ・男女平等は難しく思う。（女性 50代）

- ・男女に限らず、幼児、高齢者、障がい者、LGBTQ等、みんながありのままで受け入れられる社会であってほしいと願い、私もそうありたい、あろうとしていきたいと思います。(女性 50 代)
- ・男女平等のための過剰な女性支援はどうかと思う。能力を向上させたときに、平等にその能力が発揮できる場所を女性にも与えてほしいと思う。平等を唱えるなら、私のまわりでよく目にする父子家庭にも目を向けてほしい。(女性 60 代)
- ・別姓婚を認める社会も必要ではないですか！(女性 60 代)
- ・男女共同参画社会づくりを進めていくことに、賛成です。学校でも社会でも差別と人権が無視されています。もっと話を聞いてくれる人も必要です。(女性 60 代)
- ・高齢者も男・女も子どもも障がい者も協力し合い、助け合える社会になるといいと思います。それぞれが横のつながりの中でお互いに尊重し合って社会のためにできることをしていく、家庭を大事にしながら外の世界に飛び込んでいく。そういう機会をつくってほしいです。(女性 70 歳以上)
- ・若い人の中では、男女平等が進んでいると思うが、年配の男性はまだまだで、考え方を考えるようにしなくてはと思います。まずは政治家だと思っています。(女性 70 歳以上)

2 男女共同参画に関する広報・啓発について

- ・男女共同参画という言葉そのものが大枠すぎていて、詳細の理解がしづらいと考えます(今回のアンケート)。そういった言葉より、ハラスメントやパートナーシップ制度等、詳細な言葉を用いたほうが、受け入れが早いかもしれません。(女性 20 代)
- ・市の取組として何をしているのか周知してほしい。(女性 20 代)
- ・男女平等と男女共同は違うと思うので、教えてほしい。(男性 30 代)
- ・以前、共同参画のイベントでピアノ演奏や、観音寺で活躍する女性のビデオを見たりしたけど、それから何も変わってないと思う。市も自分も。(女性 40 代)
- ・そもそも男女共同参画が何をしているのかが、分からない。(女性 40 代)
- ・市役所などで啓発の展示が行われているのを目にするが、内容がルーティン化していて訴求力に欠ける。市民に足を止めて見てもらえるように、もっと工夫が必要と考える。(男性 50 代)
- ・年代別で広報・啓発活動を行う。今からの世代と今までの世代の考えや意見を互いに知ることができるような活動を、参加しやすい形で行う。ただ話し合うとか話を聞くとかでなく、イベントをしながらなどで。学校等では話題提供的な活動をして、子どもたちから家庭で話せる、親子もしくは3世代で話せるきっかけになるとよい。(女性 50 代)
- ・いろいろな意見・考え方があると思います。完璧な事柄、内容を作成することも大切ですが、少し内容を分かりやすくして、レベルの低い自分でも参画できるようにもっていく方向も考えてほしい。(男性 60 代)
- ・仕事、家庭等で時間に追われることが多く、地域の集会、イベント等への参加は苦痛である。しかし参加した後によかったと思うこともあるので、イベント、広報内容等をもっとよくすれば、参加者が増える可能性もあると思います。住みやすい街づくりを期待しています。がんばってください。(女性 60 代)

3 子育て支援の充実について

- ・今は何でも値上がりをし、その反面で給料は上がらない。子どもにかかるお金も上がっているの、子育て支援をもう少し手厚くしていただきたい。仕事と保育料との兼ね合いもある中、支援が少ない。（女性 20 代）
- ・女性が働くことが多い職（幼・保）の人への支援をしっかりとしていけば、子育て支援にもつながると感じる。（女性 20 代）
- ・保育所等子どもを預けられる所の充実。職場での育休を取りやすくしてほしい。（女性 20 代）
- ・子ども支援を増やしてほしいです。（男性 30 代）
- ・観音寺市の子育て支援は手厚く、大変感謝しています。未来を担っていくのはいつの時代も子どもたちであるため、これからも子育て支援は手厚くお願いいたします。（男性 30 代）
- ・幼稚園、保育所の受け入れ人数を増やしてください。働きたい人が働けていません。生活にも影響して、生活しづらい街だと感じます。（男性 30 代）
- ・子育てを実際にしている身として、観音寺はとなりの三豊市や善通寺市と比べて子育て世帯に優しい街ではないと感じる。それは観音寺市で暮らしたい、働いていきたいと思わないことにつながると思う。子どもを育てることに優しい街でなければ、女性の更なる社会進出は無理だと感じる。もっと子どもを育てる世帯に魅力的に映るような支援・サービス・保育所（幼稚園施設）の充実が、観音寺に住みたいと思う人々を増やし、ひいては女性の更なる活躍につながると思っている。もっと子育てしやすい、子どもを育てる世帯が喜ぶ街にしてください！（女性 30 代）
- ・フルタイムで共働きをしており、現在妊娠中です。将来子どもを持った際には家庭との両立に不安があります。同僚（男性）が終業後、毎日慌ただしく保育園のお迎えに向かうのですが、聞いたところ保育園に延長保育制度がなく、必ず 18 時までにお迎えに行かなければならないとのことでした。仕事をしている以上、責任もあり、共働きの場合は母親、父親いずれもが 18 時までにお迎えに行けない日も出てくると思います。ですので、できれば全ての保育園、こども園で延長保育制度の導入をお願いしたいです。（女性 30 代）
- ・地域子ども子育て支援事業の一つに「ファミリーサポート事業」がありますが、この事業についてあまり知られていないのではないかと思います。「えがお」や広報誌等で啓発活動もされているようですが、保育園、こども園等でお知らせするなど、まず事業内容を知らせることが必要と思います。子どもの預かり、送迎等、働くお母さんお父さんにとって、ずい分助かるのでは？その際の利用料金ですが、全くの無償となると提供会員にとって責任あることなので、今の料金は維持しつつ…。依頼会員にとっては、長時間となると負担が大きくなるので、市または県（国）から半額程度の補助金があれば預けやすいと思いますが…。検討していただければ、ありがたいです（ファミサポ提供会員の一人です）。（女性 60 代）

4 職場での男女共同参画について

- ・女性が出産後も働けるような環境を整えてほしいです。（女性 20 代）
- ・（男女ともに）年功序列ではなく、能力で評価、キャリアアップさせてほしい。（女性 20 代）
- ・仕事の場においては、男性が適する業務内容もあれば、女性が適する業務内容もあるため、男女の差をつけるべきといたいわけではないが、一定程度の男性が多くなる職場、女性が多くなる職場が分かれてしまうのは、適材適所の面からみても仕方ない部分がある。（男性 30 代）
- ・雇用面に関しては昔に比べて性差はほとんどなくなっていると感じます。（男性 30 代）
- ・賃金の差はリスクの差であると思う。どうしても男性のほうが体力はあるので、多少ハードな業務もこなせるのは当然であり、そのため格差が発生するのは仕方のないことである。ただし、純粋に業務に対する対価が相応かという点は考えるべきである。（男性 30 代）
- ・結婚、出産等で、女性が仕事から家庭に重点を置かなければならない。男性は仕事をしなければならぬ。完全に平等にはならないと思う。ただ女性の管理職を増やせば平等だということではない。リモートワークの普及など、男性も女性も負担が減るような取組をしてほしい。（女性 30 代）
- ・女性が仕事において、やりがいを感じ、責任を持って仕事をするようにする必要がある。女性の意識が低い。（男性 40 代）
- ・女性は出産育児でどうしてもキャリア的に足踏みをしないとイケない数年間が発生してしまう。女性は育休から復帰しても、急な発熱などで保育園から呼び出され、満身に仕事に取り組めないの、一生懸命仕事をしていても評価は前年度と横ばいで悔しい思いをする。その間にも男性は着実にキャリアを積めるわけで、そこで給与面や昇進面でも差ができてしまって、女性としては悔しいです。（女性 40 代）
- ・職場での男女共同参画は、職種により難しい所があると思いますが、完全に男と女を分けることは絶対にしてはいけないことだと思います。（男性 70 歳以上）

5 家庭生活での男女共同参画について

- ・子どもが育てやすいように、明石市のような取組をしてほしいです！どうしても仕事と子育て、家事でいっぱいになっています。例えば、妊婦のときの母親学級をシングルマザー部門と両親部門で分けて、両親のほうは、ほぼ強制にして父親の自覚、家事の分担を身につけてほしいです！（女性 20 代）
- ・企業に対して男性が休みやすい空気づくりに成功しないことには、男女共同参画は話にならない。（女性 20 代）
- ・家庭においては、出産は女性にしかできない時点で、女性のほうが遥かに優位であると思っている。男性が出産できなければ平等は叶わない。つまりその時点で男女平等は達成し得ないと思う。男性はその点を尊重しつつ、役割分担を夫婦間で話し合っ決めて決めることが大事であると思うし、私の家庭ではお互い尊重し合い理解している。（男性 30 代）

- ・男女関係なく育休をとりやすくしてほしい。母親だけが育児を全て背負わなくていいようにしてほしい。育休復帰後1年間は、時短で働けるようにしてほしい。女性は特に家庭と仕事の両立に悩む人が多いので、男女とも同等に家庭と仕事のことを分担できるようにしてほしい。（女性30代）
- ・古い考え方もかもしれませんが、男女共同参画の推進といっても、基本的には男性は男性の、女性は女性の特性（男性は主に仕事、女性は主に家庭）があり、それを無視してよりよい家庭・社会は生まれないと思います。特に子どもが小さいうちは、母親の家庭での役割は大きいので、まず女性が働きやすい職場の環境づくり（休みがとりやすい、残業がないなど）と、男性も補佐的な協力でよいので少しでも家事育児の助け、理解ができるよう、育休を取りやすくする。残業を減らすなどの現実的な見直しが必要だと思います。（女性30代）
- ・男性も当たり前のように、母親が子どもの迎えや子どもの介護をすることを考えている。都度、平等にどちらが対応するかなど話し合いをするようにするとよい。保育園でもまだまだ母親が子育てするのが当たり前という風潮がある。保育園等でも、男性に育児がいかにも大変で重要かという発信をしたらいいと思う。（男性40代）
- ・女性が家事・育児、夫の親の介護をするのが当たり前という考えがある限り、女性が社会に出て働き続けるのは難しいです。高齢者、障がい者、子育て等の支援サービスの充実が必要だと思います。（女性50代）
- ・昭和生まれの人は育った環境もあり、「女だから」といった意識が強い。家事、育児、介護等は女の仕事と思っている。男女で協力することの啓発活動を行ってほしい。（女性60代）

6 男女共同参画に関する教育・学習について

- ・私はこれらの教育を会社で受けているが、多くの人はこのような教育を受けていないと思うので、会社で教育を義務化するような、強制的に学べる仕組みをつくるべきだと思う。（男性30代）
- ・男女共同参画を進めるにあたり、男女の平等、相互理解は全体に大事で、小学生のころから優しい言葉で教えてやり、人間としてやさしさと相手を思う心を世界に伝える役割を学ばせてほしい。戦争のない人間らしい生活を望んでも、いつまでも男社会では戦いの日常になると思う。より一層の生活向上を望み、とても厳しい社会を乗り越えられる政治をお願いします。（男性40代）
- ・三豊市のように、中学生にジェンダーレス制服を「早急に」導入してほしい。三豊市が羨ましくすぎる。（女性40代）
- ・学校教育で、また高齢者に対して、もっと啓発活動をしたらよいと思う。（男性60代）
- ・男女の固定的役割分担意識は、高齢者に根強く残っていると考えるが、意識改革は大変難しい。子どもや若者に正しい知識を与えられるような取組が望まれる（例えば、学校教育現場への働きかけ、ワークショップなど）。教員任せにせず、市の担当者が直接アプローチする。（女性60代）
- ・今回のアンケートを通して、男女共同参画に関して考えることができたので、学校教育の場で、子どもたちや保護者等も実施してみてもと思った。（男性70歳以上）

7 LGBTQ(性的少数者)等多様な性に対する理解の促進について

- ・LGBTQ推進を逆手に性犯罪が増えている傾向がある。(男性 30代)
- ・LGBTQについて、そういった人々を卑下しないことは当然ですが、昨今は過剰に取り上げすぎかと思えます。(男性 30代)
- ・LGBTQの当事者ではありませんが、だからこそ観音寺市がパートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度を導入した際は、LGBTQの方たちの力になれる気がして嬉しく思いました。(女性 30代)
- ・パートナーシップ、ファミリーシップ宣誓制度の導入について知りませんでした。導入してみた成果をまた何かの機会で教えていただきたいです。(女性 30代)
- ・現在国政においては、左派野党及び自民党の稲田朋美議員等によるLGBTQに関する政論がかまびすしいが、「トランスジェンダー」と「性自認」は全く違ったものであり、これを意図的か否かは置くとしても、敢えて混同して報道し、またそのように政策議論を行っているとしたら考えられないという恐ろしい状態にあると喝破する。既にそれらが成立してしまった欧米では、これまではまず発生し得なかった、恐るべき性犯罪が頻発しているという現状から見ても分かる通り、これらの法律は「根底から社会を破壊する」極めて危険なものであるといわざるを得ず、翻って、それは現在欧米がそうなっているように、更に凄惨な、女性への性的被害の著しい上昇を招くだけの愚行である。つまり現在国政において議論され、メディアで流布されている。LGBTQ議論の大半は、単に新たな人権侵害を生むだけの「超絶の悪法」に過ぎないのだという認識は、正しく情報を収集し分析する能力がある者にとっては、最早議論以前の「常識」であるといえる。つまり、「性自認」や「性流動性」は、社会・常識破壊のイデオロギーに利用されており、その根底に実は「新マルクス主義が存在する」という言論は、既に欧米のメディアでは、普通に報道されている事実である。それら「誤ってしまった先達・先例」を見てもなお、我が国でそれらを推奨しようとする者たちは、それら欧米での事実を全く知らない著しい情報弱者か、むしろ国や社会の破壊を目論むこと自体が目的の、マルキスト・アナキストであるといって差し支えないであろう。この男女共同参画に関するアンケートも同様なことがいえるが、そもそも「マイノリティが善、マジョリティが悪」といった、拝火教的または善悪二元論的な実に子ども染みた議論を、経験も知識量も豊富なはずの大人がやっているという時点で、一度よくよく世界を振り返って見てはいかがか？と言いたくもなる。近年自民党の部会でLGBTQの方々を呼んでディスカッションが行われたが、それに参加した議員の言によると、それらの団体の人々は「特別目立ちたくないの、法制化するなどして大事にしないでくれ」という意見がほとんどだった、との話である。また「典型的なLGBTQ(優遇)推進者」として、日本共産党候補者「小池めぐみ」氏の名前を挙げておくので、Twitter等での彼女の発言を参照することを推奨しておく(削除済みの発言も含めて閲覧することを、強く勧める)。小池めぐみ氏は、これらの法制化を断固として進めようとする勢力がどういう人格の者たちなのか、またもし実行してしまったら日本が一体どういう社会になるのか、親子関係がどう変容してしまうのかの、とても良い指針になっている人物である。(男性 40代)

- ・大人が言葉で言うのは簡単だけど、勇気を出して子どもが（LGBTQを）発したときに、受け止める環境がないように思います。制服のあり方は、ほかの地方とっしょにできないのか。観音寺は遅れています。（男性 60 代）

8 政策・方針決定過程への女性の参画について

- ・このアンケートも含め、昨今のニュース等では、単純に管理職や経営陣の女性率を上げることがをさも良いことだとしているように感じます。しかし、男女関係なくやる気のあつる優秀な人がやれば問題ないと思います。（男性 30 代）
- ・政治の場に女性視点の意見を取り入れることは賛成である。男性目線のみ政策では足りない部分が多いと感じる。議員等、政治家の男女比率は考えるべきである。ただしそこに手を挙げる女性がどのくらい存在するかという問題はある。ここも、議員＝男性という先入観が払拭されるべきだと考える。男女お互いに抱えている可能性がある。（男性 30 代）
- ・それぞれの能力の評価が大切。能力を認めないのが問題。能力に男女はない。これから始めないと、何も進まない。議員、男女比率もなぜ数値化するのか分からない。男 0 : 女 100 でも、能力があればそれでいいのでは？男女共同参画、これをいつている以上、「差別しています」と言っているのと同じ。（男性 40 代）
- ・役場での各種委員や地域の役職について、積極的に女性の選任を図ること。このため子育てや家事の女性の負担を軽減するため、男性の考え方が重要となる（次第にこのような社会に向かいつつあると思われる）。（男性 70 歳以上）
- ・市議会議員でも 20 人中 4 人の女性議員が選出されたが、男女比 5 : 1 で圧倒的に女性議員が少ない。人口は女性のほうが多いのに結果は 5 : 1 である。男女共同参画ということは、1 : 1、5 : 5 であるべきではないかと思う。まだまだ地方では男性優位社会であると思う。70 歳のこの年齢で何を語っても無理な気はするが、若い人たちには、もっともっと男女が五分五分に渡り合える時代がきてほしいと思う。アンケート依頼に感謝します。（女性 70 歳以上）

9 地域社会での男女共同参画について

- ・私が住んでいる地域の自治会では、体協で婿養子では役員になれないという決まりがあるようです。ジェンダーレスや、男女平等を当たり前に行っている時代でした。このような考えは間違えていると私は思います。観音寺市ではそのように推進しているのですか？ホームページ等がかまいませんので、ぜひ回答してください！（男性 30 代）
- ・自治会の活動、八幡宮の活動は、まだまだジェンダーレスとは、かけ離れたものとなっていると思います。自治会長二男、百々手二男、おちごさん二女等、昔のしきたりのまま残っています。全体的な啓発活動や広報活動だけではなく、身近なところから見直していけるような工夫が必要だと感じています。学校においては、制服等見直しが進んでいますが、地域とのギャップが大きいと感じています。（男性 40 代）
- ・秋祭り等男性文化で成立している行事で身近なものの女性の参加を積極的に働きかけ、文化を醸成していく。身近で観音寺市のシンボルといわれることから変えていく。（男性 50 代）
- ・地域の活動は、男女共同参画を完全にできると思っています。（男性 70 歳以上）

10 困難を抱える人への支援について

- ・ひとり親家庭の人が生活しやすく、働きやすくするべき。なんらかの理由で困っている人が相談しやすく、頼れる、逃げられる場所、気軽に行ける場所が必要。（女性 20 代）
- ・ひとり親だけが優遇されていると思う。両親がそろっていても、共働きでも裕福なわけではない。今は、シングルマザーのほうが楽な暮らしをしている人が多い。家族仲良く暮らせば暮らすほど貧困になっている気がする。（女性 30 代）
- ・私は障がい者ですが、観音寺市は障がい福祉が非常に遅れている。取り組んでいない。大きな市等の取組を勉強していただきたいと思う。いろいろな支援制度があっても聞かないと教えてくれないから、情報を知らないままです。市はどのような障がいを持った人がどれくらいいて、障がいに応じた対応、サービスをしていますか？京都・大阪・神戸にいましたが、福祉サービスや対応はとても良かったです。（男性 40 代）

11 その他アンケート内容等について

- ・男女が話をしやすい場をつくる。（男性 19 歳以下）
- ・ブラック企業が多すぎるので（私の会社も含め）、女性にとっては大変である。企業がもう少し働き方を変えるべきだし、給与も上げるべきである。例：私は家に持ち帰り、仕事をしている（給与はでる）。兄は、ボランティア残業をさせられている。これでは、若い人たちが男女共同という以前の問題だ。（女性 20 代）
- ・アンケートの問の数が多い。アンケートに協力したくなくなる。（男性 30 代）
- ・活気のある町になることを願います。（男性 30 代）
- ・性別による身体の特徴上、避けられない能力差もあると思います（出産や育児、力仕事など）。ゆえに適材適所で生活していくのがよいと思います。（男性 30 代）
- ・もっとやらなければいけない市政はたくさんあるかと思えます。観音寺駅の高架駅はぜひしていただきたいです。（男性 30 代）
- ・私は観音寺が好きで、良いと思います。いつも三豊市は先へ先へと進んでいるのに、観音寺は、なかなか前に進んでいません。佐伯市長もがんばっていると思うし、市議会議員（石山秀和さん）もよく相談にのってくれて、力になってくれます。ありがたいことです。地域が少しでも良くなるように努力していただきます。市議会から 3 人も県議会議員に出馬するそうですが、大丈夫なんでしょうか？ 3 人の候補者は、観音寺市のために観音寺市議会の選挙に出たのでは？ もっと観音寺を愛する人に出馬（観音寺市議会議員選挙）してほしいです。我がふる里観音寺、高齢者の方が住みやすい街にしてほしいです。（女性 30 代）
- ・日本という国自体が単一民族、島国という特性があり、同調圧力が強く、多様性の受け入れが非常に遅れていることに危機感がある。街中でも外国人の方たちが自転車で行き交う姿を見掛けるが、彼ら彼女らが人並みの生活をこの地に根付いているのか？ も考えさせられる。性別も大切だが、ひとり親、障がい者、外国の方々、難民、ヤングケアラーをはじめ、人口減、観音寺への移住の勧めなど、広く細やかな視点で課題を挙げ、施策を着実に一步一步進めていくことが大切だと思います。更に魅力的な街となるよう願っています。（男性 40 代）

- ・おもわず参加したくなるような町をあげての取組を、インスタでも情報拡散すれば男女関係なく参加すると思います。ちょうさ祭りや夏祭りは、あくまでもお祭りとしてなので、市民団体の参加を促すイベントやフードキッチンカーのイベントなど、他県を参考にしたいかがですか。（女性 40 代）
- ・このようなアンケートを目にして改めていろいろと、考えることができました。またこの機会に身近な人と、話し合ってみようと思いました。（女性 40 代）
- ・男女共同参画といっても、年齢によって様々。特に田舎ほど、高齢男性がマナーもなく、近所迷惑だったりする。そんな迷惑男性の孫がこれまた迷惑で、その孫の親は働いていることを理由に知らん顔。男女平等に働けるのはいいかと思いますが、子どもの教育、世間のマナー、ルールを誰が教えるのですか？ちなみに、近所の人が悪さをする孫を注意すると、爆音トラクターや爆音掃除機、狙い撃ちのようなドア閉め（爆音で）、窓閉めをされていたりして、大変困ります。日常生活においての近所からのパワハラ、モラハラ、どうしたらいいですか？以前、民生委員の方に相談しましたが、その方も報復を恐れて、「何もできない」と言っていました。（女性 40 代）
- ・小さな子ども、お年寄りだけでなく、市民全員が平等に恩恵を受けられるようにしてあげてほしい。コロナのときの子育て世代だけの特別手当じゃなくて全員に…。難しければ、市民税で減額とか世帯主に手当等とか、インフルエンザやB型肝炎のワクチン無料とかもしてほしいなあ。行事に参加が難しいから、自治会に入らなくていいよう、がんばっているのに。体協の…とか、やめてほしい。（女性 40 代）
- ・バレーボールを気軽にできる環境があればと思う。（女性 40 代）
- ・問題について、啓発活動や理解の促進では進まないと思います。具体的支援の体制構築を強く希望します。（男性 50 代）
- ・全国に広がる男女共同参画には、c o l a b o 問題や赤い羽根募金問題等黒いうわさが絶えません。これらのうわさを払拭するためには、直接観音寺市が業務を行うか、ほかに外注するにしても、正しく外注要件・成果基準・成果目標・途中報告・正しい会計管理を求め、また公開すること。東京都のように黒塗り公開ではだめだということです。お題目は金の額縁で飾られたものでも、中身が国・県・市・町・村から税金を巻き上げるような内容では納得できませんので、組織づくりにはご注意ください。もし、もうNPOができているのであれば、必ず注視するようにお願いします。また、男女共同参画とは日本において男女に差があり、不平等に女性が冷遇されているというところから生まれたものだと考えるが、世界のデータで、女性に「あなたがもし生まれ変わっても女性になりたいか」という質問にYESと答えた割合世界一は日本です。つまり日本の女性は、世界で最も女性として幸せに感じているのです。男女で科学的・生物的に差があるのは仕方がないことです。この男女共同参画がこの分野に及ばないようにすることも重要です。（男性 50 代）
- ・なかなか難しいことですが、一步一步がんばってください。（男性 60 代）
- ・男も女も自由・平等・博愛、順法の精神で。そして自己責任で強く賢く、自由に（判断や決断の自由もある）。自己決定のためには、役所が余計なことをしない。若者の啓発、教育が必要。自己責任のためには、困っている人の相談は必要だが、過保護の線引きを。国連やキリスト教、G7合意はご都合主義だ。市は強く、賢くリード。強く、賢く、透明公正に。（男性 70 歳以上）

- ・男女共同参画によって、家庭や家族、子どものことが疎かにならないか、一番小さな子どもたちが影響を受けないか心配する。親が安心して子どもを見られる（育てられる）社会を目指していただきたい。（男性 70 歳以上）
- ・もっと具体的な個人の意見を書いてもらう内容にしていったらいいと思う。（男性 70 歳以上）
- ・アンケートをするだけに終わらず、それを集計して、どうしていくかを考えて実行に移し、少しでも改善されたら意味のあることだと思う。ただ、アンケートを実施した、集計しただけにならないようアンケートが活かされるようにお願いします。（女性 70 歳以上）